第１６回キャリア教育
優良教育委員会、学校及びＰＴＡ団体等
文部科学大臣表彰

文　部　科　学　省

第１６回キャリア教育優良教育委員会、学校及びＰＴＡ団体等の取組内容（推薦理由）
― 目　次 －

＜北海道＞
北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程 PTA ・・・ １
＜青森県＞
横浜町立横浜小学校・・・ １
青森県立八戸商業高等学校・・・ ２
＜岩手県＞
岩泉町教育委員会・・・ ３
岩手県立花巻北高等学校・・・ ４
＜宮城県＞
塩竈市立第三小学校・・・ ４
塩竈市立第三中学校・・・ ６
宮城県伊具高等学校・・・ ７
＜秋田県＞
五城目町教育委員会・・・ ９
能代市立二ツ井小学校・能代市立二ツ井中学校・ １０
＜山形県＞
村山市立西郷小学校・・・ １１
山形県立村山産業高等学校・・・ １１
＜福島県＞
福島県立いわき総合高等学校・・・ １２
＜茨城県＞
大子町立さはら小学校・・・ １３
稲敷市立桜川中学校・・・ １４
茨城県立石下紫峰高等学校・・・ １４
＜栃木県＞
宇都宮市教育委員会・・・ １５
＜群馬県＞
南牧村立南牧小学校・南牧村立南牧中学校・・・ １６
片品村立片品中学校・・・ １６
群馬県立吉井高等学校・・・ １７
＜千葉県＞
浦安市立日の出中学校・・・ １８
千葉県立特別支援学校市川大野高等学園・・・ １８
千葉県立茂原高等学校・・・ １９
＜東京都＞
三鷹市教育委員会・・・ １９
大田区立北糀谷小学校・・・ ２０
世田谷区立世田谷中学校・・・ ２１
成女学園中学校・成女高等学校・・・ ２１
東京都立八王子桑志高等学校・・・ ２２
＜神奈川県＞
神奈川県立愛川高等学校・・・ ２３
＜新潟県＞
長岡市教育委員会・・・ ２３
胎内市立中条中学校・・・ ２４
燕市立小池中学校・・・ ２４
新潟県立新潟商業高等学校・・・ ２５
＜富山県＞
氷見市立湖南小学校・・・ ２５
富山市立和合中学校・・・ ２６
富山県立富山北部高等学校・・・ ２７
＜石川県＞
石川県立田鶴浜高等学校・・・ ２７
＜福井県＞
福井県教育委員会・・・ ２８
福井市森田中学校・・・ ２９
福井県立武生東高等学校・・・ ２９
福井県立奥越特別支援学校・・・ ３０
＜山梨県＞
山梨県立身延高等学校・・・ ３１
＜長野県＞
塩尻市立楢川小中学校・・・ ３１
長野県軽井沢高等学校・・・ ３２
＜岐阜県＞
岐阜県立吉城高等学校育友会・・・ ３３
＜愛知県＞
高浜市教育委員会・・・ ３３
愛西市立開治小学校・・・ ３４
高浜市立南中学校・・・ ３５
＜三重県＞
四日市市立小山田小学校・・・ ３５
亀山市立亀山東小学校・・・ ３７
三重県立昴学園高等学校・・・ ３７
＜滋賀県＞
大津市立皇子山中学校・・・ ３８
滋賀県立長浜農業高等学校・・・ ３９
＜京都府＞
京丹波町立和知小学校・・・ ３９
福知山成美高等学校・・・ ４０
京都府立与謝の海支援学校・・・ ４０

＜兵庫県＞
丹波市立春日中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
兵庫県立太子高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２
＜奈良県＞
奈良県立香芝高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
＜鳥取県＞
鳥取県立日野高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
＜岡山県＞
矢掛町立中川小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
備前市立吉永中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
岡山県立玉島商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
＜広島県＞
福山市立新市中央中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
北広島町立大朝中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
広島県立世羅高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
＜山口県＞
長門市立明倫小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
宇部市立東岐波中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
山口県立厚狭高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
＜徳島県＞
美馬市立木屋平中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
板野町板野中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
徳島県立池田支援学校美馬分校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
＜愛媛県＞
松山市立番町小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
愛媛県立三島高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
＜高知県＞
高知県立高知農業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
＜福岡県＞
福津市立福間中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
小郡市立三国中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
福岡県立三池工業高等学校ＰＴＡ・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
＜佐賀県＞
吉野ヶ里町立東脊振中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
学校法人佐賀龍谷学園　龍谷中学校・・・・・・・・・・・・・・・・６０
＜長崎県＞
平戸市立大島中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
長崎県立松浦高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３
長崎県立諫早特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
＜熊本県＞
南小国町立南小国中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
熊本県立玉名高等学校・玉名高等学校附属中学校・・・・６５
熊本県立玉名工業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
＜宮崎県＞
串間市立有明小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
延岡市立旭中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６７
宮崎県立高千穂高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
＜鹿児島県＞
喜界町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
阿久根市立鶴川内中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
錦江町立錦江中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
鹿児島市立城西中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
＜札幌市＞
市立札幌大通高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
＜仙台市＞
仙台市立生出小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２
仙台市立将監西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２
仙台卸商センター　青年経営研究会・・・・・・・・・・・・・７３
＜さいたま市＞
さいたま市立日進中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
さいたま市立柏陽中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
＜川崎市＞
川崎市立虹ヶ丘小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
川崎市立宮内中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
＜静岡市＞
静岡市立安倍川中学校・静岡市立田町小学校・
静岡市立駒形小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
＜浜松市＞
浜松市立東小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
浜松市立東部中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７７
＜京都市＞
京都市立朱雀中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
＜大阪市＞
大阪市立野田中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
大阪市立大宮中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
＜広島市＞
広島市立阿戸小中一貫教育校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８０
＜福岡市＞
福岡市立弥永小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１

＜北海道＞（種別：団体）　北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程ＰＴＡ

取 組 概 要

社会参画意識の醸成を図る新たな地域イベント「サンセットフェスティバル」の実施

本校ＰＴＡでは、北海道教育大学附属釧路義務教育学校の教育研究「リーダーシップ・フォロワーシップの育成」を推進するため、３年前（2020 年）から、学校祭を改め、新たな地域イベント「サンセットフェスティバル」を教職員や地域の方々と創り出した。次の活動をＰＴＡが中心となり生徒と担うことで、キャリア教育を充実させるとともに、生徒の社会参画意識の醸成を図っている。

① ＰＴＡストア・屋台の運営
保護者が生徒と共に、ＰＴＡストアを運営し、公式Ｔシャツやタオル、ドリンクの販売をする。売上の一部は、次年度のフェスティバルの運営資金となる。生徒は、この活動を通して、職業観を身に付けるとともに、持続可能な社会の在り方を学ぶ。

② 地域発表のプロデュース
保護者や地域の方々、日本で活躍する卒業生等が、特設の野外ステージで発表する。生徒会役員は、企画から出演者の調整、フライヤーの作成、当日の進行を行い、学校と地域社会を繋げる役割を果たすとともに、生徒自身も出演することで、社会の構成員の一人として地域に貢献する。

③ 打ち上げ花火の実施
フェスティバルの最後には、地域への感謝とコロナ収束祈願、フェスティバルの成功の想いを込めて、花火を打ち上げる。このアイデアは生徒から出たものであり、かかる費用は、前年度のＰＴＡストア・屋台の売上金を使っている。ＰＴＡ、地域の方々、生徒全員が当事者となり、社会の形成者として意識を高める。

取組にあたっては、学校に閉じたイベントではなく、ＰＴＡや教職員、生徒、地域住民が一緒になって全員が主催者（リーダー）として、学校から新たな地域イベントを創造し、まちづくりに参画することをねらいとしている。

【ホームページ】
https://fuzokushiro2.blogspot.com/（公式ブログ（9/6～16 の投稿が該当））
https://sunsetfestival2023.blogspot.com/（実行委員会（生徒）が作成したサイト）
https://www.hokkaido-np.co.jp/article/910633/（北海道新聞の記事）

＜青森県＞（種別：学校）　横浜町立横浜小学校

取 組 概 要

1. 概要
当該校は、平成２８年度に町内４校が統合され、一町一校の小学校として開校した。統合前の各学区の協力体制を引継ぎ、子供たちの学習活動や生活体験を保護者や地域の方々が支援するプロジェクトである「ＹＥＳみんなのサポーター」が体験学習を支え、地域学校協働活動の先駆けとなった。現在では講演会、弁当の日などを企画運営し、学校・家庭・地域が連携・協働してキャリア教育を推進する体制が整備されている。
当該校では、経営の方針や重点、めざす子供像、学校像、教師像、学校経営の重点等を「ＹＥＳ！横浜小学校はぐくみプラン」としてまとめ、キャリア教育が日常の教育活動において意識化されており、２種類の「キャリア・パスポート」の計画的実践及び記録、保護者からのコメント記入など家庭との連携、職業体験活動の充実など、主体的なキャリア形成を促すことができるよう、工夫して取り組んでいる。

また、「小中連携によるボランティア活動」、地域教材を活用した総合的な学習の時間「ドリカムタイム」など、地域や郷土に対して親しみと愛着をもてるキャリア教育を実践している。

２．主な取組について

（1）「ＹＥＳみんなのサポーター」プロジェクト

「もちつき踊り」（伝統芸能）の補助、読み聞かせなどの図書ボランティアやスキー学習の手伝いなどの学習補助、ジャガイモ掘り等の農業体験及びホタテ養殖等の漁業体験を行う学校地域協働活動の補助などを行った。

（2）２種類の「キャリア・パスポート」

当該校では、県作成と学校作成の２種類の「キャリア・パスポート」を使用している。学校作成は学校行事について取り扱っており、事前事後指導を重視しており、保護者がコメント欄を通して関わる点が特徴である。

（3）小中連携によるボランティア活動

中学生と縦割り班を形成し、海岸のゴミ拾いを行うボランティア活動を行った。異年齢集団における人間関係を築こうとする態度を育むと共に、町の景観を守ることを通して勤労の貴さを味わうことを目的とした。

（4）「ドリカムタイム」（地域教材を活用した総合的な学習の時間）

経営の方針「郷土に対する誇りと愛着をもち、広い世界・輝く未来に向かい、夢をもって主体的に歩む子供の育成」が具現化され、地域教材を活用した学習活動が系統的に展開され、体験学習が重視されている。

＜青森県＞（種別：学校）　青森県立八戸商業高等学校

取 組 概 要

１．概要

当該校は、教育目標を「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成するとともに、商業教育を通して地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。」と定め、地域に根ざした地域のための商業高校であることを使命としている。

また、当該校では、キャリア教育の全体目標である「自ら学び、自ら考える力を育て、生涯にわたって学び続ける意欲を育てる。」のもと、３つの行事と３年間を通して行う課題研究を通して、身に付けたい力の２つの柱「考える力」、「コミュニケーション能力」を養い、確かなキャリアデザインをもった地元定着の人材を育成している。

校務分掌では、進路指導部と商業教育部の連携により、各行事が紐付けされることで全取組が一筋となり、キャリア形成とキャリアデザインとが一体となったキャリア教育が組織的に推進されている。

２．主な取組について

（1）３つの行事（キャリア教育重点行事）

①職場体験実習

地元企業４７社に２年生が参加し、職業体験を通して自身の職業適性や将来設計を考え、主体的に職業を選択する能力を育成し、企業人と接し、実際に仕事体験をすることにより社会人としてあるべき姿を身に付けた。

②八商バザー（地元企業と連携し地域との交流を図る店舗経営・販売実習）

全学年が参加し、勤労体験学習としての販売実習等を通して、望ましい商業人の育成を図った。地元企業と連携し店舗経営を行い、地域との交流を図りつつ、全学年が混合した班編制で経営を行い、協働性を養った。

③進路体験発表会

（2）３年間を通して行う課題研究

商業科による商品開発等、情報処理科による「八商発！郷土愛！～地域の一丁目１番地」をテーマとしたアプリ開発等を産業界と連携している。

（3）外部人材を活用したキャリア形成行事

デジタル人材定着・還流促進事業として「アプリ開発講座」を開設するなど、企業のＩＴ推進化を図れる人材の育成を図った。

（4）高大接続連携推進事業

八戸学院大学及び八戸工業大学の教授を講師に招き、高度な専門知識を学ぶとともに地域産業に貢献できる人材の育成を図った。

＜岩手県＞（種別：教育委員会）　岩泉町教育委員会

取 組 概 要

将来の岩泉町を支える人材を育成する（岩泉町を担う人材に必要な資質・能力を確実につける）という視点で、キャリア教育推進委員会を実施している。こども園・小・中・高の校種間連携を基に、各校のキャリア教育のねらい、内容等の共通理解を図りながら、岩泉町を担う子どもの育成について協働的に推進することを会のねらいとしている。年２回の開会。構成員は下記の通り。

１　委員長　　教育長
２　副委員長　教育次長
３　推進委員　　ア　事業所等関係団体
　　イ　岩泉町立小中学校
　　①小川中学校校長（推進委員代表）
　　②小学校代表校長、③各校教務主任
　　ウ　県立岩泉高等学校
　　エ　その他（関係部署、地域おこし協力隊等）

【活動内容】

１．小・中・高のキャリア教育全体計画、付けたい力、学習内容、活動等を中学校区ごとで共有し、異校種でのカリキュラムマネジメントを図る。

２．中学校の第一次産業体験、職場体験活動の実施。

令和２・３年度はできなかったが、昨年度から各校の実施時期をずらしたり、健康観察等で体調管理を徹底したりするなどして、新しい生活様式を踏まえた活動に内容を変え、実施した。今年度は、町の商工会にもご協力いただき、訪問先のリストを拡大して実施している。また、昨年度までは職場体験の事務局を小川中学校に置いていたが、各地域の教育財産を活用することや、生徒の希望に沿った活動をすることから各校で取りまとめることとした。その結果、岩泉中学校では、学校運営協議会で訪問先の相談をして、地域人材を活用するなど、昨年度までは見られなかった多様な活動が展開できた。

３　岩泉高校「kizuki プロジェクト」の発表を町内中学校での実施の調整。

【今後の見通し】

今年度から推進委員に、各校のカリキュラムを俯瞰的に捉えている教務主任に委員をお願いしている。そうすることで、各校の各学年が取り組んでいる多様な教育活動をカリキュラムマネジメントの視点で、資質・能力、内容、活動等を異校種間で連動させることをねらっている。また、修学旅行や宿泊的行事等の学校行事を、より効果的にキャリア教育の中に位置づけ、資質・能力の向上につなげることも検討している。

＜岩手県＞（種別：学校）　岩手県立花巻北高等学校

取 組 概 要

花巻北高校では、「りっぱな公民をつくる」を学校教育目標に据えて、生きていくために必要不可欠な「主体的に人生をデザインする力」、「課題発見・課題解決に貢献できる学ぶ力と人間力」を身に付けた、時代の変化に対応し未来を創るリーダーの育成を目指している。

特に、以下の取組を通じて、生徒が夢に向かって自らデザインし、夢の扉を開く「人間力」、「学ぶ力」の育成に力を注いでいる。また、近隣の自治体・小中学校、大学、民間企業やPTA等の関係団体と連携・協働しながら、多様な学びの取組を展開しているほか、生徒・保護者からのアンケート結果の反映や、学校魅力化パートナー等の有識者から助言等をいただくことにより、継続的に取組の改善・充実を図っている。

１．スペース（宇宙）・プロジェクトの推進

宇宙時代（＝これからの社会の象徴）に求められる資質・能力を育成するため、花巻北高校卒業生が経営する民間企業や大学等と連携しながら、花巻北高校独自のミッションを持った衛星開発（2024年に打ち上げ予定）を通じて、全校生徒が参加するプロジェクト事業として取り組んでいる。

これまで、教科横断や文理融合の学び、起業家精神の育成の視点も交えながら、数度のミッション検討会を重ねたほか、衛星名決定イベント、衛星製造現場見学（茨城県つくば市）、東京大学等による講義や岩手医科大学とのタンパク質結晶生成実験など多岐に渡る取組を実施している。

２．「H×ACT（ハクト）」花北アクションの推進

花巻北高校は、岩手県探究・STEAM教育推進事業重点校の指定を受け、生徒自らが目標達成に向け計画し、実行する学びを推進している。教員は、日々の計画に対して、ICT機器等を活用しながら助言するなどして、生徒の目標達成を後押ししている。また、総合的な探究の時間を「H×ACT（ハクト）」と銘打ち、自治体や企業との連携・協働を推進、協働的な探究授業、有識者による講演会、陸前高田市等でのフィールドワーク、研究発表、論文作成等に３年間で体系的に取り組む探究活動を展開している。

３．ASMSA（米国アーカンソー数理芸術高校）との国際交流

米国ホットスプリングス市と花巻市が姉妹都市協定を締結している縁で花巻北高校とASMSAが姉妹校となっている。コロナ禍においても地元自治体と連携しながら、定期的に両校の生徒間でオンライン会議を重ねてきたほか、令和５年３月には花巻北高校から米国へ６名を派遣、６月にはアーカンソー州からASMSA生徒を含む13名が花巻北高校を訪れて、相互交流を行うなど、継続的な国際交流を通じて、グローバル化に対応できる広い視野を持った人材の育成が図られている。

以上の取組が、推薦の観点と合致し、本県のキャリア教育の充実・発展に大いに貢献している。

【学校ホームページ】https://www2.iwate-ed.jp/hkn-h/
【学校note】https://hkn-hs.note.jp/

＜宮城県＞（種別：学校）　塩竈市立第三小学校

取 組 概 要

当該校は令和４年度からコミュニティースクールが開設され「学校、家庭、地域の連携」による“チーム三小”としてコーディネーターを中心に協働教育の推進に努めている。令和４年度宮城県教育委員会より「志教育支援事業推進地区」の指定を受け、「志教育推進地区」として、塩竈市立第三中学校及び宮城県塩釜高等学校と「小・中・高が連携し、様々な交流や体験を通して、夢や志をもったよりよい生き方を探究できる児童・生徒を育成する。」ことを目的として様々な活動を行った。

【推進地区の概要】

第三中学校区は塩釜港の南面‐千賀の浦の埋め立て地および南部丘陵地帯を削った人工的な臨界市街地で、国道45号線と湾沿いに水産加工、木材、石油等に関連する産業を中心に発展してきた町である。本学区内には、市役所、消防署、郵便局のほか、税務署、海上保安部、税関等中央官庁の出先機関もある。第三中学校と第三小学校の一中一小で構成されており、児童生徒は明朗快活でありスポーツを好み、中学校における実績には伝統がある。家庭の教育に対する理解と関心は高く、学校教育に協力的である。「学力の向上」や「小１プロブレム・中一ギャップによる不登校の解消」を目的に小中学校の連携に力を入れている。具体的には、中学校の教員が小学校の英語の授業への乗り入れ授業を行ったり、児童生徒間・教員間において小中の交流活動を積極的に行ったりしている。

【取組の方針】

１．小学校、中学校及び高等学校がそれぞれの教育活動等を「人とかかわる活動」「よりよい生き方をもとめる活動」「社会での役割をはたす活動」の３つの視点から整理し、小・中・高の連携による取組を生かした異校種間の系統性・継続性を踏まえた取組を行う。

２．小学校、中学校及び高等学校が相互に連携し、社会や地域の一員として自他の役割と責任を果たすことを目的とした授業や体験活動を展開する。

３．地域の奉仕活動等への主体的な参加を通じて、保護者や地域社会との連携交流を行う。

４．小学校から高等学校までの志教育の取組や実践を通して感じたことや学んだことを記録し、小学生や中学生、高校生ならではのまとめを行い、よりよい生き方の探究活動に生かす。

【主な取組と成果】（令和４年度を中心に）

１．志教育ワーキンググループ会議

第三中学校区志教育運営会議：小中高の教員の会議に高校生が参加することにより、生徒の意見を積極的に反映させた活動を進めることができた。

２．小学生・中学生との連携活動

（１）部活動体験：小学６年生がグループに別れ、全ての部活動を見学し、第一希望の部活動を体験した。体験を通して、満足感や達成感を味わい、中学校への理解を深めるとともに中学校生活への期待を高めることができた。

（２）三小三中あいさつ運動：児童会と生徒会が連携し、「笑顔で元気に相手の目を見て」を合言葉に、心を通わせるあいさつ運動を行った。小中の交流を深め、互いに進んであいさつをする児童が増え、様々な活動に主体的に取り組む児童が見られるようになった。

３．小学生・高校生との連携活動

わくわく遊び隊：地域の方々の参画を得て、体育的活動を行った。高校生とも一緒に活動する機会を作り、子どもたちはコミュニケーションを図りながら球技等を楽しんだ。子供たちにとって安心・安全な居場所となった。

４．小学生・中学生・高校生との連携活動

（１）小学校坂道壁面装飾：中高生や保護者、地域の方の協力を得て、第三小学校坂道の壁面を装飾した。作業を通して、３校のつながりを深めると共にボランティア精神を培い、愛校心の醸成を図ることができた。

（２）アルカス塩釜：児童会と生徒会の代表者が集まり、いじめ防止のためのスローガン及び具体的な取組を考え、中学校区で実践した。スローガンをもとに中学校区で協力し責任を持って主体的に活動を進めることができた。

５．地域連携等

（１）まちたんけん：地域の商店を訪問し見学や店員に質問をする活動をした。保護者ボランティアが所々に立ち、声掛けや見守りを行った。地域と自分との関わりを考え、生活上必要な習慣や技能を身に付け、地域の人々と適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとする気持ちを高めることができた。

（２）よしこの塩竈：運動会や塩竈みなと祭に向けて、よしこの連の方々や青年会議所の方々から地域に伝わる祭りの踊りを指導をいただいた。児童が主体的に活動することで充実した活動ができ、郷土への愛着を高め、伝統の大切さにも気付くことができた。

６．その他

志教育講演会：楽天イーグルスアカデミーコーチに来校いただき、体験談を聞いたり、代表でバッティング体験をしたりした。実体験を聞くことにより、夢や目標を持つことの大切さや、それに向かって努力することの素晴らしさに気付くことができた。

＜宮城県＞（種別：学校）　塩竈市立第三中学校

取 組 概 要

学校教育目標である「心身ともに健やかで、豊かな心と自主自立の精神をもって行動できる生徒の育成―自立と貢献―」の実現に向け、高い志をもって諸活動に取り組んできた。令和４年度宮城県教育委員会より「志教育支援事業推進地区」の指定を受け、「志教育推進地区」として、塩竈市立第三小学校及び宮城県塩釜高等学校と「小・中・高が連携し、様々な交流や体験を通して、夢や志をもったよりよい生き方を探究できる児童・生徒を育成する。」ことを目的とし、様々な活動を工夫して実施した。

【推進地区の概要】

第三中学校区は塩釜港の南面‐千賀の浦の埋め立て地および南部丘陵地帯を削った人工的な臨界市街地で、国道 45 号線と湾沿いに水産加工、木材、石油等に関連する産業を中心に発展してきた町である。本学区内には、市役所、消防署、郵便局のほか、税務署、海上保安部、税関等中央官庁の出先機関もある。第三中学校と第三小学校の一中一小で構成されており、児童生徒は明朗快活でありスポーツを好み、中学校における実績には伝統がある。家庭の教育に対する理解と関心は高く、学校教育に協力的である。「学力の向上」や「小１プロブレム・中一ギャップによる不登校の解消」を目的に小中学校の連携に力を入れている。具体的には、中学校の教員が小学校の英語の授業への乗り入れ授業を行ったり、児童生徒間・教員間において小中の交流活動を積極的に行ったりしている。

【取組の方針】

１．小学校、中学校及び高等学校がそれぞれの教育活動等を「人とかかわる活動」「よりよい生き方をもとめる活動」「社会での役割をはたす活動」の３つの視点から整理し、小・中・高の連携による取組を生かした異校種間の系統性・継続性を踏まえた取組を行う。
２．小学校、中学校及び高等学校が相互に連携し、社会や地域の一員として自他の役割と責任を果たすことを目的とした授業や体験活動を展開する。
３．地域の奉仕活動等への主体的な参加を通じて、保護者や地域社会との連携交流を行う。
４．小学校から高等学校までの志教育の取組や実践を通して感じたことや学んだことを記録し、小学生や中学生、高校生ならではのまとめを行い、よりよい生き方の探究活動に生かす。

【主な取組と成果】（令和４年度を中心に）

１．志教育ワーキンググループ会議

第三中学校区志教育運営会議：小中高の教員の会議に高校生が参加することにより、生徒の意見を積極的に反映させて活動を進めることができた。

２．小学生・中学生との連携活動

部活動体験：生徒会執行部が誘導や司会を行い、小学６年生に部活動の紹介を行った。小学生に丁寧に接し楽しみながらがら活動する姿が見られた。小学生と活動することでリーダー性や協働性を育むことができた。

３．中学生・高校生との連携活動

部活動合同練習会：三中卓球部と塩釜高校卓球部との合同練習を実施し、高校生から技術面や部活動中の態度、姿勢を学ぶことで、充実した時間を過ごすことができた。互いに切磋琢磨しながら部活動に励もうとする態度を育てることができた。

４．小学生・中学生・高校生との連携活動

（１）小学校坂道壁面装飾：小・中・高の児童生徒や保護者、地域の方々が協力し、第三小学校の坂道の壁面を装飾し直す作業を行った。３校のつながりを深めると共にボランティア精神を培い、愛校心の醸成を図ることができた。

（２）アルカス塩釜：小・中・高の児童生徒がワークショップ形式での話合いを行い、いじめ防止のためのスローガン及び具体的な取組を考え、中学校区で実践した。異校種間の話合いをとおして、いじめの未然防止や取組について熟議することができ、主体的に活動を行うことができた。

５．地域連携等

（１）よしこの塩竈：実行委員が中心に目標と計画を立て、みなと祭りに向け踊りの練習を行った。独自の振付を考えたり、よしこの連の方々に指導いただくなどして、意欲的に練習に取り組んだ。活動をとおして、郷土への愛着を高め、伝統の大切さに気付くことができた。

（２）職場体験学習：２年生を対象に地域の事業所において実施し、ポスターセッションによるまとめの活動を行った。職場体験学習の目的を理解し、仕事をすることの難しさ・やりがい・大変さ等に気付くことができた。

（３）塩竈神楽体験：郷土芸能部と塩竈神楽保存会が協同し、塩竈市の小中学生に神楽を披露した後、小中学生に神楽を教えた。神楽体験の機会を設けて、地域の文化を大切にし、次世代に受け継いでいこうする気持ちを育むことができた。

６．その他

志教育講演会：仙台育英学園野球部監督に講演をいただいた。目標に向かって努力し、やり抜くことが大切であること、人生を少しでも変化を持たせることで目標への到達度が変わることなどに気付き、よりよい生き方を求めて努力しようとする意欲を高めることができた。

＜宮城県＞（種別：学校）　宮城県伊具高等学校

取 組 概 要

【学校の概要】

伊具高等学校は大正９年に地域産業である養蚕業の指導機関並びに後継者の養成を目的に、伊具郡立伊具農蚕学校として開校した。その後、幾多の変遷を経て昭和３８年に現在の宮城県伊具高等学校と校名を変更した。

平成１１年度より総合学科に学科改編し、現在は各年次３学級の小規模校でありながらも、農学（農業）・機械（工業）・情報（商業）・福祉（家庭・福祉）の４系列を設置し、それぞれ充実した教育活動を展開する創立１００年を越える伝統校である。

【地域の背景】

伊具高等学校のある丸森町は宮城県最南端の町で、南部、東部、西部が福島県と隣接し、北部を阿武隈川が東西に貫流している。その流域と町の面積の多くを占める阿武隈山地から流れる支流河川の流域一帯が平坦地を形成している盆地状の町である。数年前には大雨により町内で大きな被害があり、学校でも農場が濁流にのみこまれるなどの大きな被害があった。人口は約１万２千人で高齢化率は４４．０％（県内の市町村で２位）である。９５％以上の生徒は地元丸森町と隣接する角田市出身者で占められており、将来この地域の発展を担う人材として大いに期待されている。

【取組の方針】

近年の少子高齢化や人口減少は本地域においても大きな課題となっており、生徒数や志願者数の減少が予想されている。地域と連携することで、地域の魅力や課題を再発見し、伊具高等学校の４系列の特色を生かして地域に貢献できる人材を育成するために、地域連携活動を学校の重点目標の一つとして長年継続して取り組んでいる。令和元年度より県教育委員会が実施する「地域とともにつくる魅力ある県立高等学校支援事業」に採択され、地元自治体や事業者等からなるコンソーシアム組織の設置や社会に開かれた教育課程の推進の観点から、これまでの取組を整理した。令和４年度は地域連携活動を各系列の専門科目の中に位置づけて学校全体の

活動として取り上げ、生徒のキャリア形成に取り組むとともに、こうした取組を学校広報誌やマスコミを活用してＰＲしてきた。生徒・教職員ともに「明るく、楽しく、前向きに」取り組んでいる。

【主な取組】（令和４年度を中心に）

１．地域貢献プロジェクト

（１）棚田プロジェクト：日本の棚田１００選に認定されている「大張沢尻の棚田」で、高齢農家の方と共に稲作を田植えから稲刈りまで継続して年７回程度現地に出向いて実習を行い、景観保全等の意義について考えた。（農学系列）

（２）伊具高の力プロジェクト：高校生が地域のために何ができるかを考え実践する取組で、設計や溶接等の技能を活用し、地域に設置するゴミステーションを製作し、角田市の町内会に寄贈した。（機械系列）

（３）防災プロジェクト：町の避難所に指定されていることもあり、段ボールベッドや避難所で使用するパーティション等の組立てや使用方法について町役場の方と協力して紹介し、避難所での過ごし方について考えた。（福祉系列）

（４）スイーツ開発プロジェクト：地域の菓子店と協力をして町で栽培されている黒米を活用したスイーツの開発・販売を行い、地域資源の再発見につなげた。（情報系列）

（５）ふるさとＣＭプロジェクト：丸森町と共同で町の魅力をＰＲするテレビＣＭを制作して、放送局主催の「ふるさとＣＭコンテスト」に応募した。地域の活動や魅力の再発見につなげた。（情報系列）

２．学習サポート活動

（１）角田支援学校交流やフラワーバトンプロジェクト：角田支援学校高等部や町内の小中学校に出向き、花壇やプランターへの寄せ植えを指導しながら共に学びあう機会とした。（農学系列）

（２）防災紙芝居交流：地域のこども園や放課後児童クラブ等に出向いて読み聞かせをするとともに、オリジナルの防災紙芝居「いまこそ」を作成し、台風被害を知らない子どもたちに災害時の心構えの大切さや災害を風化させない取組を行っている。（福祉系列）

（３）ドローン出前授業：小中学校で行われているプログラミング活動の一環で、タブレット端末を活用してプログラミングを行い、ドローンを操縦するという出前授業を町内外の小中学校で行っている。（機械系列）

３．地域人材講話・魅力化講演会

（１）地域人材講話：同窓生の消防士の方から台風被害での人命救助の経験談を聞き、地域防災を考えたり、車いすバスケットボール日本代表の方から車いす体験も交えながらインクルーシブ教育やスポーツの在り方を考えたりと地域で活躍する方々から学ぶ機会とした。

（２）魅力化講演会：宮城大学食産業学群から講師を招き、地域のブランド化について講演をいただくことで、エビデンスの重要性など各系列で行っている活動の基盤学習の機会を設けた。

（３）議員懇談会：丸森町や角田市議会議員との懇談会を開催し、高校生の視点で感じた地域の課題について、提案をする機会とした。

【取組の成果】

１．各事業の成果

（１）地域との関わりを通した地域への愛着醸成について

地域に貢献する人材を育成するため、連携活動に長年継続して取り組んできた。各系列の取組は、地域の方々の多大なる協力を得て実施できたものであり、地域の良さや課題を再発見することにつなげた。

「棚田プロジェクト」では、普段の学習で取り組んでいる平地での実習ではない高低差のある環境での実習に戸惑いながらも、高齢農家の方々と協力して米作りに取り組んだ。テレビ取材を受けたり、つなぐ棚田遺産委員会から感謝状をいただいたりすることもあり、地域の景観保全活動に取り組むことの意義を生徒に実感させている。「フラワーバトンプロジェクト」は、町内の小学校で伊具高等学校生徒が栽培した花苗をプランターに寄せ植えすることで、学んできたことを教える立場に立つこともできた。また、寄せ植えしたプランターが地域の商店などに配布され、地域を彩ることで学校間連携や地域間連携の象徴的な取組となっている。

（2）自己有用感や自己肯定感の育成について

「伊具高の力プロジェクト」では、地域のゴミステーションを製作し、寄贈する活動を通して、地域の方々から感謝されたり、新聞取材を受けたりして、自らの学びが地域の課題解決に役立つことを感じる機会としている。

「防災紙芝居プロジェクト」では、災害の風化を防ぎ、とるべき行動を分かりやすく伝えることの重要さを園児の反応を直接見ることで感じることができた。また「防災プロジェクト」では普段学んでいる防災対策グッズの使用方法を他者に伝達することの大切さや難しさを学ぶ機会としている。

（3）進路意識の向上

１年次では、他の系列の実習を体験する機会を設定している。また、２年次で実施しているインターンシップでは、事業所選択の際に自らの系列での学びを意識した事業所選択を行っている。

３年次の進路選択では、約８割の生徒が就職を希望しているが、その９割以上が、丸森町や角田市、隣接する相馬や山元地域などに就職しており、地域を担う人材を着実に送り出している。

（4）本校教育活動の広報について

上記の教育活動は本校の広報誌「雁歌学報」や地元新聞社やテレビ報道で幅広く紹介され、一般の方々からたくさんの応援メッセージをいただいている。特に「ドローン出前授業」は伊具高等学校の生徒が先生役として登場し、工夫を凝らしながら地元の小中学生にプログラミング学習を紹介した。生徒たちが生き生きとして教える姿が報道されたことで、学校生活が充実していることのアピールにつながった。

２．事業全体についての成果

地元自治体や事業所等と連携したコンソーシアム組織を設置しての取組は本年度４年目を迎えた。それぞれの立場からの事業改善に向けた提言を頂戴し、取り組んでいる。

地域社会の将来を託すにふさわしい「生きる知恵」にあふれた人材を育成するという教育目標を達成するため、地域の課題を探り、地域の人々と協力しながら進める各系列の地域連携活動は、主体的で対話的な学びの機会となっている。この取組を学校全体として組織的、計画的に実施することにより、伊具高等学校の魅力をさらに高め、地域の発展のため、地域になくてはならない学校として幅広く認知されるように努めている。

＜秋田県＞（種別：教育委員会）　五城目町教育委員会

取 組 概 要

１．取組の概要

五城目町教育委員会では、教育分野のスローガンである「郷土を育み、未来を担う“ひとづくり”」の実現に向け、地域に根ざしたキャリア教育の充実と自己実現に向けた教育を推進している。子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、実践的・体験的な活動の充実と、自然体験活動や職場体験等の受け入れ先の団体、企業等と連携し、コミュニケーション能力や問題解決能力等の育成を目指している。

２．主な取組内容

（1）夏休み子ども体験塾

夏季休業中に地域の「ひと・もの・こと」と関わることで、地域のよさを知りふるさとを愛する心を育むこと、地域において学校での学びを生かした体験を積み、学習意欲と自己有用感の向上につなげることを目的とし、令和３年度から町内の小・中学生を対象として実施している。

この取組は、町内の企業や団体の協力を得て、職場体験や自然・文化体験活動を行うもので、令和４年度は８企業・団体において実施し、１０３名の児童生徒が体験活動に参加した。主な体験活動は、「消防士体験」「保育士体験」「カッティングボード作り」「古民家体験」「馬場目川水生生物探し」「森山登山」などで、児童生徒の感想からは「今回の体験で『デザインする』という行程がものづくりで一番大切だと感じた。ものづくりの楽しさを存分に味わうことができた。」など、体験を通した学びから「働くこと」への意義について考える感想があり、キャリアプランニングの育成につながる取組となっている。

また、活動終了後には、様々な体験活動に取り組んだ子どもへの称揚と活動の記録を残すために、参加した児童生徒に認定証を配布し事後の活動への意欲の向上を図っている。

（２）子ども議会

地域の一員としての自覚と、郷土を愛する心を育むことを目的として、令和４年度より中学校３年生を対象とした「子ども議会」を実施している。未来を担う子どもたちが、五城目町の地域課題や将来のまちづくりなどについて自分たちができることを考え、町へ提言することにより、ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくりを目指している。令和４年度は、町に関する様々なテーマについてグループごとに課題解決や活性化へ向けた提案を発表したり、町の担当課長へ質問を行ったりした。今年度は、探究学習のコーディネーターとして、以前五城目町の地域おこし協力隊であった方を外部講師として迎え、活動が探究的な学びとして深まるようサポートしてもらうとともに、地域との連携強化の接続を図っている。

３．取組の成果

令和５年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査で「当てはまる」と回答した割合について、「将来の夢や目標を持っていますか」では小学校が 64.6%、中学校が 53.5%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では小学校が 79.2%、中学校が 86.0%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では小学校が 62.5%、中学校が 32.6%であった。小・中学校共に全国平均を大きく上回っており、地域と連携したキャリア教育を実施してきた成果と考えることができる。

＜秋田県＞（種別：学校）　能代市立二ツ井小学校・能代市立二ツ井中学校

取 組 概 要

過疎化や少子高齢化が進む地域を元気にしたいと考え、令和元年度から２年間、児童生徒のアイディアによって、オリジナル弁当とお菓子を商品化し販売する小・中合同の起業体験活動を行った。令和３年度からは、これらの活動を引き継ぎ、地域創生事業として持続可能な地域社会を創るためにできることを考え、地域貢献する「きみまちカンパニー」活動に取り組んでいる。また、令和３・４年度には、文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の実践校として、地域創生に対応するための資質・能力の育成を目指し、「きみまちカンパニー」を軸として教科等横断的な視点で教育課程を編成する取組について研究した。

【起業体験活動の歩み】

- 令和元年度…文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」の実践校として起業体験プロジェクトを立ち上げ、地元の企業と共におむすびの共同開発・販売をした。
- 令和２年度…起業体験プロジェクトを継続し、二ツ井地区のおみやげ品を考案した。地元の企業等との共同開発で「馬い丼」「恋文マドレーヌ」を商品化し、販売した。
- 令和３年度…地域の課題を自分事として捉え、積極的に関わる意識を高めるために、地域創生プロジェクトとして「きみまちカンパニー」を立ち上げ、６事業部での運営を展開した。活動のゴールとして、10 月 30 日に第１回きみまちカンパニーフェスティバルを地元の商店街で行い、大盛況であった。
- 令和４年度…前年度の反省から、事業部や活動計画等の見直しを図り、観光・農業・福祉・企画開発・産業の５事業部での運営に変更した。11 月３日に第２回きみまちカンパニーフェスティバルを行い、ステージ発表やバザー、地元の木工品や特産品販売等に、多くの来場客が訪れた。

【起業体験活動の成果】

- 地域と連携・協働して活動に取り組むことにより、地域を大切にし、貢献しようとする志を育むことができた。
- 様々な活動を通して、自分たちの住んでいる地域のよさや魅力に気付いたり、再発見したりすることができた。
- 教員と児童生徒が共に活動ごとのＰＤＣＡサイクルと、探究の過程や全体のＰＤＣＡサイクルを絶え間なく回したことにより「きみまちカンパニー」を学校全体として計画的・組織的に実現することができた。

＜山形県＞（種別：学校）　村山市立西郷小学校

取 組 概 要

１．概要

村山市立西郷小学校では、「自分で考え　たくましく　しなやかに　行動する力の育成」を学校教育目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、児童一人ひとりが、個性や持ち味を発揮しながら、社会的にも職業的にも自立して生きていくために必要な能力と態度を育むため、各学年に応じた特徴的なキャリア教育を推進している。

特に本校では、以前から「食農教育」や「環境・防災教育」に力を入れてきている。また、地域との連携・協力のもと、外部人材の活用等による「ふるさと学習」や地域の主産業であるキャリアとしての農業につながる「こども農楽校」などにも積極的に取り組んできた。また、学ぶ意義や生きる楽しさを児童に実感させながら「未来を生きぬく力＝キャリア力」とし学校・家庭・地域が連携したキャリア教育を進めている。

２．特徴的・具体的な取組み

（１）【地域と連携したキャリア教育～「農業・環境・防災」～】

○地域内にある公的施設の「農村文化保存伝承館」とその周辺の園地を活用した「食農教育」を積極的に展開している。また、自然豊かな地域にあることから「環境教育」も充実させ、さらには一級河川・最上川沿いにあることから、河川等の防災意識を高めるため「防災教育」にも力を入れている。このように、地域で生きていくために必要な力を育むため、地域や行政と連携し、さまざまなキャリア教育を実践している。

（２）【外部人材を活用したキャリア教育の実践】

○地域の人材や卒業生を講師に迎えるなど、外部人材を積極的に活用した実践型の体験授業を強力に展開している。例えば、地域の農家による農業体験指導、技術士協会による防災授業や全国級で活躍する卒業生による母校訪問授業などである。

（３）【「キャリア・パスポート」での学びの蓄積と「学校図書館」活用】

○キャリア形成のために「学校図書館」の積極活用と「キャリア・パスポート」を積極的に活用するなど、小学校から高校までの長期的な視野視点でのキャリア教育を実践している。

（４）【「NISHIGO キャリアブック」の作成】

○児童の保護者の職業を冊子にまとめたキャリアブックを作成した。

＜山形県＞（種別：学校）　山形県立村山産業高等学校

取 組 概 要

本校は、平成 26 年４月に旧村山農業高校と旧東根工業高校を統合、新たに商業科を新設し開校した。農工商３学科併設校として、体系的なキャリア教育を推進している。

１．探究的な学びを中心に据えたキャリア教育

「総合的な探究の時間」と各学科の「課題研究」を接続しながら、３年間を通した探究的な学びを展開し、キャリア教育を推進している。特に、１年次は中学時の「キャリア・パスポート」を参考に、「自分を見つめる」として、これまでの振り返りと科目ガイダンスの充実を図り、今後の学びの展望について、生き方、在り方を含め丁寧に指導している。また、３学科併設の利点を生かし、「産業研究」として、学科の学習内容の相互理解と、複雑化、高度化する各産業を俯瞰的にとらえるために、農・工・商の「現状と未来」として、生徒全員が学科横断的に最新事情を学ぶ取組みを展開している。

さらに、各学科の学びをより主体的に深めることができるよう、産業系の部活動を設置しており、農業科学部が「全国高校生農業アクション大賞（2022 全国１位）」、機械探究部が「SDGs 探究 AWARD 最優秀賞（2020 全国１位）」、ビジネス部が「国土交通省、水の里の旅コンテスト 2022 中高生部門優秀賞（2022 全国入賞）」を獲得するなど、全国規模のコンテスト等で高く評価された。また、３学科連携の取組みとして、地元の酒造メーカーとコラボし、酒米を農業科、ラベルを商業科、ノベルティを工業科が作成し、純米吟醸酒「花ひ

かり」の商品化を実現させた。さらに、地元村山市、地域団体と連携し、「ムラサンキタマチマルシェ」を主催する等、学びの成果を提供する場と多様な経験の機会の創出に努めている。

２．地元地域、小中学校と連携したキャリア教育

開校以来、地元小中学校とも積極的に連携し、キャリア教育の充実に努めている。小学校へは、農業科が草花装飾、工業科がプログラミングの出前講座を行っている。また、中学校の職業研究や進路研究の一環として、積極的に体験学習の機会を提供している。さらに、村山市と連携し、小中学生を対象とした「むらさんアカデミー」を継続的に開講し、生涯教育の充実にも寄与している。

３．進路のミスマッチや早期離職の防止、地域企業の理解と地元定着を目指した取組み

地元企業約70社の協賛を得ながら産業教育協力会を組織し、就職ガイダンスの実施等、積極的に連携し、キャリア教育の充実を図っている。１年次には地元企業理解として、山形県村山総合支庁地域振興局と連携し、「北村山企業セミナー」を実施している。２年次には生徒全員がインターンシップに取り組み、成果の共有を図っている。特別な支援を必要とする生徒の就業についても、就業希望先とその生徒の特性等についての情報共有を丁寧に行い、適性を判断しながら進路指導を進めている。就職希望者における県内就職率は98.5%（令和５年３月卒業生実績）と極めて高くなっている。

【ホームページ】https://www.murayama-ih.ed.jp/

＜福島県＞（種別：学校）　福島県立いわき総合高等学校

取 組 概 要

本校は、福島県いわき地区唯一の総合学科の高等学校として、「社会の変化に的確に対応できる生き抜く力の育成」を図るため、生徒の自己理解に基づいた進路意識を高めるとともに、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していく力を育成することを重視している。このため、狭義の「キャリア教育」に加え、「探究的な学び」と「コミュニケーション力の育成」をキャリア教育の一環として位置づけ、３年間を通じた計画的な取り組みを行っている。

１．いわき総合高等学校のキャリア教育の特色

（１）スクール・ミッションや学校経営・運営ビジョンに「キャリア教育」の推進を明確に位置づけ、本校教育活動の「柱」として「キャリア教育」を行っている。

（２）校務分掌に、キャリア教育の推進を担当する「総合学科推進部」を位置づけ、３年間の一貫したキャリア教育を実施している。

（３）生徒の発達段階に応じて、適切な職業観・勤労観を育成する、狭義の「キャリア教育」に加えて、社会で他者と協働するために必要な「コミュニケーション力」の育成及び「物事を分析してまとめる力」や「表現力・発信力」など、「探究的な学び」を通じて得られる総合的な能力の育成を「キャリア教育」の一環として位置づけ実践している。

（４）いわき地区内の３大学と高大連携協定を締結し、学習面とキャリア教育の面で協力関係を構築するとともに、専門学校や地域の企業等と連携して、幅広い「キャリア教育」を実践している。

２　具体的な取組

（１）１年次

①自己理解を促進する取組やコミュニケーション能力を育成する取組。

②外部講師を招いた上級学校や企業の研究などガイダンス的な取組。

（２）２年次

①地元であるいわき市を中心にした地域探究学習の取組。

（３）３年次

①「課題研究」の取組。活動を通じ、社会で必要な総合的な力を身に付ける。

＜茨城県＞（種別：学校）　大子町立さはら小学校

取 組 概 要

さはら小学校の特色ある活動は、全校児童が「さはらファミリー会社」とした模擬会社の一員として、野菜の栽培から販売までの一連の活動を行う「夢道場」である。保護者・地域との協働により、地域の特長を生かした様々な体験活動に取り組み、発信していくことで、人・もの・こととの関わりの構築を重ねながら、本年度で11年目を迎えた。さはら小学校での経験が、地元の特長を生かして活躍する人材育成に大きく貢献していると考えられる。

１．組織

夢道場＝さはらファミリー会社＝社長、生産部、販売・広報部、さはら Jr.

２．「夢道場」での体験活動の充実

保護者や地域の方々との協働・・もち米づくり、茶摘み、ヤマメ放流、コンニャクづくり、野菜栽培・販売、わら細工

３．「さはらファミリー会社」での話合い活動の充実

① 社長・部長会議

・各部長からの提案　・さはらっ子総会に向けての検討事項の話合い

② さはらっ子総会

・夢道場の活動についての全校児童による話合い活動（各部・全体）

・地域の方をゲストティーチャーにお招きしての専門的なアドバイス

４．「さはら」の魅力発信

① 宣伝活動を通して

・Google スライドや Google ドキュメントを使ってチラシやポスターを作成

・作成したチラシの町内の店舗や公共施設への掲示依頼、町内の小中学校へメール配信

・「ＦＭだいご」のラジオ番組に生出演

・オンライン交流会で学区内の小学校にプレゼンテーション

② 販売活動を通して

・野菜栽培の様子や販売の準備の様子を Google スライドを使って紹介【高学年】

・手持ち看板やチラシでの宣伝やお楽しみ抽選会【低学年】

③ 手紙の交流を通して

・３年生国語科「気もちをこめて『来てください』」でお世話になっている方へのお手紙を書く

・野菜を購入してくれたお客様からのメッセージへの礼状

５．「ＳＤＧｓ」への取組み【新聞バッグの活用】

・令和４年７月「しまんと新聞ばっぐ」インストラクターの方々が来校、講習会

・古新聞を使った手作りバッグに野菜を入れて販売

６．新たな地域人材の発掘

① 地元で起業している本校卒業生との交流　※ゲストティーチャー

・初代さはらファミリー会社生産部長（大子ブランド米やナスの生産・販売）

・学区内初のいちご農園（道の駅販売や町内のカフェへの卸し）

② 県立大子清流高等学校の生徒との交流

・本校「のびっこ園」での協働作業

７．収益金の活用

・社長を中心に「さはらっ子総会」で意見交換

＜茨城県＞（種別：学校）　稲敷市立桜川中学校

取 組 概 要

桜川中学校は組織目標である「温かいつながりの中から一人一人のよさを認め、こどもの自己有用感を育む」について、キャリア教育の視点から生徒の社会的自立へ向けて身に付けさせたい能力を明確にし、「生徒主体の活動」「相手意識をもつ活動」「つながりを意識した活動」の３つの指導上の手立てを設定している。

また職業観を育む活動、地域連携を深める活動、地域の課題を解決する活動などを系統的・計画的に実践し、その分析と考察をもとに次年度の課題へとつなげている。郷土愛を育みながら自己有用感を高め、ふるさとの未来を支えるキャリア教育実践校として、今後の継続的な取組を通して成果が期待できる。

【①の視点】

○ 修学旅行をとおしたキャリア教育の実践

- 修学旅行中に出会う様々な職業人（タクシー運転手、旅館で働く人、添乗員等）の「プロ意識」に着目する。「プロの仕事ぶり」に実際に接し、「生き方」を学び、将来について考える場とする。これらの体験を進路学習へもつなぐ。
- 事前指導において、どのような職業人に出会うか調べて臨む。
- 事後に地元の職業人の話を聞く会を設定し、学びを深めるとともに、職場体験学習につなげる。

【③の視点】

○ 小学校と連携した生徒の活動（あいさつ運動・いじめ防止集会）

- あいさつ運動では、行う意義を十分説明した上で参加者を募集し、小学校へ出かけて行って実施
- いじめ防止集会は小学校とオンラインでつなぎ、合同で実施
- 事後活動の充実（振り返り→話合い→アンケートの実施）、生徒会・代表委員の常時活動化、各委員会との連携

○ 地域と連携したボランティア活動等を通したキャリア教育の実践

- 地域の公民館と連携したボランティア活動
  →地域のためにできることは？（課題の把握、解決に向けた取組）
- 公民館祭りでのワークショップ
  →出店や企画についての話合い、公民館職員との打合せ
- 地域の祭りでのごみの持ち帰り運動
- 地域を巻き込んだリサイクル品回収活動
- 中学校のキャラクターを作成し、選考の際、地域の人にも投票してもらう。
  →地域の方と生徒の共通アイコンとして、様々な活動で活用

○ 地域・郷土への愛着、愛校心、自分たちの地域としての自覚

＜茨城県＞（種別：学校）　茨城県立石下紫峰高等学校

取 組 概 要

平成27年度から「アクティブスクール」に改編され、単位制普通高校としてキャリア教育の充実を目指している。平成26年度からは、キャリア教育の一環としてデュアルシステムを開始し、今年度で10年目となる。

言語能力に応じた習熟度別学習の実施や外国人生徒支援コーディネーターの配置など、日本語を母語としない生徒も個々の能力を発揮できる教育体制を構築し、地域社会の担い手の育成に取り組んでいる。

○ 取組の具体

- インターンシップ

  自己の進路適性を知るとともに、働くこと、協働することを学ぶ。令和４年度は、１年次生全員が約60の事業所に分かれ実施した。

・デュアルシステム

１年次に行ったインターンシップを発展させ、２年次生を対象にデュアルシステムを実施している。学校では体験できない多くの実践をつむことができ、デュアルシステムで体験した企業に就職する生徒もいる。

・学校設定科目

学校設定科目「ISキャリアスタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を設置し各年次でキャリア教育に取り組んでいる。

・ライフプラン発表会

１年次生がこれまでに実施してきた進路ガイダンスやインターンシップ等の学習をもとに、自己の在り方生き方を発表する機会を設けている。

・その他

中高生が自分の夢や地域課題を発見し、その実現や解決に向けて企画・実践し、起業家精神を育成する茨城県教育委員会主催の令和４年度「IBARAKI ドリーム・パス事業」において、外国籍の幼稚園児と先生のコミュニケーションを支援するテキストとカードを作成した取組が、総合グランプリを受賞した。

＜栃木県＞（種別：教育委員会）　宇都宮市教育委員会

取 組 概 要

宇都宮市では、「小中一貫教育・地域学校園」制度を全市で導入する中で、義務教育９年間を通した系統的なカリキュラムや地域の教育力を生かした体験活動の意図的・計画的な実施などにより児童生徒一人一人のキャリア形成を育む「宮・未来キャリア教育」を推進している。第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の重点施策に位置付け、以下のア～ウなどの取組を進めている。

ア　「宮・未来キャリア教育」の目標の明確化及び指導資料の作成・活用

「宮・未来キャリア教育」の目標を明確にし、義務教育９年間を「基礎期」「活用期」「発展期」に分けた各期の発達課題や育てたい能力ごとの発達課題を明示するなどした「『宮・未来キャリア教育』指導資料」を作成して全職員に配布し、キャリア教育の充実に努めている。また、各学校が「キャリア・パスポート」を作成する際の参考となる「キャリア・パスポート（例示資料）」を作成して配布したり、市独自の「うつのみや学校マネジメントシステム」を活用して成果と課題を把握し事業を見直したりするなど、キャリア教育の更なる充実を図っている。

イ　関係機関と連携した社会体験学習事業「宮っ子チャレンジウィーク」の実施

市立中学校全25校の２年生を対象とし、５日間の社会体験学習推進事業「宮っ子チャレンジウィーク」を実施している。平成 14 年から実施されており、生徒が希望する職業での体験ができるよう、市が各企業や事業所、関係機関、団体代表者等と連携を図りながら、体験場所の調整を行うとともに、各学校が、魅力ある学校づくり地域協議会や地域学校園内の小学校、地域の事業所等の協力を依頼したり、地域、保護者の理解を得たりし、地域ぐるみで人を育てる推進体制を整えている。約 4000 人の生徒が 700 か所余りの事業所において体験学習を行うなど、充実した活動を展開している。

ウ　デジタル職場見学「うつのみやデジタルシティ体験」と「市施設めぐり」を合わせた学習活動の工夫

市内小学校全69校の４年生を対象とし、市内の各施設で職場見学をする「市施設めぐり」を実施している。各小学校の希望に合わせて職場見学ができるよう、市が各施設等と調整をしている。また、デジタルでも職場見学ができるよう「うつのみやデジタルシティ体験」を作成し、社会科等の学習において活用を図るなどし、デジタルとリアルの双方のよさを生かした学習活動が行われている。

【ホームページ】https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kyoikuiinkai/shigoto/1012325.html

＜群馬県＞（種別：学校）　南牧村立南牧小学校　南牧村立南牧中学校

取 組 概 要

当該校は、山間部の高齢化率日本一という課題を抱えた地域にある。村内一校ずつの小中学校で連携した教育活動を展開しており、来年度からは義務教育学校としてスタートする。両校の総合的な学習の時間では「ふるさと学習」として、地域課題に触れながら、地域の素材や人材を存分に活用した学習を行っている。地域の方々との交流や林業や農業など村の産業を生かした体験活動を通して、働くことの意義の理解や将来設計などのキャリアプランニング能力を育むと共に、地域課題と向き合い解決方法を考えることで、課題発見、計画立案、実行力などの課題対応能力を育んでいる。また、小中学校９年間のつながりを意識した組織的・系統的なキャリア教育ができるよう、小中学校の管理職や教諭が年３回部会を開催し協議・情報交換を行っている。

○ 地域の活性化に向けた課題解決学習を通じたキャリア教育

地域課題に着目し、小中学校９年間を通して村で長年栽培されているサツマイモを活用し、村の活性化に向けた課題解決学習を行っている。小学校では、栽培したサツマイモを近隣の家へ配布したり、道の駅やレストランに出荷したりしている。また、児童自ら道の駅で販売も行っている。販売する際には、児童が計画を立て、チラシや看板を作成し、呼び込みなどを行っている。中学校では小学校での取組を発展させ、地域の方々と協力し、サツマイモの加工・商品化に向けた取組を行っている。小中で連携し、９年間を通して地域の活性化に向けて活動することで、課題を発見し、計画を立てて実行していく課題対応能力を育むと共に地域を担う人材育成を図っている。

○ 体験活動を通じたキャリア教育

小中学校９年間を通して、村の主要な産業である林業について見学や体験活動を行っている。地域の方々を講師に、小学校では植樹体験、伐採の見学を行っている。中学校では、小学校での林業についての学習を生かし「ふるさと南牧の産業を考える～林業再生による未来を展望しよう～」をテーマとした総合的な学習の時間の学習を展開している。林業体験、植林活動などの体験活動も行いながら、地域の産業について考え、働く方々と交流することで、地元で働くよさに気付くと共に働く方々の生き方に触れる機会とし、村の未来や自己の関わり方、自己の将来について考えるキャリアプランニング能力や望ましい職業観を育んでいる。

＜群馬県＞（種別：学校）　片品村立片品中学校

取 組 概 要

○ 当該校は連携型中高一貫教育２１年目を迎え、尾瀬高校と連携しキャリア教育を推進している。連携を行う目的は２１年前と変わらずとも、その時代のニーズに合わせて取組を充実させてきている。研修主題を「地域を愛し、地域に貢献する生徒を育てるキャリア教育の推進～連携型中高一貫教育の実践を通して～」とし、キャリア教育の一環として地域との連携や地域理解にも力を入れ地元に根ざした教育を推進している。

○ 実践内容

（1） 中高進路指導部会

進路指導部会において、以下の４点について共通理解を図り、将来の夢や希望を育むキャリア教育の充実や推進に努めた。

① キャリア教育における目指す生徒像を意識させ、社会人・職業人として自立していくためのコミュニケーション能力などの基礎的・汎用的能力を育成する。

② 各教科等で学ぶ内容が「社会に出た時にどんな場面で役に立つのか」などを単元の導入やまとめの段階に加味して教え、学習内容と日常生活、職業、将来との関連付けを図る。

③ 進路指導全体計画に基づき、「キャリア・パスポート」を活用しながら、各学年の指導目標を踏まえた進路学習を実施する。

④ 保護者・地域の方に対して、学校のキャリア教育の方針や計画などを説明したり、意見を交換したりするなど、保護者・地域とともにキャリア教育を推進する。

（２）中高連携

① 交流授業（中学校教諭と高校教諭との協力）

・数学、理科、英語において、中学校教諭と高校教諭による少人数指導を、週１回第２、３学年を対象に行い、基礎的・基本的な学力の向上を図るとともに、課題解決的な学習や発展的な学習を展開した。生徒が目的をもち、主体的に学習に取り組む姿勢が見られ、課題対応能力を育むことができた。

② 高校生から学ぶ「中高環境講座・中高自然観察会」

・第１学年対象の環境講座を「学校周辺の森」、第２学年対象の自然観察会を「武尊山」で行った。事前学習で、高校教諭から観察の方法や屋外でのメモのとり方などの説明や注意点を聞き、観察会に臨んだ。当日は高校生ガイドが班ごとに１～２名配置され、中学生に向けて植物や動物について説明した。コミュニケーション能力を育むとともに、高校生の姿を見て、自分の将来の姿について考える場になった。また、身近な自然について知ることで、地域の自然を愛する心情も育むことができた。

③ 高校調べ学習・尾瀬高校の見学、進路座談会

・高校教諭から「高校選び・進路選択」のアドバイスを受け、高校生の授業の様子を参観した。また、本校から尾瀬高校に進学し、卒業後大学進学した学生や卒業後地元に就職した社会人に、進路選択や仕事に対する思いや考えについて話してもらった動画を視聴し、自分の将来を考える活動により、キャリアプランニング能力の育成につながった。

④ 尾瀬地域学校保健委員会の取組

・尾瀬地域の３校（尾瀬高校、利根中学校、片品中学校）が連携し、共通する健康課題の解決に向けて活動した。「睡眠と心と体」をテーマとし、睡眠と情報通信機器端末の利用状況についての調査結果の報告や医師による「メディアとの上手な付き合い方」についての講演を行った。情報通信機器端末の利用について見直すよい機会となった。

＜群馬県＞（種別：学校）　群馬県立吉井高等学校

取 組 概 要

群馬県立吉井高等学校は「知・徳・体のバランスがとれ、何事にも挑戦するたくましさを持ち、社会に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標に、地域と連携したキャリア教育に力を入れ、地域の社会人による講話や地域企業等におけるインターンシップを実施している。令和３年度からは、２年次の「総合的な探究の時間」において、生徒が地域の中小企業等が抱えている諸課題の解決に向けた提案や行動を起こす課題解決型学習プログラムを開始した。年度末の最終プレゼンテーションにおいては、企業等や地域社会の課題に対して、各グループが生み出した新たな価値についての発表や、今後どのように学校生活を送り、どのように社会に貢献していくかについての発表を行った。これらの取組を通して、職業観や勤労観を醸成するとともに、「自分は、やればできる人間である」といった自己効力感や「自分は、社会に貢献できる人間である」といった自己有用感を高めている。

また、県立吉井高等学校では、道徳教育の充実にも取り組んでおり、「地域社会の一員としての自覚と公共心を涵養しつつ、地域社会の発展に努める態度を育成する」、「集団や社会の一員としてよりよい人間関係を構築しようとする態度を育成する」ことを道徳教育の重点目標に掲げている。この重点目標を基に、課題解決型学習プログラムやインターンシップ等のキャリア教育の充実を図っており、一人一人の生徒が地域社会における自己の在り方生き方を考えるとともに、正解のない課題に対して生徒同士及び企業と協働して粘り強く取り組むことで、コミュニケーション能力や粘り強く物事に取り組む力の育成にも取り組んでいる。

これからの予測困難な時代においても他者と協力して新たな価値を創造できる力を身に付けた生徒を育てるために、道徳教育と関連付けてキャリア教育の実践に取り組んでいる群馬県立吉井高等学校等を推薦する。

＜千葉県＞（種別：学校）　浦安市立日の出中学校

取 組 概 要

◎学校支援組織との連携をしたキャリア教育の充実

サポーターズクラブ・地域の支援とキャリア学習「働クエスト」の発展

【概要】

2009 年、キャリア教育の一環として、当時の PTA と学校が中心となり、身近な大人（保護者）が生徒達に「自分の仕事」について語り、生徒たちに働く意義や喜びを見出すきっかけを与えようと、金融業界、航空業界、広告業界、都市再生機構に勤める保護者４名が講師となり、自分の仕事を疑似体験させるなど工夫を凝らした授業を行った。

その後 2010 年度に PTA の支援のもと幅広く地域で学校を支援する「サポーターズクラブ」が発足。クラブの主要な行事として、2011 年度よりキャリア学習「働クエスト」を開始した。

【成果】

- 地域との連携

  サポーターズクラブや地域との連携はそのまま保護者との連携も図ることができ、生徒の細かいニーズや保護者の願い、教員の思いが一体となりやすかった。そして自律的なサポーターズクラブや地域との連携により教員の負担が軽減している。

- 社会人としての基礎的資質・能力の向上

  身近な人による、親しみとリアリティのある話で、生徒も新たな自分の考え方を発見し、いつか自分も社会人になるという意識を高めることができていた。また、友達の考え方にも触れ、自分の考え方との相違点から社会人として必要なスキルの必要性を感じられるようになった。

- 感度を高めるキャリア教育

  様々な職業人からの講話により、生徒個々が、将来の職業観を持てるようになった。

【これからの「働クエスト」】

コロナ禍が続いた約３年４か月の間も休むことなく「働クエスト」を続けることができた。ICT 機器の活用である。GIGA 端末を活かして、フルリモートにおいても参加講師数や講演数を維持することができた。対面で行う良さも味わいながら、ICT の利用で生徒個人のニーズに合った職業について学習することができるようになった。また、サポーターズクラブの支援については教員の「働き方改革」にも貢献している。

＜千葉県＞（種別：学校）　千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

取 組 概 要

知的障害のある生徒の社会的・職業的自立を図ることを目的として、平成２４年に県内２校目の職業に関する専門学科を設置した高等部単独の特別支援学校として開校し、令和５年度で１２年目となる。生徒一人一人のライフキャリアの充実・発展及び生涯にわたるキャリア発達を支えることを目的として開校当初から学校周辺の企業や事業所１８か所とパートナーシップ契約を結び、デュアルシステムによる実習を導入している。本デュアルシステムによる実習は、本校におけるキャリア教育の中核として、基礎的・汎用的能力等を中心とした一人一人の社会的・職業的自立や社会人・職業人への円滑な移行を見据えた力の育成に大きな役割を果たしている。また、振り返り等でコース内の下級生と自らの体験の共有を行い、社会形成能力（チームワーク・リーダーシップ等）を育成している。

具体的には、１学年は各学科・コース（専門教科）の学習内容に近い仕事内容のある地元企業での実習がコースや学科毎に決まっており、慣れているコースの仲間や教員と一緒に実習することで、安心して取り組むことができる。専門教科とデュアル実習の相互の取組を通して自己理解を深め、働く意欲の醸成や人間関係の形成を図っている。２学年はキャリアガイダンス等を通してデュアル実習先の選定において、挑戦してみたい職種、より技術を高めたい職種などを考え、自己選択し、職業観・勤労観をさらに高めるとともに自分で設定した目標の達成や課題の克服に向けて主体的に取り組む態度を育成している。

専門教科の中で年間を通して定期的に教員と地元企業に一緒に行き、実習をすることで「働きながら学ぶ」「学びながら働く」経験を段階的・往還的に積み重ね、生徒一人一人のニーズや課題に合わせた指導・支援ができて

いる。高等部３年間のうち、インターンシップで５回、デュアル実習で二つの企業を体験することで、経験や知識の拡充につながっている。学校周辺の公民館や施設等での販売会のみならず、生徒が講師となり地域の方々に製品づくりを教える公民館の講座も予定するなど、地域との連携をさらに深化させることでキャリア発達を支え、促す教育に努めている。

【ホームページ】https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichikawaono-sh/

＜千葉県＞（種別：学校）　千葉県立茂原高等学校

取 組 概 要

今年度より総合的な探究の時間を「茂高街塾」（もこうまちじゅく）と称し、地域の魅力や課題など現状について調査し、高校生目線での課題解決策を考え、学び、発信していく取組を始めた。

本校は茂原市にある普通科の高等学校であるが、生徒は進学や就職など多様な進路を希望している。それぞれの進路に向かう前に、地元の魅力をよく知り、課題を発見し、自ら解決していこうとする姿勢を養っていくため、学校だけでなく、茂原商工会議所、茂原市商工観光課・障害福祉課をはじめ、多くの事業所の協力を得て推進しているところである。

①テーマ別座談会　６月１９日実施

茂原商工会議所の全面的な協力により２４事業所が参加し、１学年生徒全員が２１のテーマに別れ、それぞれ事業所の方と関係業種に関連する課題や魅力について、意見交換を行った。生徒からは、「茂原市内の行事や産業について興味が湧いた」、「進路や今後の生活に活かしていきたい」などの意見が寄せられ、産業を通じて地域の理解を深めることができた。

②事業所訪問　夏季休業中

同商工会議所の協力を得て「夏　街Dive!!」と称し、１学年全生徒が実際に事業所（３６事業所）を訪問し、インターンシップやボランティア活動等を体験した。茂原市やその周辺地域の産業等が、どのように地元と密着して事業を行っているかなどについて理解を深め、レポート等にまとめ、文化祭で途中経過を発表する予定。生徒はこの体験から、仕事の大変さに気づき、その困難を乗り越えた時の達成感について学んだ。様々な年齢層の人と接し、それぞれの目線で仕事を理解することができた。また、仲間との協力やコミュニケーション面で成長できた等の変容が見られた。

③ＳＤＧｓ動画コンテストへの応募　１２月実施予定

ＳＤＧｓの「11　住み続けられるまちづくりを」にテーマを統一して、今までの活動内容や学習成果を動画にまとめ、応募予定。また、その動画を、地元茂原市の冬の七夕まつりで放映していくことも、茂原商工会議所と検討中である。さらに、生徒の変容を測るためにルーブリックの作成も検討しているところである。

＜東京都＞（種別：教育委員会）　三鷹市教育委員会

取 組 概 要

三鷹市では、児童・生徒が「人間力」、「社会力」を身に付けるために、多様な学習機会を提供しており、小・中一貫カリキュラムに基づく望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育や進路指導を、地域の教育力を生かしながら推進している。

特に「三鷹市教育ビジョン 2022（第２次改定）」に定めたキャリア・アントレプレーナーシップ教育に係る施策に基づき、地域の伝統や文化に触れ、我が国と郷土三鷹に対する愛着や誇りを育む「三鷹地域学習」とともに、小・中一貫カリキュラムに位置付けた取り組みを推進している。

１．「三鷹市小・中一貫教育校　小・中一貫カリキュラム」を基にした意図的・計画的な指導、キャリア教育で身に付けさせたい資質・能力を、カリキュラムに明確に位置付けるとともに、関連する各教科等の「見方・考え方」の例を示し、各教科で身に付けた力を発揮することを念頭に、系統配列一覧表や実践事例を記載している。

２．キャリア教育及びキャリア・アントレプレナーシップ教育全体計画・年間指導計画に位置付けた「各学園及び各校の特色ある教育の推進」各学園の地域の特徴や地域人材を最大限に活用した体験的なキャリア教育の推進とともに、社会背景や国際社会に視点を置いたキャリア形成について、各学園の特色を生かした全体計画等の作成及び実施をしている。
３．キャリア教育推進教員による「キャリア・アントレプレナーシップ教育実践報告書」の作成と周知に向けた取組各校に配置しているキャリア教育推進教員が各校の実践を報告書にまとめ、周知することで実践を推進するとともに、教員の理解促進や資質向上を図っている。

＜東京都＞（種別：学校）　大田区立北糀谷小学校

取 組 概 要

大田区立北糀谷小学校は、多くの団体・企業とともに、キャリア教育を推進している。研究テーマを「主体的に取り組む児童の育成」とし、実生活や実社会で活用できる力を育てるために、学級活動や学校行事等、特別活動を要に学校の教育活動全体をとおして実践していることが特色である。特に、第６学年の「未来・夢探検」の学習は、本校のキャリア教育の集大成となっている。令和２・３年度の研究成果を基に、令和４年度以降も発展させながら実践を継続している。

１．多くの団体・企業との連携
（１）NPO 法人いろどりキャリアや一般社団法人大田 CP21 等の団体と連携して、様々な企業や人材を確保している。
（２）連携している地域の企業や人材を学校に招いたり、児童が地域探検に行ったりして、大田区の特色である「ものづくり」の精神を学んだり、社会関係形成能力を高めたりしている。
（３）国際都市おおた協会や、羽田空港を使用している航空会社と、出前授業や動画メッセージなどで交流し、グローバル社会に生きる力を育成している。
（４）職業インタビューや、キャリア・カウンセリングにおける人材は、企業から企業へ、地域人材から地域人材へと紹介の輪が広がっており、毎年、活動を発展させている。
（５）団体・企業、地域人材との交渉等は、管理職がリーダーシップを発揮して進めていくことで、どの教員も安心して取り組み、実践しやすくしている。
（６）令和５年度から、大田区で新設を目指している独自教科「おおたの未来づくり」の研究実践校として、キャリア教育でつながった様々な企業や人材を活用している。

２．各学年におけるキャリア教育
（１）第３学年社会科「わたしたちのくらし」の学習では、町の「商店探検」や「工場探検」を行っている。毎年お世話になっている商店・工場の他、保護者からの情報等をもとに連携している。
（２）第４学年社会科「わたしたちの大田区」の学習では、国際都市おおた協会と連携し、国際理解教育を推進している。
（３）第６学年「未来・夢探検」の学習では、毎年 12～15 名のゲストを迎え、職業インタビューやキャリア・カウンセリングを行っている。ゲストは、児童の希望や実態をもとに半数は各団体から紹介していただき、半数は学校で探している。航空会社と連携し、世界の都市とオンラインでつながってコミュニケーションをとる学習や IT 企業と連携してプログラミング教育も実施している。
（４）全学年、発達の段階を踏まえてキャリア教育の全体指導計画を立てている。複数の学年で連携している企業や人材も多い。例えば、第３学年社会科「工場探検」の学習でお世話になった製作所の方が、第５学年の総合的な学習の時間のプログラミングを活用した「ものづくり」の学習にも関わっている。一度のみならず継続して関わることで、地域・社会との関わりを通して活動が発展していくように工夫している。

＜東京都＞（種別：学校）　世田谷区立世田谷中学校

取 組 概 要

世田谷区立世田谷中学校では、学校の教育目標「自律　寛容　創造」の下、今年度は、「未来につながる実力の世田谷中」をスローガンとしている。

学校の重点目標の一つを「自らの学習や生活を中・長期的な視点で見つめ、キャリア発達を促す」とし、生徒が夢や希望、目標をもつことを大切にし、その実現のための道のりを考える機会を保障している。特別活動を要とし、各教科・領域で、「人間関係形成、社会形成能力」「自己理解、自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を高めることを基本方針としている。

また、併設されている学びの多様化学校分教室（「ねいろ学級」）では、生徒一人一人の実態や特性に応じ、社会的自立に必要な社会性を涵養するとともに、生徒相互の関わり合いを通して、対人関係スキルの向上を図っている。そして、なりたい自分と明るい未来への展望を描き、社会と自己の関わりを探りながら、生き方を考える学習を行う「ねいろタイム」を取り入れている。

【令和５年度の主な取組】

１．キャリパスデー

月に１回「キャリパスデー」を設け、「キャリア・パスポート」に記述した内容の見直し、修正を行うことで学校生活に見通しをもたせる。

２．「キャリア・パスポート」研究指定校

区の研究校として、主に「キャリア・パスポート」を個人面談に活用することにより、学校と保護者が協力し合いながら生徒に対して、より充実した支援を行えるよう研究している。

３．インクルーシブ教育の推進

通常学級と特別支援学級（知的障害、情緒障害）、不登校特例校分教室との合同による学習活動をとおして、多様性を理解し、尊重する心の醸成や共に学び、共に育つ学校づくりに取り組んでいる。

４．保幼小との連携

乳幼児期と義務教育期を一体として捉え、乳幼児・児童・生徒及び教職員の連携の充実に向け、「職場体験」、学び舎の小学校での「ふれあい挨拶」、小学校第６学年を対象とした「小学生訪問」及び「部活動見学」を通して、幼稚園・保育園・小学校・中学校の円滑な接続及び連携の充実を図っている。

５．ねいろ学級による「探究」の時間の設定

将来設計力の基礎となるテーマ（幸せの追求等）を設定し、探究的な学びを促すとともに、個性の伸長を目指す。

６．ねいろ学級による「体験」の時間の設定

自らが目指す生き方をテーマに、生徒自身が選択できる体験活動を行うことで、生徒の社会的自立を促している。

＜東京都＞（種別：学校）　成女学園中学校・成女高等学校

取 組 概 要

成女学園中学校・成女高等学校は、「自律・自立」の教育方針のもと、自分の好きなこと・得意なことを将来につなげるキャリア教育に徹底して取り組んでいる。学校が社会に出る準備をする場所であるならば、上位大学進学を目指すだけでなく、一人ひとりが将来誰か（社会）の役に立つことが最上位目標であり、そのためには全ての生徒が早期に将来の夢を見つけその方向に進み始めることが肝要である。これが一人ひとりの主体性の土台となり、ひいては日本社会の発展と幸福につながる。

本校が好き･得意を将来につなげる仕組みとして2020年に立ち上げたのが、探究学習とキャリア教育を組み合わせた「自主研究ゼミ」である。生徒は好きなことを題材に自ら問いを立て、調査や実験で仮説を検証し、自分なりの答えを導き出し、発表をする。「自主研究ゼミ」の第一のポイントは、研究内容を大学の学部･学科につなげていることである。最初は好きなことから取り組ませているが、高校１年後半からは自分の研究内容に応じたゼミ（人文・社会・生活・芸術・自然科学の５種類）に配属し、研究と将来の夢を結びつけていく。研究内容が

変わればゼミも移ることができる。研究内容と進路（学問分野･業界･職業など）が重なっているため、生徒は授業を通して常に進路について具体的に考えることとなり、本質的なキャリア教育の肝となっている。第二に、各ゼミはそれぞれ大学（学部）と高大連携の関係を結んでおり、大学教授や学生との交流や大学の施設･設備を使用するなど、高校レベルを超えた教育が実現している。生徒が次のステージをイメージすることができる点は、キャリア教育として大きな要素となっている。第三に、調査や実験のプロセスにおいて、企業・施設・関連団体などの現場訪問に積極的に取り組んでいる点である。生徒が訪問先選定からアポイント取りまでを行い、実際に訪問してヒアリングや議論を行う。自分の研究内容に関連のある職場を訪れ、社会人と直接話をする経験は、キャリア教育において非常に効果的である。これらの取り組みの結果、研究活動自体が大学入試の総合型選抜にも非常に適合する結果となっており、社会が求める人材の育成方法の一つの形だと考えている。

さらに、キャリア教育を支える取り組みとして本校は2020年に「表現プログラム」も立ち上げた。社会で活躍するには自分が目指すこと･得意なことを周囲に伝えるための自己表現力が不可欠である。学校教育も受動的な授業からの脱却を図っているが、それを加速する取り組みとして自己表現に特化した授業を導入している。これは自主研究で年２回行う全校発表に役立つものである。ジャンルは７種あり、言語表現のトーク・ボイス・エッセイと視覚表現のデザイン･フォトは自主研究発表に直接的な効果を生んでいるほか、身体表現のミュージカル･チアリーディングはさらに豊かな表現力をつけ日常生活の振る舞いにも変化を与えている。どのクラスでも、自分が考えていること･得意なことを周囲に伝えるという点は共通である。講師にはそのジャンルの専門家を特別非常勤講師として招聘しており、一般教科では学ぶことのできないユニークな教育が実現している。

これらの結果、大学進学率はこの３年間で48%から75%へ、総合型入試による大学進学者の割合は48%から69%へ大幅に上昇した。

＜東京都＞（種別：学校）　東京都立八王子桑志高等学校

取 組 概 要

当該校は、全日制産業科高校で、生徒はデザイン・クラフト・システム情報・ビジネス情報の４分野に分かれ、専門的に学習したことを基に、主体的に課題を発見していく力や創造性を育む起業体験を経験している。また、地元自治体や企業等と連携して、奉仕体験活動やインターンシップ等をキャリア教育年間指導計画に位置付け、組織的・計画的にキャリア教育に取り組んでいる学校である。中でも、以下に示す取組等を通して、「教育振興基本計画」（令和５年６月閣議決定）等で示された「産業界との連携によるキャリア形成」に積極的に取り組み、都立高校の範となる事例を数多く実践している。このような取組が、推薦の観点②・③に該当すると考え、推薦する。

○「八王子いちょう祭り」における奉仕体験

地域連携や地域貢献の一環として、「八王子いちょう祭り」に生徒が参加し、奉仕体験活動（清掃活動）を実施した。この活動は、当該校開校１年目から続き、地域の方々との交流を通じて、生徒の地元への関心や愛着心を高めている。

○産業支援機関「サイバーシルクロード八王子」と連携した出前学校訪問による企業展示会

八王子市と八王子商工会議所が共同運営する産業支援機関「サイバーシルクロード八王子」と連携し、地元の「優れた技術」を有する企業11社が企業展示会を実施した。制作物のプレゼンテーションや仕事の魅力を発信することで、地元八王子の産業に対する生徒の興味・関心を高めるとともに、インターンシップの受け入れや、就職活動の充実につながった。

○プロバスケットボールチーム「東京八王子ビートレインズ」と連携した地域活性化活動

地域活性化のための応援プロジェクトを企画・立案する活動として、「東京八王子ビートレインズ」の集客プロジェクトに取り組んでいる。専門性の異なる４分野の生徒たちが協働して、「広報」、「チケット・グッズ」、「イベント・ブース」の班に分かれ、主体的に課題解決に取り組んだ。高校生がＢリーグの公式戦をプロデュースするのは日本初の試みである。

○八王子織物組合と連携した産学共同プロジェクトの実施

当該校の前身は明治２０年に八王子織物組合が設立した八王子織物染色講習所であり、現在も同組合の支援を受けながら、伝統的な技術等の継承を担っている。この取組を契機に、多くの生徒がデザインに興味や関心をもち、関連する分野の大学や専門学校に進学している。また、産学共同プロジェクトの一環として、同組合主催のネクタイデザインコンペティションへ出品し、伝統文化への理解を深めるとともに製品化による企業体験につながっている。

＜神奈川県＞（種別：学校）　神奈川県立愛川高等学校

取 組 概 要

神奈川県では、キャリア教育のより一層の充実に向けて、すべての県立高校において、学校の教育活動全体で取り組む「キャリア教育実践プログラム」を策定し、それに基づいて各校でキャリア教育に取り組んでいる。

当該校では 入学から卒業までの３年間を見通したキャリア教育実践プログラムがしっかりと確立されており、各学年・各学期における目標を明確に示し、学校全体をとおして取り組むとともに、総合的な探究の時間においては、１・２年生ともに職業研究、分野別研究を行い、生徒の望ましい勤労観と職業観の育成をしている。大きな特色として、神奈川県愛甲郡愛川町内の３つの中学校から連携生を募集する連携型中高一貫教育校として、中・高を通じた組織的・系統的な取組が行われている地域密着型の県立高校であり、地域との協働が盛んである。特に、地域連携サークル、学校外の学修、中高連携事業を中心に、ボランティア活動、インターンシップ等で地域交流が順調に進められている。

また、平成30年度からインターンシップ地域連絡協議会の事務局として、地域のインターンシップなどを取りまとめている。

積極的に地域と関わることで、社会で求められる実践的な能力や態度を身に付ける学習機会を多く取り入れ、着実なキャリア教育の推進に努めていることから、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

＜新潟県＞（種別：教育委員会）　　長岡市教育委員会

取 組 概 要

長岡市教育委員会は、『子どもたちの未来のために 米百俵の精神の下 オール長岡で創るWebサイト』をコンセプトに『長岡教育情報プラットフォーム「こめぷら」』を独自に構築した。この「こめぷら」をとおして、職業に関する動画を閲覧して職業観を育むとともに、市内企業が行う職場体験や職業講話等の情報を基に、教職員による検索や申込みができるようにする等、地域と連携しながらキャリア教育を推進する環境を整備している。

「こめぷら」は、下の４つのとびら（カテゴリー）で構成されている。

（1） 学びのとびら

長岡の歴史、文化、産業などに関する内容や子どもたちの興味や関心を深めたり、広げたりする内容の動画を見ることができる。市の関係課、地域のNPO法人、企業、高等教育機関等が制作した動画を掲載している。

（2） 体験のとびら

小中学生が参加することができる地域で行われるイベントや体験活動などを掲載し、申込みを行うことができる。

（3） 授業のとびら

学校に講師が出向き授業をする「出前授業」や、児童生徒が校外の施設等を訪問し、地域の方が現地で授業をする「体験授業」を掲載し、申込みを行うことができる。

（4） 職業のとびら

子どもたちが、働くことを学校の授業の中で体験する「職場体験」や、企業を学校の授業の中で見学する「企業見学」を掲載し、保護者や子どもが申込みを行うことができる。

「こめぷら」は、市内企業、高等教育機関、関係諸団体等と連携して内容を構築している。また、「こめぷら」は保護者も閲覧することができ、家庭での親子の会話が生み出されることも期待される。(R4 閲覧回数:3,013,979 回）キャリア教育を推進するために、子どもを真ん中におき、地域、家庭、行政が連携しながら環境整備するモデルケースと考えられる。

＜新潟県＞（種別：学校）　胎内市立中条中学校

取 組 概 要

胎内市立中条中学校では、「ふるさとを誇りに思う生徒の育成」を基軸に据え、ふるさとに学び、新たにふるさとを創造する教育の推進に努めている。令和３年度に、生徒が自ら社会を変え、世界を変える力があることを実感できるように、キャリア教育の取組として「まちづくり会社中条中学校社」を立ち上げた。地域社会の様々な課題に正対し、新たな価値を創造する力を身に付けることを目指し、全校体制で取り組んでいる。

主に総合的な学習の時間で取り組んでいる「まちづくり会社中条中学校社」の学習は、３年間で段階的に深化するように構成されている。始めに広い視野視点で多様な世界と出会わせ、次第に身近な問題課題へと収束して、最後は生徒一人一人が持続可能な社会の創り手として自分の住む地域社会へ提言する構成になっている。

集大成である３学年では、持続可能で理想的な胎内市の実現のため、地域の関係者（ステークホルダー）との協議を経ながら、自分たちにできることを模索し、実現を目指して活動している。令和４年度は、４つの地域課題に対して４つの課を立ち上げて、課題解決に向けて取り組んだ。特に、生徒が中心になって地域の商店街の活性化を目指して、企画した「おいでよ！本町マルシェ」のイベントは、商店街の事業所だけでなく、生徒らの協力によるワークショップブースが多数並ぶなど大きな賑わいにつながった。さらに、この企画は今年度も実施され、地域のイベントとして根付いてきており、地域と学校との win-win の関係が構築された様子がうかがえる。

こうした学習を通じて、「課題に対して解決策を考えようとする態度」「社会貢献意欲」に対して、９割以上の生徒が「かなり強くなった」「少し強くなった」と回答した。自らの力で社会を変えていけることを実感した生徒の姿であるといえる。

このような経緯もあり、令和５年度から２年間、県教育委員会による「アントレプレナーシップ教育推進モデル校」の指定を受けた。生徒が自分のよさや可能性を自覚するとともに、多様な人と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく上で大切なチャレンジ精神やコミュニケーション等の起業家的資質・能力の育成する実践が期待できる。

＜新潟県＞（種別：学校）　燕市立小池中学校

取 組 概 要

小池中学校「糸半（いとはん）プロジェクト」

糸半プロジェクトは、生徒会本部が中心となり平成 27 年度に立ち上がったプロジェクトで、お世話になっている地域の方々への恩返しとして中学生にできることを考え行動し、小池中の良さを自分たちの姿を地域へ発信し、表現力とボランティア精神の向上を目的としている。

これまで生徒による様々な地域貢献活動を行ってきており、令和４年度は、①「地元」企業とコラボしたベンチ製作、②地域との共通テーマとして「防災」と「福祉」を視点に誰もが安心して住めるまちづくりについて取り組んだ。

①では、燕市の魅力を発信できるベンチを、市内企業と連携して制作し、交通公園に設置した。制作にあたって、地元企業の方と打ち合わせを重ねてデザインを決定していった。この過程で生徒は、「身近にすばらしい製品を作っている会社があることは燕市の誇り」「地域のために活動する姿が素敵」と考えるようになった。

②「福祉」では、１年で認知症サポーター養成講座を受講し、そこで学んだことをベースに、地域の認知症の方やその家族の話を聞き、地域の一員として自分たちができることを考えた。生徒は「意見を出し終えたときに地域の方から安心できると言ってもらえた」「これから地域を担っていくのは私たちなので、過ごしやすい町をつくっていきたい」と感想をもった。地域社会の一員として、自分の住む地域への貢献意欲が高まった様子がうかがえる。

小池中学校では、これらの活動を継続的・系統的に行っている。これによって、地域の企業と生徒、地域の住民と生徒が、それぞれ深く関わることを通して生徒は地域への愛着を育んだり、自分自身が地域の担い手という意識を醸成したりするすることができている。

地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組むなど、児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育むキャリア教育のモデルとして推薦する。

※「糸半（いとはん）プロジェクト」の名前には、小池中生徒が縦糸、地域の方々が横糸となって、お互いの力を出し合って、絆を深めたいという願いが込められている。

＜新潟県＞（種別：学校）　新潟県立新潟商業高等学校

取 組 概 要

企業体験に係る取組（平成29年度～、令和２、３年度は中止）

新商collab（しんしょうコラボ）

～　葦原祭（文化祭）での企業と連携した模擬店の実践　～

（１）取組の概要

当校は、平成29年度から教科「商業」で学んだ知識や技術を活かした実践として、１～３年生の各学級が、地域で活躍する企業約30社と連携して模擬店を運営する企業体験を実施している。

生徒はクラス単位で、文化祭での模擬店を出店する（１、２年生は１クラス１店舗、３年生は１クラス２店舗）。１、２年生は模擬店の出店に向けて企業開拓のアドバイスを教員から受けながら進めていくが、３年生では生徒が主体的に企業開拓を行い模擬店の運営計画をつくり、実践する。

協力企業との打合せ（資料１）や協力企業の実店舗を訪問することで、企業イメージを活かした運営計画（販売商品、数量、会場等）をつくる。また、多くの人に来場してもらえるよう、販売商品の特徴を捉えた広告（資料２）を作成し、メディアプラットフォーム「ｎｏｔｅ」を活用した情報発信を行う。また、当日の天候や集客数を考慮して適切な仕入計画を策定する。

当日の模擬店（資料３）では、生徒は顧客に応じた接客、環境に配慮したサービスや包装に考慮した販売を行い、また、現金だけでなく電子マネー等による決済方法も活用した。

（２）取組の成果

- 企業や飲食店への出店依頼から模擬店の運営を実践する過程で、ビジネスに必要な交渉力やコミュニケーション力、及び主体性、企画力、協働性等の課題解決力の育成が見られる。
- 身近な地域企業と連携した取組により、地域の魅力を再発見し、地域への貢献意欲が醸成されている。
- 企業約30社と連携して、模擬店の企画、広告、販売を実践するこの取組は「商業」を学ぶ生徒にとって、キャリア教育の観点から有益な取組である。

＜富山県＞（種別：学校）　氷見市立湖南小学校

取 組 概 要

児童の実態を的確に捉え、キャリア教育で目指す子供像を明確に示している。地域との交流の場を設定し、地域に関わる喜び、人や社会とのつながり、関わることのよさを実感できる活動を行うなど、キャリア教育の目標の実現に向けて、地域と連携しながら継続して取り組んでいる。

〇学習森林の整備と竹ドームコンサートの取組

- 平成14年度から地域の方の協力を得て、学習森林「絆の森」の入り口、遊歩道等の整備活動に取り組んでいる。特に、竹林（竹ドーム）での竹ドームコンサートは令和４年度まで17回の開催を行った。
- 令和５年度は、地域の協力者の方の高齢化が進み、竹林（竹ドーム）での開催を断念し、体育館でのコンサートを開催した。コンサートで使用する竹楽器は、フォレストリーダーの協力を得て製作を続けている。

○起業家体験による模擬会社の取組

- 令和３年度より、高学年において、児童が模擬会社を設立し、竹の商品を販売するため広報活動に取り組んだり、利益をどのように還元するかを話し合ったりしている。
- フォレストリーダーの協力を得て、竹の商品開発を行ったり、地域の商店の協力を得て販売体験を行ったりしている。
- 令和４年度は、外部講師として、Ｕターンを経て地域で起業した会社の社長を招いて、会社設立の苦労や地域素材を活用することのよさや、これからの地域おこしについて話してもらった。
- 商品開発だけでなく、販売方法を工夫する活動も行っている。

○「ひみラボ水族館」と連携した水生生物調査

- ３年生では、「ひみラボ水族館」の見学を行い、地域ならではの貴重な水生生物について学んでいる。４年生では、学芸員の方に協力してもらいながら、地域の水生生物の調査、飼育に取り組んでいる。地域の自然の大切さや貴重な水生生物の生態を調査している。

○地域に学ぶ取組

- ２、３年生では、地域の商店の協力を得て豆腐のつくり方を学び、実際に豆腐をつくる体験をしている。
- ３、４年生では、地域の椎茸づくり名人の協力を得て、原木椎茸栽培を学び、菌打ちや収穫等に取り組んでいる。
- ６年生では、地域のためにできることを考え、介護福祉施設「あんのん」の訪問を行っている。

＜富山県＞（種別：学校）　　富山市立和合中学校

取 組 概 要

「キャリア教育」の核となる活動を教育課程に位置付け、生徒一人一人の生き方や適正を見据えた活動を計画的、継続的に推進している。コロナ禍においては、以前から引き継がれてきた各活動についてキャリア教育の観点において見直しを図り、これまでに連携のなかった行政とつながり、新規活動を取り入れるなど工夫改善に努めている。

〈目標〉　社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。

〈方法〉　３年間を見通して各学年の重点や方針を明らかにし、地域に根ざした様々な体験活動を基に、自己選択・自己決定を通して、キャリア教育の視点から自分の価値に気付く場を保障する。

〈取組〉　「学年のテーマ」と【これまでの取組】

○１学年「生き方を学ぶ」「地域に学ぶ」【職業調べ】

将来の夢や興味・関心のある職業等から職業調べを行ったり、地域の方から「働くことのすばらしさ、その意義」について話を聞いたりしながら、学ぶことと将来の人生設計との結び付きを考え、キャリアプランニング能力の育成を図る。

○２学年「生き方を学ぶ」「地域に学ぶ」【職業体験】

将来の自分像を描き、目的意識と課題意識を明確にして、職業体験「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」に取り組む。富山市北商工会の協力を得て様々な事業所で実施し、働く喜びや苦労を体感し、働くことの意義を学ぶ。特に、水産加工の仕事や早朝から出かける漁業体験等は和合中学校ならではの特色ある活動である。また、ＰＴＡサポーターにも協力を得て、地域ぐるみで活動を行い、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力の育成を図る。

○３学年「自ら学ぶ」「社会に生きる自分」【先輩との交流】

１学年の「13 歳の一歩」、２学年の「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」、３学年では富山高等専門学校や富山大学の学生から話を聞く「15 歳の夢」に取り組み、３年間を通して、よりよい職業観や勤労観を身に付けるとともに、近い将来設計への意欲を高め、その実現のための主体的な進路選択につないでいく。

〈コロナ禍での取組　令和３・４年度〉

【行政による出前講座・スクールミーティングの活用】

〇令和３年度１学年

市役所の出前講座を活用し、生活と行政の結び付きを学ぶ。市政の特徴的な取組を知ることで、行政の役割と市民の権利を学ぶことに繋がり、主権者としての意識を育む一助とする。

〇令和４年度２学年

市役所から職員を招聘し、行政の取組を知り、意見交換を行うスクールミーティングを行う。グループワークを取り入れ、富山市の現状等について語り合うことで市の施策の意味を考えるとともに、市政参加への意識醸成を図る契機とする。また日本、世界へと視野を広めていく場を設け、社会に生きる自分について考え、自らの将来や生き方について考えを深める。

このように、地域等との連携を図りながら、キャリア教育の視点に立って計画的・系統的な活動を展開することで、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を育成することに努めている。

＜富山県＞（種別：学校）　　富山県立富山北部高等学校

取 組 概 要

普通科、くすり・バイオ科、情報デザイン科からなる総合制高校として、各科が大学や企業等と連携して地域課題の解決に取り組んでいる。普通科も３年間を見通しながら計画的にキャリア教育を行っており、大学や企業の見学、大学や企業人などの講師の招聘を積極的に行うなどの工夫をしながら、学校教育活動全体を通して、キャリア形成に向けた学びを深めている。

１．職場見学・職場体験・インターンシップ

普通科では、地元企業での体験活動等を含む「富山の企業魅力体験バスツアー」を実施するほか、１学年対象の「富北キャリアガイダンス講座」を実施し、企業で働く卒業生を招いた 14 講座による講演により、将来を見通したキャリア教育を積極的に行っている。

くすり・バイオ科では、県内製薬関連企業等におけるインターンシップの実施や、県内企業における職場見学の実施などにより、社会での実践力や将来の自己のあり方・生き方を主体的に考える力を育んでいる。

２．地域と連携した取組や地域課題解決に向けた取組

くすり・バイオ科では、県内企業や薬事総合研究開発センターとの連携・協力によるサプリメントの研究・開発や、県薬用植物指導センターや富山大学との連携・協力による抗菌ハンカチの研究・開発を行い、地域と連携しながら地域課題解決を通して、より専門的で実践的な取組を行った。

情報デザイン科では、課題研究として模擬株式会社を設立し、フローラルとやま実行委員会より依頼を受け、路面電車のラッピング車両をデザインすることで、県産花きの消費拡大や地域の活性化を図る取組を行った。他にも、越中和紙と黒部峡谷鉄道のコラボレーション企画や地元企業との連携・協力による「しけ絹」を用いたベビーギフト商品の提案と商品化、子育てイベントのチラシやポスターのデザインなど、地域や地元産業を応援する企画から商品化まで積極的に行っている。

【ホームページ】https://www.tomihoku-h.tym.ed.jp

＜石川県＞（種別：学校）　　石川県立田鶴浜高等学校

取 組 概 要

【学校の概要及び教育目標】

本校は、県内唯一の衛生看護科、健康福祉科をもつ専門高校である。地域の医療・福祉に貢献できる有為な人材の育成を目指し、以下のような取組を行っている。

【地域連携、地域の課題解決、地元への理解と貢献、地域を担う人材の育成】

① 認知症カフェ「田鶴浜カフェ」の開催

・平成２９年から、本県七尾市田鶴浜地区において社会福祉協議会と生活・介護支援サポーター会が中心に誰もが参加できるイベント「田鶴浜カフェ」を地区の３か所で月に１度開催している。認知症養成講座を受講した健康福祉科の生徒は認知症サポーターとしてカフェの立ち上げから積極的に参加し、既習の知識や技術を活かした認知症カフェの情報発信や認知症予防プログラムの作成などを行っている。この活動を通して、地域福祉の推進を担う人材であるという意識を醸成し、異世代とのコミュニケーション力の向上につなげている。

② 地域医療・地域福祉の実践型学習

・平成２９年から、地域老人会の健康教室や訪問看護ボランティアに参加し、地域の医療状況を把握することで、学びを深めている。また、地域施設や大学と連携して認知症予防ゲームを立案し、事業アイデアの検討・提案にも取り組むことで、プレゼンテーション能力が向上した。

・令和４年は、町の伝統工芸である組子を用いた「組子パズル」や町の歴史や特産品をテーマとした「田鶴浜かるた」を制作し、実習病院や放課後児童クラブ等の多世代で行うレクリエーションの際に活用した。両科が連携して取り組み、町の魅力発信、健康意識やコミュニティ意識の向上を地域の方々に普及する活動を実施したことにより、地域の医療・福祉の専門職を担う責任と自覚を互いに高め合うことにつながった。

③ 「田鶴浜生活マップ」制作による地域貢献

・令和５年度、生徒が本地域において、バリアフリー・防災・ＡＥＤ設置場所等の調査を行い、それを地図に示した「田鶴浜生活マップ」の制作に全校体制で取り組むこととした。地域の現状や課題、魅力を知り、看護と福祉の学びを活かして社会参画する力の育成と多世代共生のまちづくりに向けて、地域の創り手であることを認識する機会となっている。

＜福井県＞（種別：教育委員会）　福井県教育委員会

取 組 概 要

＜取り組み＞

○高校生が将来に向けて具体的な目標を持ち、それぞれの目標に向かって学習意欲を高めていけるように、ふるさと先生(福井ゆかりの第一人者)などによるセミナーを実施し、キャリア教育を充実

・ふるさと先生による「夢や希望を育て未来を築く教室」

・各分野で活躍している社会人による「キャリア教育セミナー」

・地域の企業や社会人による「キャリア教室」

○地域産業の現状や行政および先端企業の取組を学ぶために、行政担当者、経営者・技術者等を招いた県内一斉のオンライン授業を実施

・ふくいの産業(福井県独自の１年職業学科共通科目)

○地元に就職する高校生が産業界で活躍できるスキルアップを応援するために、社会から求められるニーズや技術進展に対応できる高度な技術・技能と専門的知識を身に付ける職業教育を充実

・インターンシップ(就業体験)

・デュアルシステム(年間を通じて行われる長期企業実習)

○チャレンジ精神や探究心等の「起業家精神」と情報収集・分析力、判断力、コミュニケーション力等の「起業家的資質能力」を育成

・県独自のビジネスアイデアコンテスト

・中小企業診断士等によるビジネスアイデア講習会

○女子高校生の理系分野への進学を支援

・ふくいＧｉｒｌｓ　未来のテックリーダー

○既卒生の大学進学希望、現役生の難関大学進学希望の実現を支援

・福井県大学進学サポートセンター

○特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上
・農業体験実習(中・高等部)
・技能検定（清掃・喫茶）に向けての講習会(中・高等部)
・地域における社会体験活動(小・中学部)

＜福井県＞（種別：学校）　福井市森田中学校

取 組 概 要

当該校は、スクールプランの重点目標の１つに「居場所づくりとキャリア教育の充実」を掲げ、生徒が夢や目標をもつための取組を展開している。とりわけ、現３学年は、「もりたＳＤＧｓプロジェクト」と題し、地域と関わりながら、まちづくりに参画する実践を継続している。

【取組】

１年時：地域を調査しテーマを見つける（令和３年度）

・ＪＩＣＡの講師による講演会（ＳＤＧｓの視点について）
・地域の企業を訪問し、ＳＤＧｓの取組を調査
・地域の方々を招いて実践報告会、アンケートによる意識調査の実施
・森田公民館と連携し、まちづくりの目標を住民に提案
（リーフレット作成「森田地区ＳＤＧｓ通信 vol.1」）

２年時：実践を通して他者を知り自分を見つめる（令和４年度）

・県内４大学、県内30ヶ所のＳＤＧｓパートナー企業を訪問
・取材した内容や実践、これまでの学びを発信
（校内、福井大学福井ラウンドテーブル、ＦＢＣラジオ）
・文化祭において、まちづくりワークショップの企画、実施
・地域の企業や事業所での職場体験学習（２日間、43事業所）
・森田公民館での「もりたＳＤＧｓプロジェクト会議」に参加
・「立志のつどい」（立志式）において、「森田未来フォーラム」を企画し、地域の方々と対話するラウンドテーブルを開催
・森田公民館と連携し、地域へのＳＤＧｓ広報活動を実施
（活動誌作成「森田地区ＳＤＧｓ通信 vol.2」）

３年時：将来の展望を見出す　参画し自分を磨く（令和５年度）

・インクルーシブの視点で修学旅行を企画し、東京都内高校生や、ＯＥＣＤ東京、日本アセアンセンターと探究学習の実践交流
・森田公民館と連携し、地域の方々へのＳＤＧｓ広報活動を実施
・地域でゴミ拾いスポーツイベント「クリーンピック」を企画、運営
・３年間の取組をまとめ、今後の生き方についてまとめる活動誌（MyStory）と「ＳＤＧｓ通信 vol.3」を作成し、総括（予定）

＜福井県＞（種別：学校）　福井県立武生東高等学校

取 組 概 要

福井県立武生東高等学校は、昭和６２年（１９８７年）に普通科と国際科を有する高等学校として開学し、卒業生は、県内・国内・海外において活躍している。令和４年度から、普通科・国際科を発展解消し、学際フロンティア学科をスタートし、未開の自分を開拓し、未来の自分を切り拓く学科として、Society 5.0を見据え、時代に対応する、国際および地域社会に貢献する人材を育成していく。

＜取り組み＞
１．１年生、２年生、３年生「総合的な探究の時間(HINO QUEST)」
・ 自分でテーマを設定し、課題を見つけ、大学や自治体、地元企業や地域の人々のもとを訪ねて課題解決につなげるフィールドワークを実施。
・ 越前市地域貢献活動支援補助事業に意見書を提出。
・ 越前市総合計画策定に向けたワークショップに参加。

２．１年生　「企業探究訪問(産官学連携事業)」
・ 越前市内の企業訪問。
・ 企業理念やグローバル戦略を聞くことで大学での学びや大学卒業後の職業選択の参考とする。

３．２年生　「高校生R!ng」
アントレプレナーシッププログラム参加。自ら問いを立て、自ら行動し、自ら変化を起こす力、誰もがこれからの社会を生きる上で礎となるような力の育成を目指す。

４．既卒者　進路情報通信「オレンジだより」
浪人生に対し定期的に郵送。進路情報提供、進路相談を実施。

＜福井県＞（種別：学校）　福井県立奥越特別支援学校

取 組 概 要

福井県立奥越特別支援学校は、知的障がい、肢体不自由、病弱に対応する総合特別支援学校である。平成25年の開校以来、学校が勝山市中心にあるという好立地を活かし、「地域が教室」をコンセプトに地域とのつながりを大切にした教育活動を展開している。特に高等部・中学部の作業学習で作った野菜や工芸品、花苗などの販売、校内カフェの運営を通し、社会的・職業的自立や学校から社会・職場への円滑な移行支援を行っている。生徒たちを身近で支えている保護者や地域の人々と協力した教育活動を一回でも多く実践していくことを目指している。
＜取り組み＞
１．「産業現場等における実習」高等部
６月と１１月に地域の企業や福祉事業所等で実施。

２．「職場見学」小・中・高等部
ＰＴＡと連携し、保護者とともに地域の企業や福祉事業所を見学。

３．「農業体験」中学部と高等部
地域の農場での体験実習や農業専門家による技術指導。

４．「技能検定に向けた講習会」高等部
外部講師による喫茶サービスの技術指導を実施。ザウルスカフェ(校内カフェ)での実践に活用。

５．「地元企業や自治体と連携」中学部・高等部
作業学習で作っている製品を地元企業や自治体が運営する土産物屋へ委託販売。

６．「大学と連携」高等部
焼き菓子などの材料となる県内産小麦「ふくこむぎ」の栽培開始。

＜山梨県＞（種別：学校）　山梨県立身延高等学校

取 組 概 要

創立101年目の山梨県立身延高等学校は、地元にある学校として地域を支えていく人材を育成してきた。平成25年度より総合学科高校となり、平成28年度からはキャリア教育推進校として高校３年間を通して「自己を見つめ進路目標を明確にし、体験活動や地域や他校種との交流等を行う中で、職業理解、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図り、進路を実現する」ことを目標としてキャリア教育に取り組んできた。また、平成28年度から高大連携事業、平成30年度から連携型中高一貫としても地域に根ざした教育を実践している。
＊キャリア教育や進路指導の体系的な支援を「ドリームプロジェクト」と銘打って、１年次に夢の発見、２年次に夢の育み、３年次に夢の実現という生徒一人一人の進路目標に向けて、それに必要な基盤となる能力や態度を養うことを目指している。

１年次：「総合的な探究の時間」と「産業社会と人間」を連携させ、自分自身を知り、社会との関わり方や適切な職業観を得るため、職業人講話、職業人インタビュー、上級学校見学会、進路ガイダンスを行う。これらの活動を通して自分自身の夢（進路目標）を見つけ、資料等にまとめてキャリアセミナーや総合学科発表会でプレゼンテーションすることを通して、情報を編集して自分なりの考えを生み出す力を身につける。
２年次：具体的な進路に向けて、夏季休業中に進学希望者は個別の学校のオープンスクールへの参加、就職希望者には、インターンシップを指導している。また持続可能な社会を目指す生徒の育成を修学旅行のテーマにも位置づけ、総合的な探究の時間を利用して専門講師による講演や活動を行っている。
３年次：進路実現のため、外部講師による講演や課外、全職員で行う面接、論文指導を行っている。

以上が３年間を通して実施されているキャリア教育である。

＊高大連携事業として、山梨県立大学と協同で身延町役場等と連携をして地域での課題を探り出し、フィールドワーク等を通して検証して地域に提言をしている。
各月１回～３回放課後や長期休業期間にフィールドワークを行い、３月に活動の成果を発表する。令和５年度は、昨年度に引き続き、観光活性化をテーマに１年生４名、２年生４名、３年生１１名が活動し、今年度は夏休み中に富士川町の道の駅から自転車に乗り、新たなサイクリングコースの設定等に取り組んでいる。

【山梨県立身延高等学校ホームページ】　https://www.minobu.kai.ed.jp/

＜長野県＞（種別：学校）　塩尻市立楢川小中学校

取 組 概 要

１．概要
楢川小中学校では、「楢川から未来にはばたく」を学校目標に据え、子どもたちが人生を豊かに生きるために、未来にはばたく体力・知力・実践力を育む教育活動を展開している。その柱となるのがキャリア教育である。子どもたちが「将来こんなことをしてみたい」「あんな大人になりたい」「今できることからやってみよう」と願いをもち、気魄に燃えて人生を歩み始めることをキャリア教育のめざすところであると考え、「ならかわ大学」（生活科・総合的な学習の時間）の時間を中心に、地域に学び、地域と学び、自分の生き方を考える活動を行っている。

２．活動内容
「ならかわ大学」のカリキュラムは義務教育学校の特徴を生かし、前期課程及び後期課程の９年間を見通したものになっており、下級生は上級生の姿を見ながら活動している。また、各課程においてテーマを設定し、まずは自分たちがどこに向かっていけばよいのか見通しを持ちながら取組めるカリキュラムになっている。
（１）前期課程　「楢川地域のひと・もの・ことに触れる」
１・２年次は学校周辺の自然を味わうなど、遊びを通して興味関心を地域に広げる活動を行っている。

３・４年次は地域の漆塗り体験や伝統野菜を育てるなどの体験をし、地域の生活や産業に触れていく活動を行っている。漆塗りを教えてくださる漆器組合の皆様をはじめ、地域の方々と出会うことで、より地域を身近に感じ、地域に対する理解をより深めている。

５・６年次は前期課程のまとめとして、より実践的な活動を行っている。まず、模擬会社である「ならニコ漆器会社」を児童自ら運営し、自分たちで塗った漆器の受注・販売を行っている。国道トンネル開通式典で配布する記念品を受注・納品したり、地域の物産店や他地域のスーパーで販売活動を行ったりするなど、会社運営について体験的に学習できる取組を積極的に行っている。その他にも、地域の観光行事である「春の漆器祭・宿場祭」で、児童が学校のランチルームを主会場として「ならニコカフェ」を運営し、観光客にお茶やお菓子を提供したり、太鼓演奏したりすることで、楢川地域の観光振興にも活動の幅を広げている。

（２）後期課程　「自分たちが住む地域に人口減少などの深刻な課題があることに気づき、その課題を解決するために、自分にできることを考え実践する」

７・８年次は再度地域を探検し、地域の課題の現状を確認するとともに、職場見学や職場研修を積極的に行っている。職場見学では、空き家再生の現場や漆器工房での新しい取組を見学し、それらを進めている方々の生き方に触れている。また、キャリア研修として、他地域を訪れ、先進的な活動に学んでいる。本年度は、下諏訪町御田町商店街へ研修に訪れ、街づくりや自己実現という視点から商業やものづくりの仕事の価値を知り、職業観を深めた。木曽地域での研修では、林業による地域活性化の可能性を探り、地域にあるものを生かす生き方に触れた。

９年次は地域の方々と協働して、地域の課題の解決に向けた活動を考えて実践している。今年度は、奈良井宿の商店の来客数を増やし、観光客のリピーターを増やすことを目的として「江戸ウィン」と名付けたイベントを企画運営した。初めての試みであったが、修学旅行の目的地である輪島で地域おこし活動を行っている方からいただいた助言や、輪島朝市で職場体験を行った体験をもとにイベントを企画した。イベント実施に当たっては、生徒たちが地元奈良井区や観光協会と打ち合わせを重ね、主体的に地域の方々と連携を図った。

このように、楢川小中学校では学校全体で組織的・系統的に行っている「ならかわ大学」の活動に加え、本年度はワークショップに参加し、プロのダンサーや振付師の先生から自己表現をすることの価値や生き方を学ぶ進路学習を行うなど、児童・生徒が地域や産業界と連携しながら、体験的な学習をとおして自身のキャリアを考える教育を行っている。

参考：https://www.fureai-cloud.jp/_view/narakawa-ej（楢川小中学校HP）

＜長野県＞（種別：学校）　長野県軽井沢高等学校

取 組 概 要

長野県軽井沢高等学校は、令和３年度入学生から全日制普通科単位制高校へ移行した。生徒が興味関心や希望する進路に基づいて主体的に科目を選択することができるよう教育課程に一層柔軟性を持たせ、生徒は自分の学びを自らデザインしている。一人ひとりに合った学びが可能となることで、生徒が自身の特性や良さに気付き、可能性を広げ、学習意欲の向上や自立に繋がることを目指している。

単位制として多種多様な選択科目を設置している中で、「軽高キャリアプログラム」として、複数の学校設定科目が位置付けられている。１年生全員が学校設定科目「未来」を履修することにより、自己理解や他者理解を深めると共に、短期間のインターンシップを通じて職業を知り、自分の興味や関心・適性を見極める。更に社会と繋がり企業で実践的に学びたいとする生徒は、実践的な教育・職業能力開発の仕組みである「軽井沢高校版デュアルシステム」により、２年次以降に企業での実習と学校での授業を体系的に学ぶ。具体的には、２年次の選択科目として設置されている職業人として必要な基礎的な資質・能力の育成を目指す「ビジネス基礎」を履修し、基礎学力の定着を図る「ベーシックⅠ」、「ベーシックⅡ」、パソコン活用能力の向上を目指す「ベーシックⅢ」（いずれも学校設定科目）に加えて自らが必要とする科目を自由に履修するとともに、合わせて学校設定科目「デュアル」（令和５年度までは「デュアル実習」）を履修することで、学校で学んだ基礎、基本を生かし、企業で実践的な技術、技能、精神を学ぶことができる。「デュアル」では、軽井沢町内に限らず近隣市町村の企業と連携し、

生徒は自分が希望した企業で年間 16 日間（令和５年度）の実習を行う。実習を実施しない日は振り返りとまとめ、報告、ビジネスマナー等を学ぶ。年度当初には学校と企業が協定書を交わし、年度末の実習のまとめ、「デュアル実習成果報告会」では実習先の企業代表者にも参加、講評をいただいてる。

多様な生徒が自身の「好き」や「やりたい」を大切に、自己理解を深めながら自分に合った学びを進め、長期にわたり仕事や社会に実際に触れる実習と合わせて体系的に学ぶことで、生徒の進路希望実現や地域社会に貢献できる資質・能力を育む好事例である。

＜岐阜県＞（種別：団体）　岐阜県立吉城高等学校育友会

取 組 概 要

１．取組の概要

当該校は育友会活動が大変活発であり、特にキャリア教育に対する取組は、自主的かつ手厚く行われている。育友会役員の知識や経験、人脈を生かし、生徒の職業観・勤労観の形成や、子どものキャリア形成に対する保護者の意識の高揚を図る取組を展開している。

２．取組の詳細

〇育友会役員による模擬面接指導（８月）

・就職試験に向け、８月に育友会役員による面接指導を実施している。
・民間会社等に勤務する育友会役員が試験官役を務め、生徒への指導助言を行う。

〇進路フォーラム（１０月）

・開催方法の検討、パネリストの選定、会場の手配等、計画から運営まで、すべて育友会進路部会の役員が行う。
・パネリストには上級学校在学中の卒業生の保護者、上級学校へ進学した後に就職した卒業生を選定している。
・コロナ禍での新しい生活様式に対応するため、令和２年度から令和４年度はオンライン配信により開催した。
・保護者の要望を聞き、令和５年度は参集型とオンライン配信のハイブリッド方式での開催を予定している。

３．取組の成果

育友会役員が計画・運営に主体的に携わることで、保護者や地域のニーズに即した取組を展開している。

模擬面接指導においては、第一線で働いている育友会役員が生徒に対して実践的なアドバイスを送り、生徒の職業観・勤労観の育成に大きく貢献している。

進路フォーラムでは、卒業生の保護者から、実体験に基づく話を聞くことができるため、子どもの進路に対する保護者の不安を払拭し、前向きにキャリア形成について考える良い機会となっている。また、オンライン配信やハイブリッド開催など、新しい生活様式や社会情勢に柔軟に対応し、キャリア教育を積極的に推進する姿勢が評価できる。

＜愛知県＞（種別：教育委員会）　高浜市教育委員会

取 組 概 要

高浜市教育委員会では、令和５年度より「自分・仲間・社会の幸せのために学び続ける子どもを育む」を基本理念とした第２次高浜市教育基本構想のもと教育活動を実施している。その基本理念に向けて四つの基本方針を定めている。その中の一つを「なりたい自分に向かって学ぶ力を育む」とし、キャリア教育を一つの軸として取り組んでいくことで、変化の著しい時代においても自分らしさを大切に幸せに生き抜くことを願い、「自分の学びをデザインし、なりたい自分に迫る子」を最終目標として目指している。具体的には以下の取組を継続的に実施している。

【主な取組】

① 「高浜カリキュラム」の作成

平成24年度より実施してきた第１次高浜市教育基本構想の「12年間の学びや育ちをつなぐ」方針を継続し、生活科と総合的な学習において、人・もの・ことに関わる共通カリキュラム「高浜カリキュラム」をデザインし、市内の全小中学校で取り組んでいる。中学校において、高浜カリキュラムのテーマをキャリア教育とし、具体的な進路や職業選択に関わるものに限らず、「生き方」の視点となる考え方を培う活動、地域で活躍している身近な大人について知る活動等、年度ごとに工夫して実践を継続している。年度末には実践をモデルプランとしてまとめ、教育基本構想推進委員会で情報共有している。継続していることや共通性があることで市内の教員によってよりよいカリキュラムに更新し、市内全教職員が活用できるようにネットワークで共有している。

② 異校種間連携・異校種間参観の実施

12年間の学びや育ちをつなぐ体制を整え、幼保小中が連携して教育活動を実施している。子ども中心の活動としては、小学校低学年が生活科の学習において園児を招待したり、中学生が小学校６年生に手紙を書いたりするなど、子どもに12年間の見通しをもたせる活動を通して、自分の成長に気付き、キャリアを積んだことを自覚し、自信につなげている。また、教員中心の活動としては異校種参観を実施し、12年間の発達段階を知ることで、キャリア教育の充実に向けた活動や働きかけの工夫につなげている。

③ キャリア教育推進委員会の設置

第２次高浜市教育基本構想の実現に向けて、キャリア教育推進委員会を立ち上げた。各校において選任された委員によって、各校の実態や課題を共有し、教育現場に本当に必要な取組を考え、実践していくことで市内全体のキャリア教育の充実を推進している。

＜愛知県＞（種別：学校）　愛西市立開治小学校

取 組 概 要

愛西市教育委員会より委嘱を受け、主題を「郷土を愛し、つながり、ひろがるキャリア教育の実践　～人との出会いを大切にし、地域のよさを味わう体験活動を通して～」とし、児童が地域に誇りをもち、地域を支える担い手となることができるよう、各実践に取り組んでいる。

【主な取組】

① 地域の方に学ぶ　米作り体験（田植え・稲刈り）と講話

地域の田を借りて全校児童で田植え体験・稲刈り体験を行い、地域で生産している米についての興味・関心を高め、米作りの大変さや喜びの一端を実感する。高学年児童が低学年児童の手助けをし、協力して田植えや稲刈りを行うことで、他者の個性を理解したり、他者に働きかけたりする力を育む。

米作りや米の歴史等について地域で大規模に米作りをしている講師の方から学び、疑問や感想などをともに語り合いながら、稲の観察や米の加工等の調べ学習を行う。高学年児童は自分たちの学びを他学年の児童に伝える。

② 地域の歴史・文化を学ぶ

講師の方から愛西市の地形的特徴や地元の地名の由来などを聞き、地域の歴史や文化を学び、「働くこと」「生きること」についての先人の思いを知る。自分たちの住む地域に愛着をもち、大切にしようとする心を育む。

③ 地域の方に学ぶ　伝統文化（水墨画）

水墨画を制作する活動を通して日本の伝統文化のよさを知り、制作した作品を展示して互いの作品のよさを認め合う。また、水墨画の魅力や制作方法を他学年の児童に伝え、コミュニケーションスキルを養う。

④ 地域の方に学ぶ　餅つき体験

自分たちが収穫した米が餅になるまでの過程や餅をつくいわれ等を保護者代表から聞き、高学年児童が低学年児童の補助をしながら、各自が杵で餅をつく餅つき体験を行い、他者に働きかける力やリーダーシップの向上を図る。

⑤　地域の方に学ぶ　味噌・豆腐作り体験

５年生は味噌作り、６年生は豆腐作りの体験をする。地域の方に昔から伝わる身近な食材作りの方法について学び、手作りの味を味わう。体験で得た学びを保護者や他学年の児童に伝え、コミュニケーション力を高める。

今後も地域とともにある学校づくりを目指すとともに、地域を知り、愛着をもってつながり、広がるキャリア教育を継続していきたい。

＜愛知県＞（種別：学校）　高浜市立南中学校

取 組 概 要

本校の校訓は、「自己を高めよう」である。そして、目指す生徒像を「将来を見据え、今の自分を作り上げていく生徒」としている。その教育目標から「高浜を愛し、地域の中で自立・協働できる社会に役立つ大人」という将来の自分を見据え、中学生である今の自分を作り上げていくキャリア教育を推進している。中学校３年間を貫くキャリア教育を構想し、段階を追って進めることで、目指す生徒像に近づくことができると考える。

【主な取組】

①「見つめてみよう自分のキャリア、将来の自分」

１年生では、「私の履歴書」を利用して、これまでの経験を振り返ったり、これから経験したいことを思い描いたりして、自分を知ることから始める。自分を知ることで、自分の生き方について目標を思い描くことができるようにする。「身近な人の職業調べ」や「職業セミナー」などで身近な人から生き方を学んだり、働く意味を考えるきっかけになるように「職場体験学習」の準備をしたりする。

②「探求しよう自分の可能性・伸ばそう自分の実践力」

２年生では、「私の履歴書」を利用して、これまでの経験がこれから経験すべきことにどのように生かせるか考える。「職場体験学習」を通して、働くことの意味や意義を考えたり、自分のなりたい将来の描く姿に近づくことができる上級学校を調査したり見学したりする機会を設定している。

③「思い描こう将来の自分・ふるさと高浜に貢献しよう」

３年生では、修学旅行の行き先である東京の行きたい場所を調べたり、調べたことをプレゼンテーションしたりすることを通して、自分の考えを表現する機会を設定する。その活動をすることで、なりたい将来の自分の思いを表現する力をつけていく。また、なりたい将来の自分に近づくことができる上級学校の体験入学に参加することで、将来の自分を思い描くことができるようにする。また、高浜の魅力を再確認し、地域に役立つ活動「地域貢献活動」を考え、実行することで、自分たちが住んでいる高浜を愛し、地域の中で自立・協働できる生徒を育てていく。

＜三重県＞（種別：学校）　四日市市立小山田小学校

取 組 概 要

当該校は、四日市市西部の田園地帯が広がる小山田地区に位置し、創立１４８年目をむかえる各学年１学級の小規模校である。

「夢と志を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」との学校教育目標のもと、キャリア教育の観点から、これからの社会を生きていくために必要な力を『４つの力（※１）』としてとらえ、すべての教育活動において育成に取り組んでいる。今年度、つながりを大切にした学びの実現をめざして児童に理解しやすいよう、これらの４つの力を３つに再構成し、「ほっと」をキーワードとした目指す力(※２)として提示している。

（※１）　つながる力…自分の考えや思いを他人に伝え、協力する力
見つめる力…自分のよさに気づき、成長のために進んで行動する力
うごく・いかす力…課題を発見・分析し、計画的に解決する力
めざす力…これからの生き方を考える力

（※２）３つの「ほっと」でつながろう！(HOT(熱い・一生懸命)・ほっとする・ほっとかない)

①赤ほっと「高める力」（いどむ！もくひょうをもつ！たのしむ！）

②青ほっと「関わる力」（うけいれる！つたえる！いっしょに！）

③緑ほっと「向き合う力」（たちどまる！ねばりづよく！じぶんをちょうせい！）

１．児童一人ひとりの発達を踏まえたきめ細かな支援

社会を生きていくために必要な『４つの力』を『３つの力』として整理することで、児童が、学校での様々な学習活動について、どのような力を身に付けていくのかを理解したうえで取り組んでおり、主体的な学習活動が実施されている。

学習活動後には、「振り返りカード」や「キャリア・パスポート」を活用し、『３つの力』をもとに身に付けた力について、児童自らが振り返るとともに、他の学年や保護者等への発信を行っている。振り返りの際には、教師が児童の成長した事柄を見取り、対話を通してフィードバックし、児童が自己肯定感の向上や成長の実感を得ることができるよう支援している。

学級担任は、学期ごとに個人面談を実施し、児童一人ひとりに応じたきめ細かな発達支持的な支援を実施している。

２．地域と連携した学習活動

当該校のある小山田地区では、「子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田」との地区の将来像を策定しており、地域で子どもを育てていこうとする環境がある。その中で、当該校では、地域の方や事業所と連携した様々な取組を実施している。

・１、２年生での昔遊び体験
・３、５年生でのしめ縄づくり
・４年生の車椅子体験や高齢者疑似体験
・５年生での稲づくり
・６年生での地域清掃活動
・全学年でのサツマイモ栽培（お世話になった地域の方々を招き、収穫祭を開催）

これらの地域の教育力を活用した取組では、小規模校ならではの、一人ひとりの児童と地域の方々との深い交流につながり、多くの地域の大人から認めてもらう体験を通じて、児童の自己肯定感を高めたり、地域を愛する気持ちが育まれたりしている。

さらに、地域の「人・もの・こと」等の本物に触れる体験は、児童の知的好奇心を高め、学習意欲の向上へつながっている。

３．多様な価値観や考え方に触れる活動

当該校は、各学年１学級の小規模校であり、校内や地域の学習だけでは、多様な考えや価値観に触れる機会が少ないことから、すべての学年で市内の他の小学校と、オンラインを活用した遠隔授業や互いの小学校へ訪問する合同交流授業に取り組んでいる。

また、行事に取り組む際には、１年生から６年生の縦割り班活動を取り入れ、異学年で話し合う活動も行っている。

他校の児童や異なる学年の児童と交流することで、問題解決に係る多様な考えに触れることや他者へ理解されるよう工夫した伝え方を学ぶなど、「つながる力」の育成につなげている。

４．取組の成果

全国学力・学習状況調査では、「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均値を大きく上回るとともに、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「将来の夢や目標を持っている」「地域社会をよくするために何かしてみたい」の項目においても、全国平均値を上回っている。

学校が設定した「つながる力」「見つめる力」「うごく・いかす力」「めざす力」を育成するために様々な取組を実施してきたことが、児童の主体性や地域への愛着を育み、肯定的な回答につながっていると考えられる。

【ホームページ】http://www.yokkaichi.ed.jp/~oyamada/cms2/htdocs/index.php

＜三重県＞（種別：学校）　　亀山市立亀山東小学校

取 組 概 要

亀山市の中心部に位置し、全校児童４４４名の中規模校である。

当該校では、平成１２年度から、キャリア教育の一環として、学校近隣の商店街で開催される「亀山大市」において、児童が出店しての販売活動を行ってきた。

「亀山大市」が新型コロナの影響で開催中止となったことで、これまでの販売活動が実施できなくなっていたが、令和４年度には、学校内で保護者等の学校関係者を対象とした販売活動「東っ子まつり」を開催している。

令和４年度の「東っ子まつり」を開催するにあたり、単なる販売活動に終わるのではなく、複数の児童で構成された模擬会社を設立し、会社ごとに販売する商品・サービスの考案、収支の予測、材料の仕入れ、試作品の製造、広告・宣伝の実施といった起業体験活動として拡充している。

令和５年度には、令和４年度の「東っ子まつり」での起業体験に係る取組に加え、４年ぶりに開催される「亀山大市」での出店も計画されており、地域の様々な方への販売活動を実施する予定である。

１．起業体験の具体的な取組

起業体験活動を始めるにあたり、どのような商品を販売する会社があればよいかを、児童や保護者、教員に対して、アンケート調査を行っている。アンケート調査の結果を受け、児童が１２のグループに分かれて会社を設立し、お客様の立場で考えた改善を重ねながら当日の販売・サービスの提供につなげている。

起業に関わる一連の活動では、「やってみよう」「やってみたい」という児童の気持ち大切にし、児童自らが立案、実施することで主体性を育んでいる。

また、児童が商品の価格設定に悩む場合には、地元の起業家から助言をいただいたり、２回のプレオープンを実施し、接客時のトラブルへの対処方法を学んだりすることで、児童は課題解決に必要な力を付けている。

令和５年度は、これまでの取組に加え、職場体験を終えた中学生から「東っ子まつり」についてのアドバイスを聞いたり、高校生と協働して出店企画のためのグループ協議や商品案についての報告会を行ったりするなど、近隣の中学校や高校と連携した取組として発展させている。

また、亀山市の研究拠点校として、「生活科」、「総合的な学習の時間」における探究的な学びを深める授業実践を行い、本取組について域内の学校へ紹介をするとともに、意見や助言をもとに、取組の改善を行っている。

２．取組の成果

起業体験に取り組んだ児童は、「自分から意見を言ったり、自分がなんとかしようという行動が大切だと思った。」や「思ったことを言葉にして、相手に伝わるまで伝えることが大切だと分かった。」と振り返っており、様々な課題について仲間と協力して解決していくことや、地域の方をはじめ、幅広い年齢層の方々への接客を通して、「課題設定の力」や「協働的に学ぶ力」が育成されていることが分かる。

また、保護者に行っているアンケートからは、「自分の子どもが、様々な行事や体験活動に意欲的に取り組んでいるか。」の問いについて、肯定的な回答の割合が高くなっており、児童が主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む起業体験活動として実施されていることが分かる。

【ホームページ】https://www.kameyama-mie.jp/kblog/higashi/

＜三重県＞（種別：学校）　三重県立昴学園高等学校

取 組 概 要

当該校は、全国で唯一の全寮制総合学科高校として平成７年に開校された県立高校である。当初より「自主自律の精神の育成」を教育目標として、「自ら考え、自ら学び取る力の育成」をめざすとともに、大台町唯一の高校として、地域と連携した様々な取組を展開し、学校の魅力化・活性化に取り組んでいる。

１．地域と連携した主な取組

（1）インターンシップ

平成２９年度より地元大台町商工会の協力を得ながら、２年生全員が参加する３日間のインターンシップを実施している。また、令和４年度からは、１年生の希望者を対象として、仕事や自己の適性を理解するために、１日のインターンシップを実施するとともに、成果を発表する取組を行い、体験的な活動を充実させている。

（2）地域を理解する学習（１年生）

町の基幹産業である林業を学んだり、地域の郷土菓子作りを体験したりする「大台町探検」を通じて、地域を理解する学習に取り組んでいる。また、町内の経営者等へのインタビュー内容をまとめて発表する「聞き書き講座」を実施し、生徒のコミュニケーション能力や文章校正力、表現力を育成している。

（3）各系列での学習（２年生以降）

総合学科の学びの特色をいかし、環境技術系列での治水と利水について学ぶ地域のダム見学や地元特産品であるお茶作り体験、美術工芸系列での地域の基幹産業である林業について学ぶ実生栽（樹木の盆栽）の取組など、地域を題材とした多様な学びを実践している。また、生活福祉系列では、介護施設等での実習に加え、小学生への車椅子体験教室や特別支援学校との交流授業を行うなど、近隣の学校と連携した取組も行っている。

令和５年度からは、学校設定教科「大台研究」を新設し、各系列での学びを統合し、地域の魅力発信を行うとともに、地域の活性化に向けた提案を行っている。

（4）生徒寮での取組

全寮制をいかし、地域で活躍する方を寮に招いての講演会を行ったり、土・日曜日には、生徒が地元の方と共に地域の清掃活動を行うなどのボランティアに出向いたりするなど、学校の授業以外でも、地域と結びついた活動を充実させている。

２．取組の成果

地域の特色や産業を題材として、地域住民や職業人など実社会を感じることができる多様な人々と関わりながら、生徒が卒業後の自らの姿を想像しながら主体的に考え行動する学習活動を充実してきたことによって、生徒の社会で活躍する意欲や能力の向上が図られた。また、学習に対して目的意識を持って取り組んでいる生徒の姿が見られるようになってきた。

さらに、当該校では、放課後の時間を活用した「すばる Time」を設定し、生徒一人ひとりの習熟度や進路希望に応じて必要な基礎学力や主体的に学ぶ態度を育成する機会を通して、生徒の希望する進学や就職の実現につなげている。また、内閣府地方創生推進室主催「地方創生☆政策アイデアコンテスト２０２３」などのコンテストや三重県教育委員会主催「みえ探究フォーラム」などの発表会等へ応募や参加する生徒が多数見られるようになってきた。

【ホームページ】http://www.mie-c.ed.jp/hsubar/

＜滋賀県＞（種別：学校）　大津市立皇子山中学校

取 組 概 要

【取組概要】

学校教育目標「皇子山中学校・校区を愛し、校区の次代を担う生徒」の実現に向けて、地域との連携・協働に重点を置いている。生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、第１学年から第３学年までの系統的・体系的なキャリア教育を学校教育全体で推進することで、社会的・職業的に自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図っている。

【系統的・体系的なキャリア教育】

１年生では、地域で活躍する先輩へのインタビューや職業調べを実施し、自分たちの地域を知り、地域の人たちに出会うことから学習をスタートし、自分たちが地域の人たちから支えられていることに気づいていく。

２年生では、１年生での学びを生かして、地域の誇れる場所を収めたフォトブックを制作し全校や地域に発信したり、職場体験を通して学ぶ意義や働く意義について体験的に学んだりしている。また、地域の高等学校から講師を招き、講座を実施するなど、自身の将来について考える機会をもつことで、３年生での進路選択へとつなげていく。

３年生では、高等学校等での体験・見学等を通して、憧れの気持ちを育むとともに、自身の自己実現について考えられるようにしている。

これらの取組を通して、将来、自分たちの地域を支えたいという夢や希望を育んでいる。

【地域との連携・協働】

地域から依頼のあったボランティアについて、生徒に参加を募る取組を長年実施している。中学生が地域で活躍する姿は小学生にとっての憧れであり、中学生になると積極的にボランティアに取り組む生徒の姿が見られる。地域とつながる楽しさや地域の方からの感謝の言葉が、生徒の自己有用感を高めている。

コロナ禍における職場体験の代替として地域の事業所に協力を仰いで、起業家教育を推進する取組を実現した。今年度は地域の事業所や企業等の協力を得て、中学生チャレンジウィークを再開した。地域との連携・協働を絶えず図りながら、困難な局面においても、キャリア教育を推進している。

＜滋賀県＞（種別：学校）　滋賀県立長浜農業高等学校

取 組 概 要

長浜農業高校は、明治３２年に開校した「滋賀県立滋賀県農学校」を前身とし、創立１２５年を迎える歴史と伝統を持つ農業高校である。現在農業科、食品科、園芸科の３学科３クラスを設置している。

生徒の多くが地元から通学しており、卒業後も居住する地域が生活の基盤となっている。このような背景から本校のキャリア教育は、地域連携の取り組みから地域の課題に気づき、課題解決の過程を通して生徒一人ひとりの社会的、職業的自立に必要な能力や態度を育成し、地域に必要とされる人材を育成することを目標としている。

１年生では全員が履修する科目「農業と環境」で、農業の社会的な意義と役割を理解するとともに、栽培等に取り組みながら課題解決学習の基礎を身につけるようにしている。また、自ら生産した農産物を家庭に持ち帰り、保護者等から評価や感想を聞くことや農産物販売実習でのお客様への商品説明等を通して自己肯定感や主体性を育んでいる。

２、３年生は各学科３分野に分かれ、将来の進路を見据えた専門学習を行っている。農家等でのインターンシップや地域連携の取り組みからキャリア教育を充実させている。農業科食農振興分野では、自治体、生産者と連携して米原地域で古くから栽培されている在来種伊吹そばの生産量向上や普及に向けて取り組み、そばを活用した食文化の学習や習得したそば打ち技術などの学習成果を地域のイベントや農産物販売会等の来場者へ披露している。また、園芸科草花分野では、自分たちが栽培した花苗を活用した寄せ植え講習会を実施し、花の特徴や寄せ植えの注意事項など自ら身につけた知識や技術を活かして参加者に寄せ植えを教えている。これらの活動をとおして、わかりやすく伝える力やコミュニケーション力を育んでいる。

このように、本校では農業教育で身につけた知識や技術を活用して自らのキャリア形成を積み重ね、職業人として求められる豊かな人間性、自ら学びに向かう主体性、農業の発展や振興に主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、地域に貢献できる、また必要とされる人材育成に努めている。

＜京都府＞（種別：学校）　京丹波町立和知小学校

取 組 概 要

京丹波町の北部に位置し、創立２３年目を迎える全校児童７１名の小規模校である。学校教育目標を「元気が一番 輝け！和知の子」とし、地域を元気にし、地域と共に輝く児童の育成に取り組んでいる。

キャリア教育の一環として、入学時から様々な和知地域をフィールドにした体験学習に取り組んでいる。１・２年生では、地域の方にお世話になってのインゲン豆のさやむきやトウモロコシの皮むき体験と給食での食体験、３・４年生では道の駅「和」や図書館をテーマにした課題解決型学習、５・６年生では特別養護老人ホーム「長

老苑」へのコロナ禍で直接行くことはできない中で町社会福祉協議会の方にお世話になり、オンライン訪問をしたり地域の保存会の皆様から教えていただいている和知太鼓や人形浄瑠璃を発表したりして交流を深めている。

また、６年生の総合的な学習の時間では、まとめの学習として自分の将来について考える「夢☆発見」に取り組んでいる。「ようこそ先輩」として教員志望の大学生の先輩に来ていただいたり、役場で働いている社会人の先輩を訪問したり、子どもの興味関心を大切にしながら、学習を組み立てている。昨年度は、農家の仕事に興味を持った子どもがいたので、他県から田舎暮らしに憧れて和知地域に専業農家として移住され、給食の野菜を届けてくださっている農家の方に来ていただき、苦労や喜びなどを聞くことができた。これらの学びを通して「働くこと」の意味や価値について考え、学びを深めることができた。さらに今年度は京丹波町議会の見学も行うなど、社会とつながる学びにも取り組んでいるところである。

＜京都府＞（種別：学校）　福知山成美高等学校

取 組 概 要

本校独自の就職教育「キャリア＋（読み方：キャリアプラス）」を通じて、令和３年度から地元自治体である京都府中丹広域振興局と連携し、地域社会で働く方々を校内に招き、地域の先生として「出前授業」を複数回実施。また、地元の精肉店や喫茶店とのコラボ企画として、商品開発や販売も行う。

また、令和４年度からは地元工業団地を束ねる長田野工業センターとも連携し、「ジョブフェスタ（企業説明会）」、「長田野インターンシップ」、「長田野工場見学」を企画し、生徒の地元企業への就職を支援している。令和４年度のジョブフェスタでは12社の長田野企業が参加し、令和５年度のジョブフェスタでは長田野企業17社に加え、福祉施設２法人、警察、自衛隊、市役所と、計22の企業・公共団体が参加し、本校就職希望の３年生約70名と２年生商業科の約20名、合計約90名が各ブースを回り、企業説明に耳を傾けた。話を聞いた企業に興味を持ち、実際に就職したいという声を多く聞き、選択の幅を広げる貴重な機会となった。

初めて行った令和４年度の長田野インターンシップでは、就職希望者が多いクラスである２年生商業科 17 名がそれぞれ７社に分かれて参加した。事前指導と事後指導を大切にし、工場で着用する作業着や防塵服、ヘルメット姿の写真を交え、クラスでインターンシップの取り組みの発表を行った。令和５年度は11月に実施予定。なお、このジョブフェスタとインターンシップは、本校独自の取り組みでありながら、京都府中丹広域振興局が本校の許可を取った上で地元工業高校へ企画を伝え、他校でも取り組み始められ、その輪が広がりつつある。。

さらに今年度からは、北京都ジョブパーク、福知山市役所産業政策課とも新たに連携し、地元の魅力や仕事の魅力を伝える就職ガイダンスを実施し、地元就職を選んでもらえるように協力して取り組んでいる。

これらの取り組みを始めた令和３年度はコロナ禍により校外学習に制限が生じたため、主にマスクをつけての「出前授業」に取り組んだ。また、企業説明会も校外に出て行きにくい状況だったため、学校に企業を呼んで企業説明会を行うというアイデアから「ジョブフェスタ」が誕生した。令和４年度は状況を考慮し、できる範囲内で工場見学、インターンシップを行った。令和３年度に１年生だった生徒たちは現在３年生になり、コロナ禍でありながら、出来ることを考え実施してきたことにより、このような様々な経験を積んでいよいよ就職をしていく学年となった。３年間の経験を活かし地元企業、とりわけ長田野工業団地に就職を希望する生徒が例年以上に多く、手応えを感じている。

＜京都府＞（種別：学校）　京都府立与謝の海支援学校

取 組 概 要

京都府立与謝の海支援学校は、京都府北部地域に位置する知的障害、肢体不自由を対象とした開校54年目の特別支援学校である。地域課題として高齢化、少子化、過疎化による人口減少が著しい。また、開校当時から「地域と共に」を理念として教育活動を進めてきているが、地域住民の障害理解がなかなか進みづらい現状にある。

そこで、

① 地域と学校、双方の抱える課題解決に向け、自治体や地元企業等と連携し、学校を核とした地域づくりを進めること。

② 地域課題の解決に取り組むことで、児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育み、地域を担う人材を育成すること。

③　児童生徒のもつ力を地域に発信し、障害理解促進と雇用拡大等につなぐこと。
と、指導のねらいを段階的に設定し、令和元年度より高等部を中心に、地域との協働による取組を進めてきた。

まず初めに、与謝野町の町おこし事業と連携を図り、与謝野町商業振興課（産業観光課）や事業への参画を検討している企業等と、学校を核とした町おこしについて意見交換、連携を進めた。そこで、「伝統をつなぐ」をコンセプトに企業との兼務人材による作業学習の指導や京都芸術大学、（公財）丹後地域地場産業振興センター等との連携、協働がすすみ、京都芸術大学生との連携による販売会に向けた取組（「製品の魅せ方」として学生から生徒が色合いやディスプレイについて学ぶ、大学生とのコラボによるポストカードの製作、教員が教授や学生から「ものづくり×アート」をオンラインにて学ぶ、学生と教員による製品デザイン開発会議開催等）を実施した。連携する際には、町おこしやものづくり等について、連携先の方から生徒、教員共に学ぶ機会を設定し、生徒たちが主体的に地域の課題解決に向けて考えることを大切に指導してきた。

取組が進むにつれて、教員がより多角的な視点をもって指導を進めるようになり、生徒は購入者の好みの色や形、布の色合わせ等を自ら考え、良い製品づくりを意識する姿勢が高まり、様々な地域や企業の方から製品の質について良い評価を直接受ける機会が増えることにより、生徒たちに自信や誇りが育まれていった。

伝統産業であるちりめんや特産物であるホップについて、まず企業等から学ぶ、連携により製品化を図る、さらに地元ホテルやレストランでの販売や製品使用等へとつなげる等、作業学習の授業だけでなく、各教科の授業と関連させた学習活動の展開により、町おこしのために自分にできることを真剣に考える生徒たちの姿勢が定着していった。また、製品の質や生徒たちの学習に向かう姿を通して地域住民の学校への理解が進み、積極的に教育活動に協力してくださる企業や地域の方々が増えてきた。地元の農業や漁業について学ぶ機会を得る、地域の特産物見本市への出展が京都市内の企業からのぶぶ漬け用茶碗の注文へとつながる等、取組がさらに次の展開へつながり進んでいる。

令和５年度、地元の老人との交流会「与謝の海サロン」を初めて実施した。生徒たちは、高齢者の方へ丁寧にわかりやすく木工・窯業・縫製作品の作り方を教え、物おじせずコミュニケーションを図り、参加者からは「支援学校への偏見が今日でなくなりました。」との感想があった。

与謝の海支援学校におけるキャリア教育の取組は、①から③のねらいを大切に、教科等横断的な学習として展開すること、生徒だけでなく教員も連携先から学ぶ機会を設定すること、外部からの良い評価・厳しいご意見を受けて改善策を考え、次の学習活動へとつなげ展開していくことにより、生徒たち自身が考え、積極的に人と関わり、就労への意欲へとつながった。生徒の姿が教員の意識改革や就労支援への意欲にもつながり、地域への貢献をとおして、生徒の自立と社会参加に向けた教育の充実へとつながっている。

＜兵庫県＞（種別：学校）　丹波市立春日中学校

取 組 概 要

丹波市立春日中学校では、学校教育目標「ふるさと春日を愛し、未来に向かって今を生きる生徒の育成」を掲げ、キャリア教育を核に据えた教育活動を展開している。

将来への夢や展望をしっかりと持つことができる生徒を育成するため、「明日の自分は、今日の自分がつくる」を合言葉に、アントレプレナーシップ教育を中心とした探究学習の推進に取り組むなど、その特色ある取組は秀逸である。

具体的には、キャリア教育の一環として、アントレプレナーシップ教育をキャリア教育の全体計画に位置付け、１年生から３年生まで、それぞれの学年で生徒が地域に飛び出し、主体的に取り組む年間指導計画を構築している。例えば、１年生では、自分たちのふるさとに興味関心をもつとともに、探究活動にチームで取り組むことで、課題発見していくための基礎となる力を身に付けることをねらいとした学習。２年生では、環境、伝統・文化、観光、商工業、農業、福祉・健康の６つのテーマから地域課題を発見し、未来志向を持って主体的に課題解決に向けて取り組む探究活動。３年生では、『たんばみらい学』として、地域資源の活用や課題解決について、地域の起業家や働く大人と意見を交換する活動。これらの学習活動の中で、「この問題を解決したい」「もっと良くするには、どうすればよいだろうか。」という思いを高め、主体的に問題解決のために必要な情報を集め、計画を立て、交渉し、失敗から学ぶことを繰り返しながら、生徒は、起業家精神というものを身に付けていくようにカリキュラム設計している。

このように、全学年で取り組むアントレプレナーシップ教育は、学校行事や生徒会活動で新しいアイデアを考えたり、自主的に挑戦したりするなど、生徒の積極性やチャレンジ精神を伸長する成果を上げている。

＜兵庫県＞（種別：学校）　兵庫県立太子高等学校

取 組 概 要

【兵庫県立太子高等学校のキャリア教育の特長～『太子メソッド』～】

太子高校では主要な教育目標を「自ら学び続ける生徒の育成」と設定している。この目標を達成するためのカリキュラムを「太子メソッド」と名付けて、全ての教育活動をつなげたキャリア教育を組織的・系統的に実施している。その中心となっているのが、１年次『産業社会と人間』、２年次『基本探究』、３年次『総括探究』（『基礎探究』『総括探究』は『総合的な探究の時間』の校内名称）で、これらの探究活動では、言語活動を積極的に取り入れたアクティブ・ラーニングを実施し、探究する力に加えて生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成している。また、『産業社会と人間』で育成した自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力を元に、豊富な選択科目から自分の興味・関心に応じた専門科目を積み上げ、未来を見据える力、探究する力、主体的な意思決定、自ら行動する力、課題対応能力を育成し、社会の変化に対応するために生涯学習を続ける能力を育成するキャリア教育を学校全体で推進している。

【主な取組内容】

（1）インターンシップの実施

太子高校では、１年次生全員と２年次就職希望生のインターンシップを実施している。令和３年度はコロナ禍のため１年次生には社会人インタビューの実施に留まったが、令和４年度は１年次生徒全員 200 名の受入れ先を地元商工会等の協力のもと確保し、インターンシップを実施した。事前指導として、インターンシップの目的の確認、マナー指導、受入れ先事業所へのアポイントの取り方等の指導に加えて実施前の気持ち等を整理させることで、実習中、事後に続く指導を行った。事後指導として、自己の振り返りをさせるとともに、事業所の方々も招いて報告会を実施した。

事業所へのアンケートでは、「生徒の姿勢・態度」は 4.4、「生徒の成長」は 4.2（５段階評価）等の高評価を受けており、インターンシップが生徒の成長に有効なものであったことがわかる。

（2）プレゼンテーション能力の育成（『産業社会と人間』『基本探究』『総括探究』）

１年次には、年間を通して「学ぶこと」「働くこと」について学習する中で、生徒の聞く、書く、話す、発表するなどの言語活動を充実させている。毎回「200 字意見文」を書かせて教員が添削指導したり、生徒同士の学び合いや対話を通して自分の考えを広げ、自らの学習活動を振り返ることで自分自身の達成点をはっきりさせ、次の活動につなげられるようにしている。また、持続可能な社会の担い手の育成を目指して SDGｓを扱い、聖徳太子ゆかりの「斑鳩寺」訪問等、地域社会について考えさせている。年度末には１年間の学びを通して考えた将来の自分について発表を行う。

２年次にはグループで課題を設定して１年間研究を続け、年度末にポスターを作成して成果を発表している。３年次には個人で課題を設定して１年間研究を続け、研究成果を 6000 字に及ぶ論文にまとめている。これら探究活動を通して、コミュニケーション能力を育成している。

（3）国際社会に貢献できるキャリア形成のためのグローバル・キャリア教育

日本をグローバルな視点で眺め、国際交流を通して異なる文化や価値観を理解し、母国への理解を深めるとともにアイデンティティの確立を図り、また、体験的な学習の機会を積極的に取り入れ、チャレンジ精神をもって国際社会の平和や発展に貢献する態度を育成するために、国際交流に力を入れている。令和元年度までは毎年、希望者を対象にオーストラリア及び台湾姉妹校で短期語学研修を実施し、姉妹校の生徒の受入れも行ってきた。コロナ禍の期間は、台湾姉妹校と ICT を活用し協働で旅行プラン等を作成する活動を行い、令和４年度に全国国際研究大会において奨励賞を授与された。令和５年度は８月にオーストラリア姉妹校での語学研修を実施した。さらに、10 月には台湾姉妹校生徒の受入れ、12 月には台湾姉妹校での語学研修を実施する。

（4）商業科目「総合実践」での起業家精神の育成

令和４年度には、生徒が太子町特産の「太子みそ」などを使った商品開発を行い、試作品を地元商店や食堂業者に提案した。そのうち、団子と「みそチャーハン」が商品として採用され、菓子店や食堂の協力のもと販売された。令和５年度も、同様の実践に取り組んでいる。

このように、本校は産業界・地域との連携を図り、生徒の発達段階に応じたキャリア形成の支援の充実に取り組んでおり、その成果も着実に現れているため、キャリア教育優良校として推薦する。

＜奈良県＞（種別：学校）　奈良県立香芝高等学校

取 組 概 要

奈良県立香芝高等学校は、スクール・ミッションの中で、「地域の高校として、地域の未来を担っていく人材の育成」を掲げ、言語活動を重視した探究型の学習を通して、情報活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育むキャリア教育に取り組んでいる。以下にその一例を挙げる。

１　表現探究コース

プレゼンテーションや創作活動、探究的な学習を重視し、NIE 実践指定校として社会問題について新聞を通して考察したり、複数の新聞社の新聞を比較したりすることで様々な表現技法等を実践的に学んでいる。言語能力、情報活用能力、コミュニケーション能力を活用し、他者と協働して課題解決にあたることのできる創造性豊かな人材の育成を目指している。

２　インターンシップの充実

大学等進学希望者を主な対象として、県内の大学との連携によるアカデミックインターンシップを実施している。アンケート調査から生徒の実態を把握し、インターンシップの内容を大学側と相談しながら丁寧に作り上げ、大学の講義への参加、学びを深めたい学問分野の研究活動等の体験、大学生との交流等を行っている。「総合的な探究の時間」や「ホームルーム活動」における事前指導・事後指導も含め、職業観を意識したキャリア教育を早期に行うことで、生徒の職業理解と自己理解を深め、主体的な進路選択を促している。

３　地元企業等との協働事業の実施

合同会社ＹＡＭＡＴＯ（ＦＭヤマト）とともに、ラジオを活用した教育活動やオリジナルＦＭラジオ番組の制作等を行ったり、毎日新聞社及び県教育委員会と連携協定を結び、新聞社が開発した教育・研修プログラムを活用した教育活動を進めたりすることで、キャリアプランニング能力の育成に力を入れている。

４　社会人講師によるキャリア教育講演会

「総合的な探究の時間」を活用して実施している。進路や職業に関する質問を事前に講師に提示し、その質問も踏まえて講演していただくことで、生徒の進路意識を高める一助としている。

【ホームページ】https://www.e-net.nara.jp/hs/kashiba/index.cfm/7,0,63,html

＜鳥取県＞（種別：学校）　鳥取県立日野高等学校

取 組 概 要

○「産業社会と人間（学校設定科目）」「総合的な探究の時間」等による地域連携を通じたキャリア教育の推進（日野高校魅力向上推進協議会の設立、日野高校魅力向上コーディネーターや地域サポーター、日野郡３町等との連携）

○県外生徒と地元の方との連携による地域活動の活性化

平成３０年度から、子どもたちが魅力を感じる教育や環境の構築、将来の地域社会を担う人材の育成、教育を核とした地域づくりを目標に様々なキャリア教育を推進している。１年次の「産業社会と人間」では、自分の生き方や進路について考えるため、社会人講師による講演や事業所・上級学校の見学、地域散策、おしどりトーク（地域の方と地域について語り合う交流）等を実施している。２年次の「日野探究Ⅰ（総合的な探究の時間）」では、地域への理解を深めるため、高校生の視点で地域の課題発見、解決案を提案している。３年次の「日野探究Ⅱ（総合的な探究の時間）では、地域の課題を解決するため、グループ内に地域サポーターを招いて探究活動に取り組み、学びの成果発表会で地域の方に報告している。その結果、３町３食パン（日野町、江府町、日南町の特産を使用）、防災食（地元産米、原木椎茸を使用）等の商品開発を行った。

アグリライフ系列では、地元小学生との農業体験交流、地域住民を対象にした農業体験講座、鏡陵大学と連携した地域交流、デュアルシステム等を実施、ヒューマンケア系列では、福祉施設の訪問、Ｗｅスポーツ（※）等を実施、情報ビジネス系列では、デュアルシステム、木谷沢渓流紹介ビデオ作成、地域の事業所にインタビュー活動等を実施した。※Ｗｅスポーツ（WはWelfare・Wellness・Weの頭文字を意味する）は、健康ゲーム指導士認定の生徒が、日野郡３町の福祉施設等を訪問し、太鼓の達人などｅスポーツを通じて高齢者と交流する活動。その功績から「健康ゲーム大賞教育部門」（日本アクティビティ協会）を受賞した。

県外から入学した生徒との地域交流では、地元のお祭りへの参加、農業体験、清掃ボランティアなどや、黒坂フェスタで「みらいず」というグループを作り、スマホ教室や出身地ならではのお菓子を作って販売するなど、地域の活性化につながる活動をしている。

これらの様々な地域との連携活動によって、生徒が自己有用感を高め、他者理解における自己の成長を実感している。以上のように、地域社会の発展に貢献できる人材の育成及び生徒のキャリア形成に寄与している。

＜岡山県＞（種別：学校）　矢掛町立中川小学校

取 組 概 要

児童がよりよい生き方について考え、豊かな心を育むことができるよう、校内で部会を組織し、課題を主体的に解決していく取組を系統的に取り入れた教育課程を編成するとともに、各教科等のつながりを示した指導計画を作成した。地域への愛着や地域貢献意識を育むため、地域と連携しながら実施するフィールドワークや販売体験等、社会体験活動を充実させた。

○各教科等の学習内容を可視化した指導計画の作成

地域と連携しながら行っていた体験活動を、学年や教科を越えて一貫して行うために、令和４年度に金融・金銭教育の視点で、低学年から高学年までの学習内容のつながりを示した指導計画（つながりシート）にまとめ、各教科等の関わりを可視化した。令和５年度には、シートをさらに充実させ「ふるさと中川っ子カリキュラム」を作成するなど、組織的・系統的な取組が定着している。

○地域と連携した社会体験活動の充実

地域の企業見学や、地域の方と協働して栽培した野菜の販売等、金融・金銭教育の視点と関連付けた社会体験活動を通して、地域への理解を深め、働くことの意義を考えたり、なりたい自分やよりよい生き方について考えたりする取組を行った。学習を通して自分たちが考えたこと等をまとめて発表するなど、地域への愛着や地域貢献意識を養うための活動を行った。

○児童の変容等

６年生を対象としたアンケート結果から、協働的に学ぶことの意義を強く自覚できるようになり、地域への理解や愛着が育まれ、主体的に地域に貢献しようと考えられようになったことがうかがえる。

＜岡山県＞（種別：学校）　備前市立吉永中学校

取 組 概 要

社会との繋がりが意識できる学習を通して自分の将来や生き方を主体的に考え、自分で立てた目標に向けて粘り強く行動できる生徒を育成するため、キャリア教育を学校経営の基盤に据えている。「立志証」を用いた熟考や話い合い活動、教育相談を通して、全学年で将来に向けての目標を立てる場面を設定するなど、生徒自身がＰＤＣＡサイクルを回す取組を組織的・系統的に行った。

○「立志証」を用いた組織的・系統的なキャリア教育

なりたい自分をイメージし、その実現に向けて具体的な行動につなげていけるよう、４月当初に全学年の生徒が、１年間の行動目標等を示した「立志証」を作成している。初めて「立志証」を作成する１年生に対して上級生が書き方や「立志証」に対する考えを伝える場を設定したり、教育相談で定期的に振り返ったりするなど、目標の実現に向けた見通しを持たせ、具体的な行動に繋げる取組を組織的・系統的に行った。

○地域と関わりながら進める課題解決型学習

社会に開かれた教育課程を実現するため、中学校生活で身に付けさせたい力を生徒や地域と共有した上で、地域の人・もの・行事と関わる中で課題を見出しその解決に向けた取組を行う課題解決型学習を推進した。地域と一体となって取組を進めることを通して、課題を見出す力や社会参画意識を養うことができた。

○生徒の変容等

取組の効果を検証する目的で実施した３年生対象のアンケート調査の結果からは、目的や目標を意識して行動することが定着してきていることや、地域に対する課題意識や地域貢献意識が育ってきていることがうかがえる。

＜岡山県＞（種別：学校）　岡山県立玉島商業高等学校

取 組 概 要

当該校は、自らの在り方、生き方を考え、目標を持って主体的に進路を選択し、将来にわたって自己実現を図ることができる生徒を育成することをキャリア教育の重点目標に掲げ、特別活動を重視した学校経営により、地域と連携した取組やホームルーム活動を繰り返すことにより、将来を見通した取組を行っている。

地域から愛される学校を目指して、地域連携に取り組むことで、地域の方から、それらの取組が地域活性化に大いに貢献しているとの意見もいただき、生徒の自己有用感も高まっている。

○近隣幼稚園との合同避難訓練

「防災意識の向上」「高校生ができる社会貢献とキャリア教育」「これからの行動や将来の見通しを立てることや、探究活動につなげること」をねらいに、近隣幼稚園からの要請を受けて学校を避難場所として提供するという想定で実施した。事前・事後学習には、１人１台端末を活用しクラス内で情報を共有することで、今後の活動の見通しを立てることができ、また、活動を通して、地域で果たす高校生の力を再認識したり、幼い頃の自分と重ね合わせて成長を実感したりする生徒が増加した。

○地域活性化につながる持続可能な地域連携

商業で学んだスキルを活かし、「残反（布の端材）を有効活用した商品開発」や「ご当地キャラクターを有効活用した商品開発及び玉島のＰＲ」などの実践に取り組み、そこからさらに「持続可能な地域連携を行うこと

は、地域活性化につながる」という仮説を立て、フードロス対策である「コノヒトカン」を活用した社会課題解決のアイデアを企画し、アイデアコンテストで受賞するなど、新たな成果も得られた。

○「キャリア・パスポート」を意識した活動

学校経営目標を共有し、ホームルーム活動の具体的な提示や、「キャリア・パスポート」活用の再確認をするなど、校内におけるキャリア教育を系統的・組織的に整理した。中学校の「キャリア・パスポート」とのつながりも意識しながら、生徒へは、１人１台端末を利用して日々の活動を入力させ、年度初め・中間・年度末に所定の書式へ記入させるとともに、活動記録と合わせて１冊のファイルにポートフォリオとしてまとめている。

＜広島県＞（種別：学校）　福山市立新市中央中学校

取 組 概 要

(1) はじめに

新市中央中学校区は、豊かな自然や伝統の下、昔から繊維産業で発展してきた町「新市町」にある中学校である。令和４年度に、同町内にあった常金中学校と再編し、新しい新市中央中学校がスタートした。令和５年度にはコミュニティ・スクールが導入され、新市町の小中学校５校と地域が一体となって児童生徒の成長を支える取組を進めている。また令和３年度より、広島県教育委員会指定事業、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の３年間の指定を受け、研究と実践を進め成果を上げている。

(2) 研究のねらい

各種調査結果と日々の児童生徒の姿から、次の３点が新市中央中学校区の課題として明らかとなった。

①夢や目標実現へのプロセスを描けていない。

②地域のコミュニティ・企業の地域振興についての理解と実感が乏しい。

③様々な場面と相手を意識した自己表現力に自信がない。

以上を踏まえ、研究の目的を「地域や地元企業と連携した『自己を表現することができる子ども』を育成するカリキュラム開発」とした。「自己を表現する子どもに必要な力は何か」という観点から育てたい資質・能力について中学校区で検討を重ねた結果、「チャレンジ&チェンジする力」「自己理解力」「自己表現力」の３つを資質・能力の柱とし、発達段階に応じて作成した系統表をもとに、カリキュラム開発を進めた。

(3) 具体的な取組

①社会とつながる「出前授業」の推進

今の学習が将来どのように役立つかという発見や自覚が、自分の進路、将来設計、進路の選択・決定への意欲を高め、子どもたちの日頃の学習や生活態度は大きく変化する。このような発見や自覚は、実際の体験における「分かった」という具体的な体験を通して得られていく。そこで新市中央中学校では、実際に地域社会で活躍している企業・人材を活用する「出前授業」に力を入れている。

「出前授業」で実社会とつながる体験をすることを通して、「自分にはまだこんな力が足りないな」「現在身につけているこの力は通用するな」など、自分の現状を見つめ直し、日々の学習への取り組み方が変わったり、自分の将来やりたいことを深く考えたりする姿が現れるようになってきている。

また、「出前授業」が単発のイベント的な取組にならないよう、実施する教科においては、単元の学習の流れの中に位置づけ、教科学習のねらいを目指す過程でキャリア教育を通してつけたい資質・能力をつけていく実践を進めている。さらに、事前の打ち合わせでは学習を通じて生徒につけてほしい資質・能力を連携シートを用いて企業側と共有するとともに、実施内容、連携の記録を残し、担当者が代わっても引き継ぎができる取組を行っている。

②生徒・学校の実態を踏まえたカリキュラム開発「企業探究学習」「職場体験活動の充実」「企業による面接体験」

●「企業探究学習」

２年生の総合的な学習の時間において、地元の企業・団体から「ミッション（探究課題）」をだしてもらい、そのミッションに対してグループで解決案の企画・発表を行うというプロジェクトを行っている。これは、令

和３年度まで３年間行ってきた「教育と探究社」の「コーポレートアクセス」という学習プログラムをベースに、キャリア教育を通じて育てたい資質・能力に合わせて、再構成したものである。

プログラムは、４つのセクションで構成されている。セクション１では、探究活動のチーム作りと担当企業について調べる活動を行う。セクション２では、街頭アンケートを実施したり、企業の方に講話していただいたり、直接やり取りしたりすることを通して、担当企業への理解を深めるとともに、「仕事とは何か」を考えることができる活動となっている。セクション３では、中間発表を行った後、企業の方に直接助言をいただいた後、企画会議・発表をしながら、最終的な企画案を考えていく。そして、セクション４では、これまでの指導していただいたことを踏まえた最終報告会を実施する流れとなっている。

企業の方と直接やり取りして提案したり、フィードバックをもらったりする機会が数多く設定されているため、生徒達は自分たちの考えを何度も修正しながら粘り強く取り組んでいる。その結果、生徒が３つの資質・能力の高まりを実感できるプログラムとなっている。

●「職場体験学習の充実」

職場体験活動が「総合的な学習の時間」の中で、単発の活動になっており、「他者と関わる力をつけてほしい」「仕事の大切さを実感してほしい」という漠然としたねらいの下で行われているという課題があった。そこで新市中央中学校では、これまでの職場体験活動の位置づけやそこに至るまでのプロセスを見直し、「企業・生徒と資質・能力を共有すること」と「事前・事後指導の充実を図ること」の２点を中心に、職場体験活動を中軸においた大単元の開発を行った。主な改善点は次のとおりである。

【企業・生徒と資質・能力を共有】

〇新市中央中学校がつけたい資質・能力を受け入れ企業と共有するために「連携資料」を作成し、事前打ち合わせの際に、資質・能力の具体的な姿の例をシートに記載して伝えた。

〇「連携資料」の中に資質・能力の具体の姿に対する声かけ例とルーブリックを記載した。

〇「実習ノート」において、企業が資質・能力の観点からフィードバックができるように、生徒が振り返りを書くコメント欄を改善した。

〇「実習ノート」において、生徒が資質・能力の視点からの振り返りができるように、資質・能力に係るルーブリックを記載した。

【事前・事後指導の充実】

〇職場体験活動を見据えて、広島県社会労務士による「仕事の意義・ルール」、官公学生服による「マナー講座」の出前授業を実施した。

〇これまで１学期に行っていた「地域調べ」を、「新市の産業」をテーマにして、職場体験学習で実際に行くことになる企業や地域の事業所について調べる活動とし、職場体験活動と結び付けた。

〇中学校区内の小学６年生に職場体験活動の学びについて発表する場を設定した。

●「企業による面接体験」

進路に関わる面接指導は、面接ガイドの活用と教職員・生徒間の面接練習にとどまっていた。これを企業との関わりをうまく活用できるよう改善を試み、新たに「進路探究」という大単元を開発した。企業面接をまとめの活動にすることで、重点的に「自己表現力」の向上を図った。

まず、面接はどのように考えたり振舞ったりすればよいのかを知りたいという生徒の思いから、自分の考えを効果的に伝える方法と面接時のマナーについて出前授業を実施した。次に、生徒間や教職員と面接を行い、自分の伝えたいことは何か、自分の強みは何か整理していった。そして単元のまとめとして、企業の方を面接官に迎え、面接体験を実施した。実施する際は、事前に企業側と評価の視点を共有するために評価シートを作成した。評価項目は、広島県公立入試の自己表現の評価項目と新市中央中学校で設定している資質・能力の系統表を照らし合わせながら作成した。外部の方からフィードバックをもらうことで、生徒は新たな視点で自分を見直すことができ、自己理解の向上につながった。

(4)本取組における成果

令和４年度に実施した３つの資質・能力に関するアンケート結果から、３年生が「自己理解力」「自己表現力」の高まりを実感している割合を伸ばしており、新たな開発単元である進路探究に一定の成果があったと言える。

その他の学年・項目ついては、数値の伸びこそ見られないが全ての項目で肯定的評価が約８０％と高い数値を示している。これは、新市中央中学校が中心となって、中学校区で取り組んでいるキャリア教育の取組の成果が表れている結果であると言える。

＜広島県＞（種別：学校）　北広島町立大朝中学校

取 組 概 要

大朝中学校区（小学校２校、中学校１校）は、令和３年度より県から「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の３年間の指定を受け、キャリア教育推進リーダーを中心に、地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実を中核としたカリキュラムの開発・実践を行っている。県教委主催の研修では、「組織的な推進体制づくりと「資質・能力」の共有について」の実践発表を行い、研究の成果の普及に貢献し、キャリア教育の充実発展に尽力している。以下、主な取組について示す。

１　大朝中学校区における資質・能力の設定と共有

〇児童生徒の実態を踏まえた資質・能力の設定と焦点化

大朝中学校区では、キャリア教育アンケートの結果分析から、身に付けたい資質・能力を「主体的行動」と設定した。また、「主体的行動」を「一歩前に踏み出す力」「チームでやり遂げる力」の２つの力に設定し、９年間の資質・能力の系統表を作成している。系統表は、スムーズな接続のために、小・中学校の接続の時期は同じ目標を設定している。また、教科における２つの力の定義、基本形のルーブリックを作成したりするなどの取組を進めている。

〇資質・能力の共有

身につけさせたい資質・能力の具体的な姿を、教職員だけでなく、児童生徒とも共有することを大切にし、実践している。各学校行事では、学年ごとに児童生徒自らの目指す姿や目標を設定し、振り返る取組を進めている。各学年の目標や活動の様子や振り返りは、掲示して共有することで、自分自身や学年、学校全体の成長につなげることができている。

〇資質・能力の検証改善

年４回の大朝中学校区の全員研修において、各小中学校の授業研修を実施し、児童生徒の様子やルーブリックについて協議し、改善している。

２　小中連携による研究組織の構築

大朝中学校区に５つの部会（資質・能力部会、出前授業部会、独自の取組部会、職場体験部会、面接体験部会）を設置し、全教職員を各部会に位置付け、役割の明確化を図っている。また、部会代表者による担当者会を定期的に行い進捗状況の確認をするなど、校区内の職員全員が一体となってキャリア教育に携わっていく体制を構築している。

３　地域・産業界等との連携・協力

〇中学校における職場体験活動の充実（５日間、10 事業所で実施）

働くことの意義やよりよい生き方を学ぶこと、体験から日々の生活を振り返り、確かな進路選択へ向けての実践力と自己選択・自己決定力をつけることを目指し、次のような実施方法の工夫をしている。

［実施の流れ］

１．社会人基礎力の能力要素をもとに自己分析
２．受け入れ先事業所に、「事業所の紹介」と「事業所で求められる資質・能力」を記入した求人票を作成していただく
３．自己分析の結果から自分に必要な力を踏まえ、求人票をもとに体験する事業所を決定
４．職場体験の実施
５．職場体験終了後、事業所からのコメントと「ルーブリック表」を用いた自己評価の実施
６．事業所の方、保護者、１年生を招待し、まとめを発表

○中学校における外部人材による面接体験（総合的な学習の時間「自己実現を図る進路学習」の実践）

外部人材の協力による面接では、面接官の視点から自分の将来や生き方、見方や考え方についての具体的な助言をいただくことで、生徒自身が深く自分を見つめ、今後の生活に生かすことをねらいとして以下のような流れで実施している。また、教職員以外の社会で活躍する職業人の方の前で自分の考えを堂々と述べる機会を意図的・計画的に設けることを通して、表現する力を高めることをねらいとしている。

［実施の流れ］

１．面接官役の方に目的・内容を事前に説明

２．生徒への事前指導（本校職員）

３．面接体験（生徒は２名１組となって実施）

＜広島県＞（種別：学校）　広島県立世羅高等学校

取 組 概 要

教育目標に「高志挑戦」「感謝貢献」を掲げ、生徒の主体性を高めるとともに、地域を愛し、一人一人が生涯を通じて多様な分野で挑戦することで社会貢献に寄与できる資質･能力を育成するための教育活動を推進している。

（1）産業界等と連携したキャリア教育

産業界等と連携した学習の中で、課題発見・解決能力を高め、机上で学んだ知識を技術として体得できる教育活動を推進し、生徒の社会に対する関心を高めるとともに、新しいことや困難なことに果敢に挑戦し、社会や組織のよりよい変革に貢献しようとする社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成している。

【産業界等と連携したキャリア教育の取組】

ア　世羅茶復活プロジェクト

イ　世羅梨ブランドを守るプロジェクト

ウ　絶滅危惧種保護プロジェクト

エ　都市養蜂プロジェクト

（2）起業体験に係る取組

総合的な探究の時間において、民間企業と連携し、ＡＩの活用、キャッシュレス社会、メディアリテラシー、ＷＥＢマーケティング等の基礎を学び､実際に商品開発から販売を行うことによりＩＴビジネスを身近に感じ、新たな事業を創造し、リスクに挑戦する姿勢をもった、起業家的行動能力を育成している。

【企業体験に係る取組】

ア　ＩＴ人材育成プログラム（ヤフー株式会社）

イ　ＡＩチャレンジ（ソフトバンク株式会社）

（3）自治体等と連携した地域課題解決の取組による地域を担う人材の育成

総合的な探究の時間等において、世羅町と連携しながら地域の課題を発見し、解決するための学びを推進している。

【地域課題解決の取組】

ア　かんたんスマホ相談会（地域のデジタルデバイドの解消）

イ　こども食堂「せら夢カフェ」（地域の子供たちの交流の場の創出）

ウ　世羅町議会意見交換会の実施

エ　世羅町への提言（地域活性化のアイデアを世羅町役場に提言）

＜山口県＞（種別：学校）　長門市立明倫小学校

取 組 概 要

１．地域課題の解決に向けた総合的な学習の時間の取組

長門市立明倫小学校の６年生では、地域の人、もの、ことのよさや関わる人々の思いや願いに気付くとともに、地域のために自分たちができることを考え、自らの生活や行動に進んで生かすことができるようにすることをねらいとし、「おむすびプロジェクト」に取り組んでいる。この「おむすびプロジェクト」は、昨年度（５年生時）

から始めた学習で、当時はおむすびの具材を検討するなど、おむすびの味や評価にこだわってきた。今年度は、テーマを見直し、三隅地区の歴史的背景（村田清風の四白政策など）を学び直す中で、地域の「人」を切り口にした取組が展開されている。

子どもたちが地元の米や塩を用いたおむすびを考案し、地元の県立高等学校が食材面でのサポートを行い、地元企業が子どもたちの願いを商品として形にしながら、商品開発に取り組んでいる。今後、さらに県立高等学校や地元企業との連携・協働を進めながら、道の駅での試食会・アンケート調査や域内のイベントでのおむすびコンテストなどを経て、実際の販売へと活動が進んでいく予定である。

明倫小学校では、６年生以外の学年でも、ふるさとについて学ぶ教育活動に取り組んでいる。５年生では、ふるさとのすばらしさを他者に発信する活動を考えることや、将来の自分の生き方や考え方につなげることができるようにすることをねらいとし、三隅地区の三賢人の一人である「香月泰男」に焦点を当て、「香月泰男美術館」への来客数を増員しようという課題の下、総合的な学習の時間を進めている。

また、３年生では地域の祭りや神楽舞等を、４年生では三隅の人のかがやきをテーマにした総合的な学習の時間の単元が設定されており、学ぶ目的意識を明確にし子どもたちが多くの人と関わる中で、コミュニケーション能力や発信する力の育成、子どもたちの地元への理解・愛着・誇りを育む教育活動が、地域課題の解決、地域との連携・協働を図りながら展開されている。

２．カリキュラム・マネジメントを意識した各学年「ロードマップ」の運用

学校・地域連携カリキュラムやキャリア教育全体計画を基に、各教科等との関連も意識しながら具体的な教育活動を見える化した「ロードマップ」づくりに取り組んでいる。この「ロードマップ」は、学年ごとに作成し、学期末に振り返りと再デザインが行われる。そうすることで、目の前の子どもたちの実態に即した教育活動が常に展開されるようにしている。「何をするか」だけではなく、子どもたちに「どんな力を付けるのか」「どうなってほしいか」を明記することで、子どもたちの「めざすべき姿」のゴールイメージをもった、見通しのある教育活動が行われている。

また、学期ごとに検証改善することを校内研修に位置付けることでＰＤＣＡサイクルを効果的に回し、子どもたちに資質・能力が身に付くよう、組織的な取組が進められている。

＜山口県＞（種別：学校）　　宇部市立東岐波中学校

取 組 概 要

○地域を担う人材を育成するというビジョンを学校、家庭、地域で共有

- １小１中である東岐波中学校区では、グランドデザインに小中一貫教育目標として、「自ら社会とかかわり自分を生かす東岐波っ子の育成～１０年後の地域・社会を支える存在をめざして～」と掲げ、卒業後の子どもたちの姿をイメージしながら、学校、保護者、地域がビジョンを共有し、一体となって教育活動に取り組んでいる。
- 総合的な学習の時間に着目した小中９か年の地域連携カリキュラムを作成し、キャリア教育の流れを見える化している。

○総合的な学習の時間における地域と連携した組織的・系統的な取組

（１）「魅力ある未来の東岐波を考えるプロジェクト」の取組

３年生が、起業体験の要素の大きい①～⑤の５つのテーマに基づいた課題を各グループで設定し、調べたり、実際に活動したりして、レポートを作成し、文化祭で発表する。

①「観光」地域の魅力づくりと魅力をアピールしていく
②「伝統」地域の歴史をたどり、伝統的な行事などを継承していく
③「産業」特産品（地域のブランド）
④「人・福祉」住みやすさNO.１をめざして！どの世代も住みよい暮らし
⑤「災害・防犯」災害から守る暮らし

（2）「働く人の話を聞く会」の取組

２年生が、職業体験イベント「みらいWalkers★UBE」で学んだことをさらに深めるために、様々な職業の方の話を聞き、自己の生き方や将来の職業選択の幅を広げた。令和４年度に地域から招いた講師の職業は、看護師、薬剤師、獣医、保育士、スポーツ、IT系、美容師、出版（編集者）、パティシエと多様であった。

○コミュニティ・スクールを核とした、社会で生きる力を培う教育活動の充実

・生徒が地域行事に運営スタッフとして参加することで、地域への　参画意識を育む。（地域運動会、ふるさとまつり、どんど焼き、日の山園まつり）

・地域の方と一緒に作業や協議をすることで、郷土愛を育む。（海岸清掃、オリーブ収穫、岐波地区「MIRAIサミット」、フラワーロード整備）

＜山口県＞（種別：学校）　　山口県立厚狭高等学校

取 組 概 要

１　推薦校概要

創立150年目を迎える普通科と総合家庭科２学科からなる１学年３学級の学校であり、本県の家庭科教育の中心校として、各種全国大会においては毎年全国トップクラスの成績を収めるとともに、スクール・ミッションにも計画的・効果的なキャリア教育の推進と生活の質の向上に向けた課題解決型学習等を通した人材育成が示されている。

また、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして計画・実践・評価しながら、従来から積極的に取り組んできた地元企業や他校他学科との連携・協働による商品開発や伝統文化を継承する取組などを持続可能なものとさせるべく、長年にわたり学びと社会のつながりを意識したキャリア教育の充実を図っている。

２　学校経営におけるキャリア教育の位置づけ

（1）学校経営方針

・スクール・ミッション

確かな学力と豊かな人間性を育む教育や計画的・効果的なキャリア教育を推進するとともに、他校・他学科や地域・社会と連携・協働した生活の質の向上に向けた課題解決型学習等を通して、未来を切り拓き、地域・社会の発展を担う、人間性豊かな人材を育成する。

・教育活動推進方針

「自ら考え、行動し、他者と協働する人物の育成～大人が育つ学校づくり～」

（2）キャリア教育によって育む生徒像

「志を高くもち、自らの進路を主体的に切り拓いていくことのできる生徒」

３　主な取組について

（1）総合的な探究の時間

➢自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力の育成

○課題解決型学習「あさ散歩」

地域の課題を発見して解決する課題解決型学習を実施する。具体的には数人のグループをつくり、地元の厚狭中学校出身の生徒が１グループに１人ずつ入り、まずは厚狭地域の良さを伝えて、地域を案内する活動を行う。その後、地域がより一層活性化するために、自分たちに何ができるか考える活動を実施する。その際、学校運営協議会の委員などの地域の方々と協議し、コミュニティ・スクールのＣＳサポーターも企画・運営に携わるなど、地域・社会と協働した活動を実施している。

（2）体験的・実践的な活動

➢課題対応能力・キャリアプランニング能力の育成

ア　スペシャリストの基礎を育む「プロ」から学ぶ講習会の実施

① 服飾系

ファッションデザイン画、布花製作、ジャケット製作、和裁等の講習会

② 食物系

西洋料理、スペイン料理、和食、ふぐ料理、デコレーションケーキ、焼き菓子、パン、シュークリーム、おもてなし等の講習会

イ　県内の専門高校の他学科や地元企業等と連携・協働した探究活動

① 地元特産品を活用したやまぐちの「おいしい」を伝える商品の開発

梅ぼしと玉ねぎのドレッシング、てぬぐい、寝太郎かぼちゃタルト、マーマレードブッセ、八朔のオランジェット等、他校他学科や地元企業と協働して試作を繰り返しながら開発を通した起業家教育を実施

② 藍の栽培から手掛けた藍染技法を用いた山口県の伝統工芸「柳井縞」製品の開発を通した伝統文化継承活動

③ 保育園児のお遊戯会の衣装製作

園児の採寸→デザイン考案→衣装作り→園児にプレゼント→お遊戯会で披露といった一連の活動を実施

ウ　総合家庭科「課題研究」における探究活動

①服飾系

ファッションショー及び全国クリエイティヴコンテストに挑戦

②食物系

様々な方々のおもてなしに挑戦（他学年在校生、保護者、教職員、学校運営協議会委員等）

エ　地元企業と連携したその他の活動

①企業から学ぶ専門高校カーボンニュトーラルプロジェクト

県事業「企業から学ぶ！専門高校カーボンニュトーラルプロジェクト」を活用し、地産地消、旬産旬消、有機栽培農産物の利用を促進することで、温室効果ガス削減に繋げることに加え、食品ロス削減方法やエコクッキング、洋服のリメイクなど、家庭におけるゴミ削減の方法についても調査・研究する探究活動を実施

②インターンシップ

縫製会社、ケーキ屋、飲食店、保育園等の生活産業に関する企業での体験実習

オ　資格取得に向けた取組

家庭科食物調理技術検定、家庭科被服製作技術検定（和服・洋服）等

（3）ボランティア活動・交流活動

➢人間関係形成・社会形成能力の育成

家庭科を中心とする学校での学びを生かして、家庭クラブ役員が企画・運営を担い、学校や地域生活の充実・向上をめざす活動を全校生徒が家庭クラブ活動として実践している。

【主な取組】

〇地域への貢献

・初代校長毛利先生の墓所を年２回清掃
・交通安全マスコットを作成配付
・地域恩返しプロジェクトウォークフェスタ
・こども食堂ボランティア
・地元中学校での学習ボランティア

○地域の子どもとの交流
・放課後あそび隊
・近隣の保育園児との芋ほり交流会

（4）学ぶことや働くことの意義や役割を理解させ、将来を設計する力を育成する活動
➢自己理解・自己管理能力の育成・キャリアプランニング能力
ア　創立１５０周年記念講演会
「プロデュースが未来を変える～可能性は自分自身の考え方で変わる～」
講師：吉本興業(株)音楽事業本部・音楽事業部長
(株)よしもとミュージック取締役　永田　恵介　氏

イ　卒業生による「学び方」「生き方」についての講演会

ウ　キャリアカウンセラーによる山口県の就職状況や就職活動に向けた講演会

エ　就職マナー講習会や大学・専門学校等の出前授業、上級学校見学

４　今後に向けて
以下の３点を柱に教育活動を一層充実させることにより、「ふるさとの良さを再発見」することや「社会や職業との関連を意識付けること」「将来の夢を描き、『生きがい』につながる力の育成を図る」ことを生徒に体験させ、学校と家庭、地域、産業界等が連携・協働しながら、「大人が育ち、大人が学ぶ学校づくり」を進めていくこととしている。

（1）夢を抱かせ、さらに夢を志に進化させる教育の推進を一層充実
「総合的な探究の時間」における取組を、３年間を通した系統的な学びになるよう発展させ、学校で学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育を一層推進

（2）山口県の郷土に誇りと愛着をもち、地域・社会に貢献しようとする人材の育成
県内にある家庭に関する学科の中心校として山口県の産業教育を推進するとともに、他校他学科や地元企業、行政機関等と連携・協働した実践的・体験的な活動を通して、山口県の魅力ある人的・物的資源との出会いの場を創出

（3）全教職員共通理解の下、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした組織的・効果的な取組を一層推進
教科「家庭」や「総合的な探究の時間」等の教科・科目を主軸として、教科等横断的な教育活動を学校全体で展開し、学校運営協議会による評価、計画の見直しをしながら、地域と学校が両輪となってキャリア教育を一層推進

＜徳島県＞（種別：学校）　美馬市立木屋平中学校

取 組 概 要

【取組概要】
美馬市立木屋平中学校は、徳島県教育委員会「小中一貫教育（徳島モデル）推進事業パッケージスクール研究指定」（令和３年～5 年度）を受けている。さらに、へき地教育研究では「第 66 回徳島県へき地教育研究大会」の会場校である。本年 11 月７日(火)には、「子どもたちの『多様な学び』を保障し、未来の創り手を育む」を研究主題として、２つの研究成果を併せて報告するなど、剣山山系の山間部に位置するへき地３級指定・複式・小規模の学校でありながら、特色ある取組を精力的に実践している。

【主な取組】
①勤労生産体験(そば栽培・米作り等)②伝統文化体験(傘踊り・竹箒づくり・神事祭り体験等)③職業体験学習(職場体験・大学訪問・林業体験等)④「ようこそ先輩」事業(令和５年度は、５名招聘)⑤思考力・表現力等の育成(ＮＩＥの推進)。

【成果】
幼小中併設校であるがゆえ、幼稚園、小学校・中学校の１２年間は、日々の生活そのものが「学びの連続性」を有し、児童、生徒の成長に大きな好影響を生み出している。園児３名、児童４名、生徒１名の合計８名の子どもたちは、日々、年長者が年少者の模範となるよう促すことで、年少者は身近な目標をもって生活するようになるなど好循環を生み出している。特に最上級の中学生は、児童にとってのよきロールモデルとなりながら、互いに協力し、様々な学校行事に意欲的に取り組んでいる。また、様々な勤労生産体験・多様な交流学習を活発に行うことにより、地域の方々(「ようこそ先輩」事業や職業体験学習等)や保護者等の協力を得ながら「多様な学び」を積み重ねるなど、ふるさとの木屋平や未来の担い手となる子どもの育成を続けている。
以上のとおり、小規模・小中併設校の特性を生かしたキャリア教育を展開することで、生徒の地域に深く根ざしたキャリア意識を高める独自の取組を実践している。

＜徳島県＞（種別：学校）　板野町板野中学校

取 組 概 要

【取組概要】
板野町板野中学校では、キャリア教育パネルディスカッションや県内企業とタイアップした商品開発等、地元企業や地域団体と連携して、生徒のキャリア教育の充実の推進に継続的に取り組んでいる。令和３年度には「キャリア・パスポート」スタートアップ事業の指定を受け、「キャリア・パスポート」を充実する実践により、徳島県内での好事例となっている。

【具体的取組】
１　キャリア教育パネルディスカッションの実施（対象　２年生）
パネラーとして、多様な分野の地元企業・団体の代表を招聘し、意見を聞いたり質疑応答を行うことで、将来の働く姿を想像し、仕事を通して地域や社会の役に立つことなどについて実感を持って学んだ。
２　地元製菓メーカーとの連携による商品開発・販売（対象　１年生）
新しいロールケーキの商品開発を目指して、地元製菓メーカーと連携した取組を行っている。製菓メーカー代表の講演を経て、生徒は開発する商品について、地元の特徴や地元産品を入れるなど検討を重ねている。マーケティングやコマーシャル戦略について学んでいる。
３　生活記録を兼ねた「キャリア・パスポート」「明日への扉」の活用
日々の生活の振り返りに加え、自分で設定した１週間ごと、月ごとの行動目標を自ら設定し、定期的な振り返りを積み重ね自己肯定感の向上に努める。

【成果】
パネルディスカッションは、「やればできる」ということを生徒に強く訴える内容で、生徒の行動目標への取組状況と重なり自己肯定感を高める要因となっている。また、商品開発・販売の学習では、地元への理解や愛着を深めていくとともに、将来地元に誇りを持ち、地元を担う意識を高めている。さらに、「キャリア・パスポート」を用いて成長の足跡が可視化されることで、生徒が自らの価値観に気づき、高めあう人間関係を築く力を意識して、自分で伸ばし、自己肯定感を高めている。

以上のとおり、地域と連携するとともに、振り返りを重視したキャリア教育により、生徒のキャリア意識を高める実践をしている。

＜徳島県＞（種別：学校）　徳島県立池田支援学校美馬分校

取 組 概 要

【取組概要】

平成28年に地域住民とふれあい、接客も学べるオープンカフェ「支援学校みまカフェ」を整備し、障がいのある生徒の活動の場を「学校」から「地域」へと拡大した。

また、「支援学校みまカフェ」を軸としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、これまでの活動をブラッシュアップし、新たに地域とのつながりを創出している。

【具体的取組】

1　支援学校みまカフェを核とした「SDGs」の実装

生徒たちが接客をとおして地域住民とふれあい、社会性やコミュニケーション能力などの向上を図ることを目的に、毎月第１～第４木曜日(祝祭日、長期休業中を除く)の11時30分から14時までを活動日として設定し、年間延べ約1,000人の方が来店している。

2　支援学校みまカフェを軸としたカリキュラム・マネジメントの構築

カフェの活動をより発展させるため、大学の専門家と連携し、カリキュラム・マネジメントを実施している。これまで積み上げてきた教育を整理し、校内のSpace(居場所)、学校で学んだSkill(技術)、地域との交流から生まれるSmile(笑顔)を地域とシェアリングする「３S活動」を推進している。

また、休耕地を借用し、地域の農家さんから教わりながら一緒に育てた野菜を、支援学校みまカフェ来店者をはじめ、近隣の福祉施設や子ども食堂等へ提供するなど、地域との新たなつながりを創出している。

【成果】

活動の場を「学校」から「地域」へと拡大することで、知的障がいのある生徒たちは地域に貢献する喜びを知るとともに、利用する地域の方々は、特別支援学校の取組や障がいに対する理解が深まっており、様々な立場の人が地域でともに支え合いながら暮らすことができる地域モデルとして活動を推進している。

また、カフェの運営によって近隣の福祉施設等との交流が深まり、施設の清掃活動等のボランティア活動にも継続的に取り組んでいる。

以上のとおり、活動の場を地域に広げ、組織的に生徒が主体的に就業に関わるキャリア教育を実践している。

＜愛媛県＞（種別：学校）　松山市立番町小学校

取 組 概 要

松山市立番町小学校は、継続的かつ効果的な「キャリア・パスポート」の活用や同一校種・他校種、地域と連携した協働的なキャリア教育を積極的に推進し、成果を上げている。

○「キャリア・パスポート」の継続的・効果的な活用

平成22年度から、近隣の東中学校とその校区にある当該校、八坂小学校、東雲小学校の４校で連携を図っている。「キャリア・パスポート」について小中合同研修会を実施し、児童にねらいを説明することや教師が成長を見取って朱書きを入れること、児童が活用している場面を年に１回保護者が参観する機会を作ることなど、共通理解を図り効果的に活用している。継続して取り組むことで、児童が自己の成長を実感したり、自己肯定感を高め、自分の将来に夢や希望、自信をもつことにつながったりしている。

○ドリームマップ作成体験授業の実施

６年生を対象に、外部講師を招いて将来の夢や理想とする社会を描いたドリームマップを作成する体験授業を実施している。自分は何が好きで、何になりたいのか、友達のよいところはどこかなどを再確認した後、児童自身が用意した写真や切り抜きを画用紙に貼って自分の夢を描いたドリームマップを作成する。完成後、一人ずつ級友に向けて発表を行い、級友は発表者の思いを汲み取り温かい拍手を送る。将来の自分を肯定し、応援してくれる仲間の存在に気付くことで、自己のよさに気付き、それを伸ばしていこうという思いをもったり、

自分の夢や将来の方向性を見いだしたりすることができている。この取組は、連携を図っている八坂小学校、東雲小学校でも実施しており、同一校種・他校種と連携したキャリア教育への発展も期待できる。

＜愛媛県＞（種別：学校）　愛媛県立三島高等学校

取 組 概 要

愛媛県立三島高等学校は、普通科・商業科それぞれの学科の特性や生徒の発達段階に応じて、全ての教育活動においてキャリア教育を行っている。特に、体験学習や地元企業の講演会等を通して、地元企業や産業について深く学び、地域で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

○インターンシップの実施

商業科において、２年生全員が３日間のインターンシップを実施し、望ましい職業観・勤労観の育成を図る取組を行っている。

○人材育成講座の実施

外部講師を招聘し、キャリア教育講演会やビジネスマナー講座、ビジネス研修を実施することで、社会人としての会話や服装のマナーの習得を通して、職業観の育成に努めている。

○普通科におけるキャリア教育の実践

普通科の進学希望者には、愛媛大学と連携し、３年生の希望者が研究室訪問を行っている。また、令和３年度から、普通科２年生の希望者を対象にインターンシップを始めるなど、進路実現に必要な資質・能力の育成を図っている。

○キャリア教育に係る情報発信

本校の通信である「くすのき通信」や、商業科通信「三ラ来ル通信」で教育実践を紹介し、生徒や保護者にキャリア教育の成果を発信している。また、本校ホームページにも、キャリア教育に関する内容を掲載し、県内外や地元企業に向けて、広く情報発信を行っている。

＜高知県＞（種別：学校）　高知県立高知農業高等学校

取 組 概 要

創立133年目を迎える高知県立高知農業高等学校は、校訓「誠実・勤労・剛健・協調」のもと、県の基幹産業である農業の後継者や地域を支える人材の育成を目指している。

現在、農業総合科、畜産総合科、森林総合科、環境土木科、食品ビジネス科及び生活総合科の６学科を設置し、社会の変化に合わせたスマート農業や ICT を取り入れた学びも深めながら、SDGｓの視点を踏まえた生命や自然と常に向き合う農業の持つ教育力を活かしたキャリア教育の充実を図っている。

（1）「働く」うえで必要な力を実感できる「高農ふれあい市場」

平成16年度より保護者や地域住民を対象とした「高農ふれあい市場」を、年間６回程度開催し、生徒が実習等で栽培・飼育した農畜産物や加工品を販売している。生徒にとって、実際の販売体験は、勤労の価値や必要性を体得するとともに、接客マナーや経営をはじめ、「働く」うえで必要な力を身に付ける大切な学習の機会となっている。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、従来の形での販売実習が困難となった。「自分たちで育て、加工した商品を何とか保護者や地域の人々に届けたい」という生徒たちの強い希望もあり、令和３年度には、不特定多数の方の来校や「３密」を避けるために、これまでの学校を会場とした販売の方法から、生徒たちが事前に注文を取り、各家庭や近隣の方々等に個別に届ける訪問（配達）販売の形へ、実施形態

の見直しを図った。自分たちにできることは何かを考え、生徒たちが行動することにより、With コロナを意識した取組へと改善が図られている。

（2）地域と連携した商品開発や地域産業を応援する取組

コロナ禍による飲食店の営業自粛等で販売量が大きく落ち込み、大量の在庫を抱えていた地元養鶏（土佐ジロー）農家を応援するため、畜産総合科の生徒たちが、地元企業の協力のもと、老若男女が食べやすいファストフードとして、土佐ジロー鶏のミンチ肉を使用したオリジナルのカレーパンの開発を提案し、商品化に至った。学校内や県内イベントでの販売に加え、農家の直営店や商品開発に協力していただいた地元企業でも販売し、順調に売り上げを伸ばした。地域を巻き込み、地産地消や地元畜産物の知名度向上にも寄与している。

また、生活総合科の生徒たちは、県内で仏事に用いられる常緑の小高木シキミを使用したアロマスプレーを商品開発し、その販路拡大に向けた取組を行っている。地元の専門家の指導のもと、毒性を持つシキミからオイル抽出のための蒸留を行ったり、販売に向けてのラベルやポップづくりでアイデアを出し合ったりする過程では、生徒の課題を発見していく力や創造性なども育まれている。また、県内でシキミを栽培する畑を管理する人がいなくなり、一部が放置されている現状を知り、地域おこし協力隊による畑の管理や、集落活動センターを活用して伐採したシキミを地域の方々にアロマスプレーに加工してもらうという地域循環型のビジネスプランを考え、自治体に提案もしている。

さらに、本年度開催された高知県公立高校産業教育 PR イベントにおいては、牛乳の需要が落ち込んでいる点に注目した畜産総合科の生徒たちが、県内の畜産業を盛り上げようと、小学生を対象とした牛乳の魅力を紹介する出前授業「ミルクのできるまでとこれから－今日はバターを作ってみよう－」を行った。今後は、各小学校への出前授業も検討されており、さらなる展開が期待される。

＜福岡県＞（種別：学校）　福津市立福間中学校

取 組 概 要

福津市立福間中学校ではコミュニティ・スクールの機能を生かして、地域と連携・協働したキャリア教育の体制づくりと小中９年間の連続性を見通したキャリア教育を一体的に推進し、社会的・職業的自立に必要な能力の育成を図っているところに特長がある。

（1）地域コーディネーターを中心とした連携・協働体制

- 学校の地域連携担当教員と地域コーディネーターが窓口となり、小学校や地域・産業界（福津市商工会、イオンモール等）等との連携・協力をもとに、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。
- 組織体制として、２小学校（福間小、福間南小）と１中学校（福間中学校）の、それぞれの学校に３名程度の地域コーディネーターが配置されており、３校のとりまとめ役として、統括地域コーディネーターが置かれている。
- 校区全体におけるキャリア教育の推進において、各学校の主幹教諭、地域連携担当教員及び地域コーディネーターの会議を定例化し、カリキュラム会議を位置付けている。その中では、地域コーディネーターが中心となり、小中９年間を見通したキャリア教育の目標、内容に応じて、地域人材の発掘及び活用について協議するとともに、生徒自身が地域人材への交渉、依頼等ができるよう支援している。

（2）小中９年間の連続性を見通した取組の実施

地域コーディネーターを中心とした連携・協働体制の下、小中９年間を見通したキャリア教育カリキュラムを作成して次のような取組が行われている。

- 小学校高学年では、「ようこそ先輩（商業、農業、企業、教育、アスリート等の地域の働く人からの話）Ⅰ」の場を設定し、職業の種類や内容について学んだり、夢や目標をもつことの素晴らしさ、尊さについて気付いたりすることをねらいとして実施している。
- 小学校での実践を受けて、中学校２年生では、「ようこそ先輩Ⅱ（福津市商工会青年部を招聘した仕事模擬体験）」と「職場体験（市内及び市外の 50 程度の事業所）」の場を設定し、学校の学習と社会とをつないで、

望ましい勤労観、職業観の育成はもちろん、社会人・職業人として、自立した社会の形成者としての接遇マナー、コミュニケーション力等の基本的な資質を身に付けることをねらいとして実施している。

- 中学校３年生では、「中学生未来会議」を設定し、福津市内の「伝統・文化」「子育て」「自然・環境」「観光」「産業」「防災」等のテーマ別に、福津市の現状や課題を把握するとともに、商工会、産業界、市役所、大学及び専門家の大人を巻き込んで、中学生の自分たちにできることを共に考えていく活動を行っている。その過程で、持続可能な社会の担い手としての自覚や住みよいまちづくりに貢献する参画意識を高めることをねらいとしている。
- 小中連携カリキュラムの充実に向けて、総合的な学習の時間、特別活動、道徳科を横断的につなぐ実践を開発している。

以上のような取組は、ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域のひと・もの・ことの活用が制限されてきた中で縮小を余儀なくされた。そこで、これまでの取組を最適化するために、本年度からは、学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪となって、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の一体的推進を行っている。小中９年間の連続性を見通したキャリア教育の一体的推進に寄与している。

＜福岡県＞（種別：学校）　　小郡市立三国中学校

取 組 概 要

小郡市立三国中学校においては、生徒一人一人の「社会的・職業的自立に向けて必要な能力等の育成」を目指し、総合的な学習の時間（ＳＵＮ　ＴＩＭＥ）を中核に据えてキャリア教育の実践に取り組んでいる。

取組の特徴としては（１）教育課程内における計画的・系統的な取組（２）地域アンビシャス広場との積極的連携があげられる。

（１）教育課程内における計画的・系統的な取組

１年時では、働くことの意義や職種などについての知識や将来について夢を持つ学習を行っている。キャリア教育で求められる４つの資質・能力について意識させた上で、生徒たちに自分の適性（特性）を理解させ、職種や向いている職業などを主体的に調べる活動を行わせている。また、社会で活躍する自校の卒業生と交流する機会を設けている点は、生徒の職業観の育成や将来について明るい展望を持つ上で、有効な学びになっている。

２年時では、講師を招聘しての「働く人から学ぶ」講話と「マナー講習」、及び「職場体験学習」が一連の流れで学ぶことができるように実施している。

- 地域の「働く人から学ぶ」講話では、「働くことの喜びや苦労、現在に至るまでに考えたり努力したりした話」等をしていただいている。身近な地域の人を招聘することで将来の姿を具体化することをねらっている。
- 職場における「マナー講習」では、人材育成会社の方を講師に招き、挨拶、電話の応対、丁寧な言葉遣い、失敗したときの対処の仕方などを、実演していただきながら社会人としての心構えや所作を身に付け、学校生活にも生かすことをねらっている。
- 職場体験学習では、学校運営協議会や生涯学習課がコーディネーター役として連携し、地域・保護者の参画の下、各事業所において少人数で十分な体験ができるよう事業所数を確保している。

（２）地域アンビシャス広場との積極的連携

「鉄板部」と称するボランティアチームがあり、３０名近い生徒が所属している。「鉄板部」では、「やきそば」「かき氷」の調理販売を行う「商いの体験活動」が行われており、地域人材であるアンビシャス担当者の指導を受け、起業体験につながっている。

- 参加生徒は模擬店運営の効果を上げるため、事前にかき氷や焼きそばの作り方だけでなく、接客の仕方や出店に関わる経費や収益などを学ぶ研修を受けている。体験後の生徒の生き生きとした表情から自己有用感の獲得に向け、有効な取組と言える。本年度は中学生の学び場支援として毎週開催している学習会にも生徒の参加を募り、学習ボランティア員との連携が図られている。また、中学生のボランティア活動は地域に周知

され、ウォークラリーや地域文化祭などの地域行事の運営に参画要請があり、毎回企画から運営までのボランティアに進んで参加する生徒が増えるなど、地域との連携についても深まっている。

このように、三国中学校では、生徒が働くことの意義や職業について生徒自身が主体的に学び、実践的な活動を行うとともに、地域を巻き込んで計画的・系統的・継続的に行われている。

＜福岡県＞（種別：団体）　福岡県立三池工業高等学校ＰＴＡ

取 組 概 要

本校では、これまでキャリア教育の一環として、ＰＴＡ主催による企業や大学等への訪問を実施してきたが、令和２年度からコロナ禍により中止となった。そこで、ＰＴＡ進路指導委員会をはじめ役員会で学校と連携した、実践的なキャリア教育の実施に向けた協議を行い、以下の取り組みを行っている。

１　インターンシップに係る企業紹介

昨年度より、インターンシップを再開したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各科の専門性を活かしたインターンシップの受入企業が減少した。そのため、ＰＴＡが主体となり新規の受入企業先を開拓していただいた。その結果、化学系、機械系工場等を紹介いただき、２学年全員が有意義なインターンシップを行うことができた。

２　就職等に関する面接指導

昨年度より、就職試験の面接対策として、ＰＴＡ役員を中心に進路指導部と連携し、面接指導を行っている。都合がつく保護者の参加を得て、保護者と教員が共同して指導を行う。保護者の企業人としての視点で入退室等の所作や質問に対する受け答え等の助言をはじめ、親としての目線で生徒の良いところを見いだした適切なアドバイス等があり、若手教員等の参考にもなっている。この取組を継続、拡大することにより、家庭での親子の真剣な会話や面接練習の実施につながり、本校の目指す生徒像である、校訓「知恩感謝」の精神のもと、社会を形成するための豊かな心を持つ工業技術者の育成に繋がる事を目標にしている。

３　ＰＴＡ主催による視察研修

昨年度、３年ぶりに企業や大学等の視察研修を実施した。保護者と教員が参加し、地元の電子部品製造会社及び工業大学の視察を行った。参加者は施設の見学をはじめ現場の社員の方から直接話を聞くことで、社会人として基礎的な能力や態度の育成の必要性を改めて認識することができた。

４　ＰＴＡによる勤労観・職業観に関する講話（予定）

本年度、新たな取組として、ＰＴＡ役員を講師として「保護者として社会人として、高校生に求めること～働くとは～」（仮題）と題し１年生を対象に講話を企画している。働くことの意義について生徒に考えさせ、進路実現に向けた意識の向上を図り、キャリア発達を促すことを目的としている。

＜佐賀県＞（種別：学校）　吉野ヶ里町立東脊振中学校

取 組 概 要

１　学校のキャリア教育への取組

キャリア教育を学校経営の中核に据え、生徒、教員にとって日常欠くことのない学習に焦点化し、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の向上を目指すものである。令和３、４年度の取組を令和５年度も継続している。

進路指導年間計画を見直し、進路指導・キャリア教育全体計画として見直し、キャリア教育の全体目標、キャリア教育の課題を整理し更新を行い、生徒の社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成につなげていくことができるような取組を取り入れ実施した。また、職場体験、マナー講座などについては、学校経営計画、校内研究等への明確な位置づけにより、生徒のキャリア発達を促す組織的な取組を行っている。

２　教職員の指導意識の変革

教職員、生徒、保護者の最大の関心事は教科学習の達成状況である。教科調査の結果を踏まえ、全国学力・学習状況調査質問紙調査、佐賀県学習状況調査及び独自のアンケート調査を用いながら、教科学習を支える学び方いわゆる学習マネジメント力伸長のアプローチ法の開発に取り組んでいる。非認知能力伸長へのアプローチともいえる。具体的には、学びに向かう力、学びを見つめる力、やりぬく力等をいかにして身に付けさせるかである。アプローチ方法は研究途上であり現在も模索しながら継続している。

３　校内研究を中核に全教育活動で取り組む（外部講師、地域の活用）

中学校になると教科専任となり教員間で教科の壁が生じる。そこで、生徒の学び方に視点を置き、日々の生活・学習をシステマティックに把握・理解するため、市販のビジネス手帳「フォーサイト手帳」をツールとして利用している。

生徒に夢や目標を確認させ、それに近づくために「夢をかなえる地図」というワークシートを作成し、「キャリア・パスポート」とともにポートフォリオとして生徒自身がストックしている。

職業人講話、マナー講話などでは外部講師の話を聞き、職場体験では地域の事業所の協力体制が構築できている。

４　町教育委員会の手厚い支援

町教育委員会社会教育事業として「家庭教育学級」がある。保護者の参加もでき、講師には社会人としての様々な生き方を直接語っていただく機会を設けている。

中学２年生では、立志式を行い、保護者、教育委員、（時に町長）の面前で将来の夢を発表する。記念品の予算も確保されている。

以上の取組によって、キャリア教育を学校教育活動の中核に据えて、生徒に望ましい職業観・勤労観を育むとともに、中学生という発達段階に応じたキャリア形成を図っている。

＜佐賀県＞（種別：学校）　　学校法人佐賀龍谷学園　龍谷中学校

取 組 概 要

１　本校のキャリア教育の取組

本校教育の総称である「龍谷中高一貫理数グローバル」は、論理的思考力と社会に向けた広い知識や見識をもった人材を育成するために、自立した学習者の育成を目指し、将来のリーダーの育成に注力している。

特別活動と総合的な学習の時間を融合させたＦＬＰ（Future Leaders Project）や放課後や長期休業中の時間を利用したＧＬＣ（Global Learning Center）の時間を通じて、学習の深化を図る一方、急激な社会変化に適応し、次代の教育を見据えた指導方法を模索している。キャリア教育や進路設計等の研修も将来の進路に向けたサポートとして、大変重要な役目を担っている。

また、佐賀青年会議所、佐賀県中小企業青年中央会及び三井住友信託銀行佐賀支店等と連携し、キャリア教育やＳＤＧｓ教育の推進等を通して、生徒の将来に向けた準備を支援するために、学ぶ機会と実践的な体験を提供している。

２　各学年及び全校におけるキャリア教育の取組

〔第１学年〕

⑴　個人研究（２０２３年度の取組事例）

ＦＬＰの時間の「佐賀について知る」学習。５つの研修先(大隈重信記念館、佐賀県有明海漁業協同組合、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、佐嘉神社、佐賀バルーンミュージアム等)で視察研修と、研修のまとめについて龍中学会(本校の探究学習の研究発表会)において報告した。

⑵　フィールドワーク学習

自然や生命、ふるさと、地球環境について考える学習。鷹匠を訪問し鷹匠の話や鷹等の動物との触れ合いを通して、動物とともに生活し働くことの意義などについて研修を実施している。

〔第２学年〕

(1)　職業体験(本校の職場体験の名称)

コロナ禍にあってもオンライン(Ｚoom)等を活用し、生徒と事業所が連携して、事業所から仕事の依頼を受けたり、生徒がアイディアを提案したりしながら、業務を受け実際の仕事を体験した。

２０２１年度は、スポーツジム、料亭、ラジオ放送局、和菓子店に協力を得て、プロモーションや季節のお弁当づくり、ラジオ番組のコーナー制作や新商品のパッケージに描くキャラクター制作等の活動を、２０２２年度は、学校閉鎖が解除された直後に、佐賀市森林整備課、佐賀県中小企業青年中央会から紹介された温泉旅館やラジオ放送局、信託銀行に協力を得て、植林体験、旅館ＰＲの動画制作、放送局のロゴマーク制作や配布用のポケットティシュペーパーの紙台紙のデザイン制作等に取り組み、事業所とオンラインや対面でやり取りをしながらより良い製品の完成を目指し活動を続けた。２０２３年も職業体験を実施し、事業所から依頼を受けたチラシの制作、接客動画の制作等の活動を行っている。

また、学習した成果は、龍中学会、市長表敬、外部イベント及び事業所内の研修会等において成果発表を行っている。

〔第３学年〕

(1)　Ｆｕｔｕｒｅ Ｄｅｓｉｇｎ の取組

第３学年では、過去の経験を基に、なりたい職業に就くためのこれから先の人生プランについて考え、その成果を龍中学会において、一人一人がプレゼン発表を行った。発表を通して、人前で話す力や将来について考える意義に気付かせることにもつながった。

〔全校の取組〕

(1)「なりたい大人」作文と熟語の書道作品の展示（２０２１年度の取組事例）

三井住友信託銀行佐賀支店では、作品展示をすることで、来店される市民の方に生徒自身の夢や希望を伝える機会となった。

(2)　キャリア研修の実施（２０２３年度の取組事例）

オリエンタルエアブリッジ社の総務部次長と客室乗務員によって、生徒に実践的なキャリアマナーを指導いただき、業務の話なども合わせて、進路決定のきっかけや仕事のやりがい、責任などにも触れて話をしていただいた。特に、グランドスタッフになりたい生徒や英会話ができる生徒には、大変意義深いものとなった。

(3)　佐賀青年会議所、佐賀県中小企業青年中央会との連携協定によるキャリア研修

佐賀青年会議所との連携は、会員と本校職員との交流に始まり、その後、プロジェクトベーストラーニング（ＰＢＬ)の問題解決型授業により生徒発表等を実施。これをきっかけに本校から職業体験への支援を依頼。その後、栄の国まつり大人みこし、World Sports Carnival 及び佐賀防災運動会等へのボランティア等の様々な行事や活動にも参加し、社会とのつながりを学ぶ機会を得た。

また、佐賀県中小企業青年中央会との連携は、中央会が会員組合等にＳＤＧｓの取組を紹介するにあたり、先進的にＳＤＧｓ教育に取り組んでいた本校を取材。佐賀青年会議所と同様に、本校から職業体験への支援を依頼。その後、職業体験先として幅広い業種の事業所を紹介いただいた。さらに、異業種の事業者が集まり、様々な観点から意見を出し合い新たなビジネスを生み出すことを目的とした「異業種マッチング会」にも参加。生徒がグループ協議に入る機会も得た。

３　ＳＤＧｓに関する取組

(1)　佐賀龍谷学園龍谷中学校高等学校ＳＤＧｓ行動憲章の作成

「佐賀龍谷学園龍谷中学校高等学校ＳＤＧｓ行動憲章」と題し、建学の精神のもと、持続可能な社会を創造できる人を育成することにより、世界で活躍できる人の輩出、ＳＤＧｓに貢献できる地域の基盤となるために、行動憲章を掲げ日々実践している。

(2)　ＳＤＧｓ教育の取組

貧困や環境などの課題に取り組む人材を育成するＥＳＤ(Education Sustainable Development)などのサスティナビリティ活動(持続可能な開発のための教育)を積極的に行っている三井住友信託銀行佐賀支店との連携による本校生徒の絵画やポスター等のロビー展示。

佐賀県及び公益財団法人さが緑の基金主催の「森川海人っフェス」及び佐賀県立生涯学習センター主催の「まなびぃフェスタ」における腕輪念珠づくり等により、ＬＧＢＴＱ＋を理解し寄り添う「ＡＬＬＹ」の周知、さらに空きテナントを活用し、「ＡＬＬＹ」の人々が集う街の施設づくりに取り組んだ。

また、「ＮＨＫ ＳＤＧｓを一緒に学ぼう！ ひろがれ！いろとりどり」へのかるた応募と、地元小学校へのかるたづくりの出前授業、日本青年会議所ＳＤＧｓフォーラムでの食品ロス提案等の取組、新聞紙ブックバックの製作、国語の時間におけるＳＤＧｓをテーマにした物語の制作、日本青年会議所による廃油を活用した授業など、現代的課題への取組など多数。

４　校外研修の取組（県外における研修）

２０２２年度は、第２学年において校外研修を実施。「Ｑ都スタディトリップ」により、京都とＳＤＧｓについの事前学習を行い、ＳＤＧｓに関する考えを深めた。

２０２１年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、校外研修が実施できなかったため、その代替研修として県内での研修を行うこととした。そこで、本県の「佐賀を誇りに思う教育推進事業」の支援を受け、有田町、嬉野町及び呼子町での研修を開拓し、その土地独自の産業についての学びを深めている。

以上述べたような活動を産業界と連携協力し、現代的課題も踏まえながら、望ましいキャリア形成を図る生徒の育成に熱心に取り組んでいる。

また、コロナ禍においてもオンライン等を活用たり、新たな研修地を開拓するなどしたりして、学びを止めない工夫をしながら、キャリア教育を推進している。

＜長崎県＞（種別：学校）　平戸市立大島中学校

取 組 概 要

１　本校の現状について

本校では、令和３年度から県教育委員会の指定を受け「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」における研究を２年間進めてきた。大島村は、人口減少、過疎化、少子高齢化などの課題が急激に進んでおり、その中にあっても学校教育に対する地域の協力や支援は色あせることなく現在に繋がっている。これこそ本校の強みであり、「社会に開かれた教育課程の実現」に欠かせないものである。

平成１１年度から地域と連携した学社融合の取組が続いてきており、大島村の特色を生かして、地域の教育力と、これまで積み重ねてきた教育課程を再構築し、教育課程全体を通したキャリア教育の充実に向けて歩みを進めている。また、地域の教育力向上として、令和元年度に平戸市教育委員会指定のもと、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、教育目標の実現に向けて、さらに強力な連携・協働体制を整備した。

２　キャリア教育の実践について

（１）地域振興プラン作成

生徒たちで、大島村の新たな魅力や開発を考えた振興プランを作成した。作成に当たっては、自治体関係者や地域の方々に意見や協力を得ている。

（２）地域貢献活動

島内の企業や自治体からの支援を受けて大島 PR 動画やパンフレットを制作した。大島の魅力を世界中に発信するために、日本語と外国語バージョンの動画を YouTube に投稿した。

（３）産業視察

公民館がコーディネーターとなり島内にある企業へ連絡調整をお願いし、仕事内容を聞くことや実際の仕事を体験した。視察先は、畜産農家、養殖業者、発電所等である。

① 畜産農家では、牛の繁殖方法や肥育の仕方について説明を受けた。生徒の中には、保護者が畜産農家で生計を営んでいる者もおり、将来は獣医の仕事に興味をもつ生徒がいた。

② 養殖業者では、何万匹も鰤がいる養殖場で餌やり体験をした。大島の海で育った魚が全国に発送されていることや、美味しいと評判であることを聞いた。魚を捕るだけではなく、養殖する仕事もあることに興味を示した。

③ 風力発電所では、電力の必要性や風力発電の仕組について詳しく学習することができた。また、実際にプロペラを回す電源の操作を体験し、大島の風が普段の生活に欠かせないエネルギーになっていることに気づくことができた。

（4）成果

① キャリア教育を各教科の要としつつ、教科横断的な学習をしながら基礎的、汎用的能力の資質能力の育成を図ることができた。

② これまでの取組を生かし、１年生「ふるさとを知る」、２年生「ふるさとについて考える」、３年生「ふるさとのために行動する」という３年間の見通しをもったカリキュラムを作ることができた。全校生徒で課題の共通理解を行い、その後各学年の取組を実施し、最後にまた全学年で振り返りを行うという１年間の流れができた。

（5）保護者地域からの意見

・地域のこと、大島のこと、この先のことを考えている子どもたちの思いを知ることができた。大人がそれをサポートし、先へつなげられる一歩になると思った。

・こんなにも島の未来を考えている中学生がいることを知り、この数年をかけた取組や思いを大人も引き継いでいけたらいい。

【ホームページ】https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/school/ooshima-j/pickup/2022/index.html

---

＜長崎県＞（種別：学校）　長崎県立松浦高等学校

取 組 概 要

【２つの文部科学省委託事業】

○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」（令和２～４年度）および「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」（令和４年度から）の２つの事業（研究）及び研究指定以前の教育活動を融合して、新時代を担う生徒の「資質・能力」の育成を図るために、地域課題解決型学習「まつナビ・プロジェクト」を軸として、地域・大学・中学校等と連携しながらカリキュラム開発及び評価方法の研究等を推進し、未来の地域の担い手となる人間の育成を持続的に行っている。

【各学年における具体的な取組】

○１年次：①地域課題に関する基礎的な知識や課題解決学習を進めるための技能等を習得させるため、外部講師による講義・演習や校外でのフィールドワーク等、多様な学びを展開、②市役所、地域の事業所、大学（大学生）等の伴走を得ながら課題発見・課題設定を行う

○２年次：①生徒が「自分ごと」として設定した課題研究テーマについて、コンソーシアムや生徒の活動を支援する企業等の組織（まつうら高校応援団）、大学生等の協力を得ながら、フィールドワークを含め研究活動を進める、②研究発表会を開催し、地域住民、松浦市長・市議会、県内各高等学校教員等に対して、課題の解決策等についての提言や実践活動の報告を行う

○３年次：①地元の企業訪問、医療従事者との交流、課題研究論文の作成等、生徒一人一人のキャリア形成に向けた活動に取り組む、②２年次の研究に基づいた地域貢献活動を推進する：(例１）地域事業所との協働による松浦鉄道松浦駅ホームへの手すり設置、(例２）地元洋菓子店との商品開発　等

【事後の振り返りと進路実現の成果、ふるさと貢献力の醸成等】

○地域活性化に向けた課題研究に３年間を通して取り組むことで、課題研究と自らのキャリアとのつながりを一層強めることができ、その成果を大学や専門学校への進学にもつなげられるようになった。(例) 研究テーマ

「小学生との協働によるイベント開催」⇒国立大学教育学部進学、研究テーマ「松浦駅に手すり設置」⇒私立大学現代福祉学部、研究テーマ「オーストラリアの高校生との交流」⇒公立大学国際文理学科　等

○生徒へのアンケート調査結果

①地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合が増加（令和２年37.4%⇒令和４年64.0%）

②高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にＵターンして就職したいと考える生徒の割合が増加（令和２年40.0%⇒令和４年45.7%）

【ホームページ】　http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70120matsunavi/

＜長崎県＞（種別：学校）　長崎県立諫早特別支援学校

取 組 概 要

【長崎県教育委員会「新しい時代のキャリア教育推進事業」研究協力校】

生徒が、将来の職業生活において求められるＩＣＴ活用に必要な知識、技能を習得するための指導方法やコンテンツの作成に取り組み、テレワークや在宅勤務など新たな職域の可能性と職業教育の充実を図った。

① ＩＣＴ関連企業に対する情報収集と職場開拓を行い、実習先及び就労先一覧を作成した。職場開拓では、ＩＣＴ活用場面にポイントを置いたＰＲ動画を制作し、訪問先に紹介することで学校の理解啓発に努めた。また、実習及び就労の実績としては、全県的に肢体不自由者の在宅テレワークを推進している企業に協力を仰ぎ、令和４・５年度で延べ８名の生徒が在宅での実習に臨んだ。生徒の中には、身体面や通勤の負担軽減、そして、何より自身の能力が最大限に発揮できる就労先として在宅就労を強く希望している者もいる。ＩＣＴを活用した柔軟で多様な働き方を知ることが、進路選択や職域の拡充につながることを教職員が深く認識し、生徒へ還元することができている。

② 就労のために必要なＩＣＴを活用した指導内容、コンテンツの作成に取り組むにあたり、企業と協働した協議会や、企業からの出前授業、職員研修を実施した。事務系、プログラム系、デザイン系等ＩＣＴ関連企業で求められる知識や技能と学校の職業教育を往還させ、教育課程の充実を図ることで授業の質も向上した。特に美術や家庭総合において、ＣＡＤやイラストレーターを教材として取り入れたことは、肢体不自由という学びの困難さを軽減させただけでなく、生徒の豊かな発想やデザイン性を引き出すという個性の伸長にもつながっている。生徒の中には、ＣＡＤを活用した住生活の学習をきっかけに大学の建築科に進学した生徒もおり、ＩＣＴを活用した職業教育の取組が特別支援を必要とする生徒の将来設計において成果を上げているといえる。

＜熊本県＞（種別：学校）　南小国町立南小国中学校

取 組 概 要

本町は「きよらの郷」と呼ばれ、「きよらかに美しい町」という意味がある。この町を持続可能な町として次世代に引き継いでいくためには、「南小国町の未来の創り手を育成する」ことが大切である。そこで、未来の創り手に必要な資質・能力を４Ｃ（Communicationｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、Collaborationｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ、Creativityｸﾘｴｲﾃｨﾋﾞﾃｨ、Critical Thinkingｸﾘﾃｨｶﾙ・ｼﾝｷﾝｸﾞ）とし、キャリア教育の視点を踏まえた「きよら授業の改善」と「きよら学の推進」の２本柱で育成しようと取り組んできた。ここでは、南小国町独自の取組として、南小国中学校の「きよら学の推進」について紹介する。

［中学１年生の取組］＝［民泊農業体験］

南小国中学校の民泊農業体験は、民泊受け入れ農家に２泊３日滞在させていただきながら、１日の仕事の流れを学び、農業に対する思いを知り、収穫物を活かした料理を作り上げていく体験学習プログラムである。南小国町の基幹産業である農業。また、民泊受け入れ農家の方のご協力があってこその本事業である。

［農業体験を実施するメリット］

民泊農業体験にくる生徒は農作業の即戦力とはならないが、これからの世界で無視できない世代が 1995 年から 2010 年の間に生まれた「Z 世代」と言われる若者である。Z 世代は、いますでに世界人口の 3 分の 1 を占めており、購買力は世界で 15 兆円に達し、国際貿易戦争を再燃させるだけのパワ-がある。町に住む大人と今の中学生たちが共に時間を過ごし、考え、Z 世代の若者ならではの視点や感性とともに農業や食を考えることは、次世代の農業や食を生み出すきっかけになると考えている。

［中学２年生の取組］＝［まちインタ-ン］

南小国中学校の「まちインターン」は、課題協働型インターンシップとして、事業所の皆さんの「働く」ことに対する思いや大事にしていることを取材した上で、3 日間の中で「その事業所のファンを増やす」ことを目的に事業所の皆さんと主に協働するインターンシップである。

［まちインターンを受け入れるメリット］

まちインターンとして事業所に来る生徒たちは即戦力にはならない。一時的に増えた労働力でもない。しかし、インターン生の強みを活かすことで、事業変化や組織変化を獲得している事例は数多くある。「まちインターン」の『事業所のファンを増やす』という目的は、どんな事業でも大事になるマーケティング・広報戦略の基本になる。ファン作りというテーマを通して、若者ならではの視点や感性と実務経験のある事業所が協働することにより、これまでにない新たな価値が生まれるはずである。

＜熊本県＞（種別：学校）　熊本県立玉名高等学校・玉名高等学校附属中学校

取 組 概 要

熊本県立玉名高等学校及び玉名高等学校附属中学校は今年創立 120 周年をむかえる伝統校で、同窓会や育友会、地元事業所、大学、自治体等との連携を図りながら、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むために、長年に渡ってキャリア教育の充実を図ってきた。主な取組内容は以下のとおりである。

（1）キャリア教育講演会

育友会の協力のもと、高校生・中学生全員を対象に、日本や世界を舞台に活躍している著名人による講演会を実施している。一流の講師が持つ知識や経験を生かした話を直に拝聴することによって、進路意識の高揚と未来を見据える創造力や他者との協働力の涵養を図っている。約 20 年の歴史を有する取組で、過去には「ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏」、「日本文学研究者・国文学研究資料館長のロバート キャンベル氏」をはじめとする各界の著名人を講師として招いた。

（2）若駒キャリア塾

中学３年生・高校１年生を対象とした職業講話で、育友会や同窓会の協力により様々な職種に携わる講師を 20 名程度招き実施している。事前に生徒の希望する職種を調査し、30 分程度の職業に関する講話を各自２つ聴講することで職業観や勤労観の育成を図っている。

（3）インターンシップ

高校生の希望者を対象に玉名市の基幹産業である農業体験学習を、また、中学２年生全員を対象に地元事業所での職場体験学習を実施することで職業観・勤労観の形成や進路目標実現に向けた学習意欲向上に寄与している。

（4）一日若駒大学

高校１・２年生を対象とした大学教授等による出前授業で、約 20 の講座を設置し、進路志望に応じて生徒が希望した講座を２つ聴講することで学問に対する興味関心を喚起し、進学意欲と今後の学習への探究力を引き出している。

（5）玉名未来づくり研究所への参加

玉名市地域振興課主催の玉名未来づくり研究所に、高校１・２年生の希望者が研究員として地域の課題を認知すると同時に、大学教授等の指導を仰ぎながら、課題解決に向けた方策を模索する探究活動をとおして地域を担う人材育成に寄与している。

以上、熊本県立玉名高等学校・玉名高等学校附属中学校における、キャリア教育に係る主な取組について述べたが、これらの活動をとおして生徒の職業観・勤労観を育むと同時に、生徒の進路意識の高揚と進路選択の一助に貢献している。

＜熊本県＞（種別：学校）　熊本県立玉名工業高等学校

取 組 概 要

熊本県立玉名工業高等学校は、昭和３７年に開校し、今年度で６１年目を迎える工業系学科を有する専門高校である。

本校には、機械科・電気科・電子科・工業化学科・土木科が設置されており、産業界のリーダーとして時代の変化に柔軟に対応できる工業技術者の育成を強化するため、教科での学びの他、地域の関係機関（行政・事業所・大学等）と連携・協働した実践的・体験的な教育活動を展開している。

インターンシップにおいては、地域の事業所の協力を得て３日間実施している。また、普段から現場見学の機会も設け、学びと社会との繋がりを考えさせる機会を多く設け、高度な知識や技術を身に付けさせている。現在は熊本県にTSMCが進出することを踏まえて半導体関連人材の育成にも力を注いでいる。今年度の１・２年次の工場見学では、県教育委員会と連携し、JASMや平田機工など半導体関連事業所の見学を計画している。

行政や事業所と連携し、地域企業の合同説明会や就職ガイダンスを学校を会場として実施し、就職希望者のみならず、進学希望者にとっても地域事業所の魅力等を知る良い機会となっている。特に土木科においては地域と密接に関わりを持ち、課題研究等で地元のインフラ整備について探究を深めている。電気科では今年度熊本県の未来の技能士育成ステップ事業を受け、地域の事業者から様々な技能について学んでいる。また、機械科では、例年小学校でものづくり教室を実施したり、町に製作物を寄贈したりして、地域におけるキャリア教育の一角を担っている。今年度は、学校全体で県教育委員会、玉名市役所及び玉名市内の県立学校３校と連携し、県立高校の魅力を伝え、地元商店街の活性化を目的とするプロジェクトにも多くの生徒が参加した。玉名市役所主催の地域活性化の取組みについても、イベントの企画・立案を行う等、希望する生徒が自ら考える機会も提供している。

地元の大学とも連携しており、熊本大学で実施される研究発表会に出場し、崇城大学では生徒が技術指導を受けたり、工業化学科の生徒がルーテル大学付属幼稚園で生徒が園児に指導する取組みも行っている。また、海外大学（台湾の大学）の講演会や研修等にも生徒が参加するなど、グローバルな視点の育成や英語力の向上も図っている。電子科ではキャリア教育の一環として一部の生徒がオンラインでチャットＧＰＴに関する講義を受けている。今年度は、全国工業校長教会主催の第２３回生徒海外研修（タイ王国）や、県教育委員会が実施する「専門高校生グローバルチャレンジ事業海外研修（台湾）」に生徒が参加し、海外の現地企業や高校生との意見交換により、各産業分野を超えた教科横断的な学びの機会としている。また、進学指導にも力を入れている。

以上のように、社会との関わりをとおして、自らの役割や価値を見い出し、地域への愛着を深める教育活動を積極的に行い、キャリア教育の視点から学びを充実させている。

＜宮崎県＞（種別：学校）　串間市立有明小学校

取 組 概 要

学校の教育目標「ふるさとを愛し　志を高くもった　心身ともに健やかな子どもの育成」のもと、学校経営ビジョン「地域の学校として、家庭・地域と連携を図りながら、ふるさとの地と人を愛し、夢を抱いて生きていこうとする子どもを育てる。」を掲げ、地域と共に歩む開かれた学校づくりを進めている。

○　有明校区社会福祉ふれあい推進協議会における学校との協働活動体制の推進

有明小学校区の学校、ＰＴＡ、自治会長、民生児童委員等が一堂に会する有明校区社会福祉ふれあい推進協議会において、地域の願いを学校経営に取り入れるとともに、生涯学習専門指導員を中心に地域住民の参画を得るためのネットワークづくりを推進している。

○　地域の産業に対する理解を深める、計画的な職場見学の実施

１・２年生における生活科の「町たんけん」、３～６年生における総合的な学習の時間（くしま学）で、計画的に地域の職場見学や体験活動を実施し、地域の産業を身近に感じ、自分の職業観を深める学びにつなげている。

・　山下園芸　・　川畑興かまぼこ店　　・　松露酒造（株）
・　かんしょセンター　　・　串間市漁協　　等

○　地域の想いや願いを体感させる地域学校協働活動の実施

- 「お米学習」として、全学年で稲作活動（田植え～稲刈り～もちつき）を、地域の協力者と協働しながら行い、交流を深めている。
- 「ありあけん子海浜活動」として、校区内の海水浴場で、県ライフセービング教会や海の子ども会の協力を得て、海の清掃活動や海辺安全教室（浮く活動、ライフセービングボード体験）、サップ体験を実施し、地域への愛着感を深めさせている。
- 「魚しょく」として、串間市漁協において、魚をさばく体験を行い、海鮮丼やあら汁を地域の方と一緒に作ることで、郷土の重要産業である漁業に対する関心を高めている。

○　地域への愛情を育む地域貢献活動の実施

- 「グリーンタイム」として、学級園の花の栽培活動を、地域の方々と一緒に行うことで、地域の方々に学校に来校していただき、児童とともに活動をしていただいている。
- 「奉仕活動をしよう」として、６年生が近隣の駅周辺のごみ拾い活動を実施している。
- 「有明小校区の伝統芸能・踊りについて」として、人口減によって踊り手が少なくなった地域に伝わる新精霊（にじょろ）踊りを、学校が中心となって希望者を募り、練習から当日まで、自治会と協働しながら実施している。

以上、本地域では、「地域と共に歩む学校」という経営方針の下、身近な地域の方から生き方を学ぶ機会を計画的に教育活動に位置付け、子どもたちのキャリア発達を促す教育を目指している。また、本地域では、社会福祉ふれあい推進協議会が学校と地域をつなぐコーディネーター的役割を担っており、職場見学等の際に見学先の紹介や企業や産業界への依頼等を行うことで、働き方改革の視点から教員の負担軽減につながっている。

＜宮崎県＞（種別：学校）　延岡市立旭中学校

取 組 概 要

旭中学校においては、社会的・職業的自立に向けて、中学１年・２年・３年と縦のつながりを意識したキャリア教育を核とする学校づくりを行っている。

中学１年生では「地域とつながろう：延岡の魅力を知り、将来を考える」、中学２年生では「他地域とつながろう：他地域に触れて、将来を考える」、中学３年生では「将来とつながろう：１０年後の世の中と私を考える」とテーマを設けてキャリア教育に取り組んでいる。

中学１年生では、テーマについて考えるために、「連続７回よのなか教室」の中で「延岡一番」「延岡は自然の宝庫」「延岡の神話」「延岡の昔話」等を設定し、地域の方から話を聞いて考える時間を設けた。今後は「延岡をアピールできるパンフレット」を作成し、１０月の参観日で保護者や生徒に発表する予定となっている。

中学２年生では、テーマについて考えるために、６つの異なる職業の方から講話をしていただき、仕事をどのような想いでしているのか、仕事をするとはどういうことだろうかという視点で多くの学びを得ることができた。

中学３年生では、まずは「１０年後の世の中と私」と題して地域で活躍している方をお招きして講話を行った。地域の課題を捉え、SDGs を通して地域を考えることで１０年後の世の中と自分自身の生き方を考える機会をつくった。その後、地元企業や自治体等と連携して地域の良さや課題を理解しながら様々な課題解決に寄与するために総合的な学習における探究の学びの充実を図っている。探究の学びを深めるために、学びのプロセスを確認した後、地域の方々をメンターとして学習に関わっていただき、「第１次産業、工業、商業、観光、医療福祉、スポーツ」といったそれぞれの課題解決に向けて学習を進めている。学年間における情報共有やワークシートの効果的活用、地域の方々との密な連絡等、きめ細かに取組がなされており、１０月に行われる「あさひタイム発表会」に向けて準備をしている。

以上のように、中学校における縦のつながりを意識したキャリア教育を推進しており、地元企業や地域の人と繋がりながら、地域のよさや課題を知り、地域の企業のことを知り、地域の人を知る学びを行い、将来的に地域を担う人財の育成に積極的に取り組んでいる。

＜宮崎県＞（種別：学校）　宮崎県立高千穂高等学校

取 組 概 要

宮崎県立高千穂高等学校は県北西部に位置する高千穂町（人口１万１千人、主要都市の延岡市まで車で約１時間）に在する唯一の高校（１学年普通科２クラス、商業系学科１クラス、農業系学科１クラス）で、コミュニティ・スクールとして地域と非常に密着した学校であり、特に地域社会との連携を大切にしたキャリア教育において優れた取り組みを継続的に行ってきた。

［取組事例］

- ３年生を対象にした地域事業所ガイダンスでは、例年 10 以上の事業所が来校し、職業観や勤労観を育む貴重な機会を提供している。
- GIAHS（世界農業遺産）に関する課外活動を行っている生徒が地元小中学校に対する出前授業を行うプロジェクトでは、教えることを通じて大人の視点を養い、自己の適性を発見している。
- 地域事業者へのインタビューという貴重な機会も提供され、U ターンやＩターンを経た先人たちからキャリアの教訓を直接学んでいる。
- ２、３年生向けのインターンシッププログラムを通じて、地元企業の存在や社会への貢献、仕事への誇りを理解する機会を提供している。
- 生産物販売実習では、生徒たちは花や野菜の育て方から販売までを体験し、流通や経営の仕組み、販売業務、接客マナーを実践的に学んでいる。地域飲食店との協力による「高千穂バーガー」プロジェクトでは、企画・製造・販売・広報・資金調達などの多彩なスキルを磨いた。

高千穂高等学校は生徒たちの将来に向けたキャリアの構築を支援し、地域社会との協力を強化する優れた教育機関である。

＜鹿児島県＞（種別：教育委員会）　喜界町教育委員会

取 組 概 要

観点①　大島地区指定研究協力校「キャリア教育」喜界町立３小中学校公開研究会

喜界町では，キャリア教育における基礎的・汎用的能力を継続的・効果的に育成するために，「ふるさとと自らの未来を切り拓くことのできる児童生徒の育成」という研究主題のもと，小・中学校９年間を見通したキャリア教育の在り方について令和３・４年度に地区指定の研究協力校として，研究・実践を行った。

- キャリア教育の視点を位置付けた教育課程の見直し
- 小・中学校における「キャリア・パスポート」の共通化
- 「伝え合う力」を高める日常的な授業実践

サトウキビや白ゴマ栽培，隆起サンゴ礁などの産業的・地理的特性を生かした体験的な教育活動を教育課程に螺旋的に位置付けることで，児童・生徒の郷土愛を涵養することができた。また，「キャリア・パスポート」の活用や伝え合う授業の実践によって，保護者・地域とのつながりを強みとした小・中連携の在り方を構築することができた。

観点⑤　児童・生徒の休日学習を支援する家庭学習サポート教室「やる気塾」

家庭学習の習慣化や主体的に学習に取組む態度の育成を目的として，平成 17 年度から喜界町教育委員会が独自に「やるき塾」を実施している。小・中学生，教職員（ボランティア）の参加で，毎月第３土曜日に開催している。

令和４年度からキャリア教育の視点で参加対象者を見直し，高校生にも参加を募ることで異年齢集団による学び合い・交流の活性化を図っている。「やる気塾」では，年間を通して次の取組を行っている。

- 小・中学生の同学年グループ編成による学び合い
- 小・中学生の問題演習に対する高校生の添削・解説（個別指導）

これらの取組を通して，参加者から「上学年の自覚をもってコミュニケーションを取るようになった。」「質問した相手の期待に応えたくて伝え方を工夫するようになった。」などの感想があった。また，高校生から「教職へ憧れを抱くようになった。」という感想も寄せられ，小・中学生への波及効果が期待される。

①・⑤の取組の成果と課題を踏まえて，今後は小中連携を中核として高等学校や島内関係機関との更なる連携を図るとともに，ICT を活用しながら「人・物・事」の視点で島外とのつながりを強化して情報発信・交流をすることで，喜界町のよさを生かした持続可能なキャリア教育を展開していきたい。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　阿久根市立鶴川内中学校

取 組 概 要

問題解決的な学習を基盤とし，キャリア形成を図る上で必要となる活動を軸に，「生徒や教職員，保護者一人一人が，主体的に個性を発揮しながら，見通し，振り返り，つなぐ活動の充実を図ることで，自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成につながるのではないか。」を研究仮説として研究を行った。

本研究は，実態を把握し，学校行事を系統的な配列にし，教育課程の編成を行い，授業設計に共通した手立てを講じた年１人１回の研究授業を行い，具体的な観点「生徒」，「教師」，「教材」という「授業の３要素」を軸とする協働型の授業研究を行い，研究を進めた。その中で，「あくねよかとこ教育」を推進し，地元の社会人や企業と連携・協力した授業設計の工夫を行った。取組概要の顕著な点は，次の三点である。

一点目は，「学びを見通す活動の充実」を図るため，県内公立中学校で初めてＮＯＬＴＹプランナーズが出版している「スコラ手帳」を採用し，企業と連携・協力して組織的かつ系統的に取り組んだ点である。生徒自身がいつでも手に取って，今後の予定を確認し，記入し，手帳活用を積極的に進めている。また，各教科の本質を文章化し，「なぜ，学ぶか。」，「どのように生きたいか。」の指針を記した「鶴中学びのガイド」の作成を行い，年度当初から全教科・領域で活用した。

二点目は，「学びを振り返る活動の充実」を図るため，手帳や「キャリア・パスポート」，生活の記録，教科におけるまとめなど，根拠に基づいた主張を展開する記述の工夫を行い，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力の育成を図った。

三点目は，「学びをつなぐ活動の充実」を図るため，生徒が主役となる「話合い活動の約束」の共通実践を行い，職場体験学習やキャリア教育の講演等をはじめ，学校行事と連携した取組を行った。

その結果，「課題対応能力」及び「キャリアプランニング能力」の高まりによって，各種学力調査についても高まりが見られた。

以上のことから，見通し，振り返り，つなぐ活動の充実とキャリア教育における資質・能力の向上について新たな知見を得るとともに，阿久根市全体のキャリア教育の充実発展に尽力している。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　錦江町立錦江中学校

取 組 概 要

錦江中学校では，家庭や地域，企業等と一体となり，未来を担う鹿児島の人づくりにつながる教育活動を，大きく２点の柱で実践している。

一つ目は,キャリア教育の視点を取り入れた振り返りを,教科等を通じた日々の授業実践において行っている。

昨年度の 11 月には，県中学校進路指導・キャリア教育研究協議会の研究大会会場校として，その研究の一端を授業や研究発表を通して公開する機会をいただいた。

また，今年度は，県教育委員会が主催する「未来を拓く鹿児島の教育シンポジウム」において本校の取組を発表した。

以上のことから,「キャリア教育を含めた学力向上で成果を残している学校」として認知され，関係機関等からの様々な依頼を受けるとともに，情報提供も行っている。

二つ目は,「キャリア・パスポート」や錦江スタンダードを活用し，錦江町の活性化を視野に入れた取組を行っている。

そこでは，町が企画するアントレプレナーシップ事業を通じて，地元事業者等を訪問させていただき，生徒によるインタビューなどを通じて情報をいただくとともに，それを基にして討議を行い，町の発展に対する提言をすることになっている。この取組は，生徒のキャリア発達と，錦江町の将来の発展に寄与できると考える。

併せて，新聞やＳＮＳでの情報配信，地域の文化祭での発表など，より多くの方々にこの取組をお伝えすることで新たな出会いやつながりが生まれ，新たな価値観を創造していけるのではないかと大いに期待している。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　鹿児島市立城西中学校

取 組 概 要

城西中学校は，鹿児島市の中心部に位置する全校生徒７１９名（２２学級）の大規模校である。校訓は「柏葉の枯れても落ちぬがんばりをわが学び舎の心ともがな」という柏葉の精神を掲げ,「自他を尊重し，夢や志をもち，未来を切り拓く生徒の育成」を目標に，日々の教育活動に取り組んでいる学校である。中でも「優しい心の涵養」「学び合いの推進」「健やかな体」「立場で育てる教育」に重点を置き，キャリア教育においては令和４年度より「立場に立って考え行動できる生徒の育成」という研究主題のもと,「素」の自分ではなく，責任ある「立場」に身を置き，役割を担い，役目を果たす過程を通して，自らのキャリア発達を実感する手立てを工夫すれば，困難を乗り越え，自己実現を目指す意欲や資質・能力を高めることができるのではないかという仮説を基に，教育活動全体で自己のキャリア発達を感じることのできる教育の実践を以下の通り進めている。

１　キャリア教育（立場に身を置くこと）で育てたい資質・能力

① 共感力　（相手の立場に立って，気持ちや考えを思いやる力）
② 思考力　（課題の要因・原因を分析し，ベストな方法を考える力）
③ 段取力　（取組の順序と日程，人数配分や分担を計画する力）
④ 対応力　（状況に応じて計画を調整，変更する力，アサーティブな言動）

２　特別活動における取組

三大行事（合唱コンクール・体育大会・文化祭）における取組

○　生徒が主体的な立場に立って価値を見出すことができる活動の位置付け
　　実行委員会の設置（キャリア教育の視点に立った実施計画作成→提案→承認）
　　生徒の主体的な役員設定，パートリーダー等の決定
　　ポスターセッションの実施（小グループ編成→コース開設→課題解決，まとめ，発表）

各学年における行事への取組

○　１年部　中学生と働く大人の対話の時間（実際に働く方々の声に学ぶ）
　　２年部　立志の集い（地域の方々に学ぶ）
　　３年部　職場体験学習（市内各地の様々な職業を体験して学ぶ）

日々の活動(学級運営委員会，専門部活動)における取組

○　目指したい学級づくりのために

学級運営委員会の開催(総務，副総務，各専門部長で組織，教師はファシリテーター)

本音での対話による教師と生徒の情報共有の実施

仲間を思いやり，課題解決の方向性についての話合い

生徒同士による自治能力の高まり

役割(レベルアップした係活動)と役目(自分が考える係の目標)を意識した専門部活動の実施

「キャリア・パスポート」や学級日誌等の効果的な活用

３　見取り，評価

・「キャリア・パスポート」様式の工夫，改善と効果的な活用

・年４回のキャリアアンケートの実施″

＜札幌市＞（種別：学校）　市立札幌大通高等学校

取 組 概 要

札幌で唯一の三部制・単位制・定時制課程の市立札幌大通高等学校では、勤労青少年のための教育機関としての役割に加え、多様な生徒の学習ニーズに柔軟に対応するための高校として、自立という目標に向かって充実した学校生活を過せる環境づくりを大切にしている。

また、「社会に近い、開かれた学校」をスローガンとして、札幌市をはじめとする地域社会で活動している人材や団体とも連携・協働しながら、教育環境の充実に取り組んでおり、学校の教育活動全体を通じて組織的・系統的にキャリア教育を推進している。

なお、具体的な実践は以下のとおりである。

１　入学から卒業までを見通した、系統的なキャリア教育の立案と実施

・１、２年次で開講している「キャリアプランニング」では、社会の中で必要とされる基礎的なスキル、具体的な勤労観・職業観を学び、体系的なキャリア教育を推進している。

・２年次では、行政機関や地元企業と連携し、自己の将来の在り方・生き方について主体的に考え、選択する能力を育むためのインターンシップを積極的に実施している。

・３、４年次では、卒業生講話を実施したり、生徒の進路希望に合わせた、進学セミナー（進学先説明会)、就職セミナー（履歴書、面接指導等）を実施している。

２　体験型のプロジェクト学習の設置（全年次対象)

・多様な大人の価値観に触れながら、地域社会で疑似体験ではない「本物の体験」を通じて学ぶことができるプログラムを各種用意している。代表的な取組として、様々な教科が関わり合いながら、１次産業から３次産業までの営みを学校内につくりだし、体験的に学ぶことができる「ミツバチプロジェクト」がある。プロジェクト活動の一環として、地元企業・団体等と共同した商品の開発体験等を通じて、ビジネスや社会の実際を学ぶことができる。

・「キャリア探究」という学校外の学修（各種探究的なプロジェクト学習やボランティア）に対して単位を認定する学校設定科目を設置している。

３．生徒の支援体制の確立（全年次対象)

・キャリアカウンセラーが常駐し、生徒が長期的な視点を持って、自身の生き方について主体的に考えられるような支援をしている。

・青少年活動協会やPTAの協力を得て校内カフェ（ドーリ・プレイス）を設置し、実際に社会に出て働いている大人と触れ合うことで、新たな人間関係を構築したり、意欲的に学校生活を送るきっかけをつくっている。

【ホームページ】https://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/

＜仙台市＞（種別：学校）　仙台市立生出小学校

取 組 概 要

仙台市立生出小学校は令和２年度から「こどものまち」という取組を実践している。「こどものまち」とは、学校内を一つの「まち」として、子どもたちが様々なお店を出して仕事をしたり、お買い物をしたり、遊んだりする学校行事で、起業教育的な視点を含んだキャリア教育の取組として実施している。

6 年間を通して教育計画上に位置付けて体系的にカリュキュラムを組んでおり、地域での体験や教科の学習、市教育委員会で実施している子ども体験プラザ「スチューデント・シティ」における仮想体験や外部講師のまちづくり講座の経験を生かして計画している。

5・6 年生がお店の企画運営にあたり、3・4 年生はそのお店の開店準備や広報活動に参加することで、当日使用できる「通貨」を給料として配当を受ける。「通貨（ディオ）」を使用して子どもたちは当日のお店で商品の購入やサービスを受けることができる。お店は当日の売り上げの中から、準備に使用した経費を「市役所」に支払い、納税をして収支決算を出している。

参加者全員に「住民登録」や「納税」をしていただくなど、実社会にも通じる体験活動を行っている。令和 4 年度は、前年度、現 6 年生と一緒に活動した中学校 1 年生が、当日参加し活動の様子を見た感想を付箋に書いて送り、後日、手紙にまとめて具体的なアドバイスを行い、小中連携した取組になっている。また、学校運営協議会委員を中心に地域住民、市民センターの関係者、保護者など、多数の来客があり、およそ 80 名の参加があった。このように地域との連携も行い「地域とともに歩む学校」を具現化する取組になっている。

以上のように児童に「たくましく生きる力」（仙台版キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力）を育みつつ、起業教育の視点を持って学校全体で仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」の充実を図っている。

＜仙台市＞（種別：学校）　仙台市立将監西小学校

取 組 概 要

仙台市立将監西小学校は、子どもたちにキャリア教育の視点で様々な学習活動をつなげて取り組んでいる。特に、6 年生では職場体験活動（1 日）を 10 年以上に渡って、様々な工夫を凝らして行っている。

職場体験活動は学区内だけでなく、周辺の地域である泉中央や北環状線まで 10 軒（令和 4 年度）の事業所にお願いしている。事業所は、児童の多くが進学する将監中学校で実施する職場体験活動の事業所と関連させながら、学校支援地域本部と連携して交渉している。子どもたちは事前に学校から職場までの通勤計画を立て、公共交通機関や徒歩でグループごとに子どもたちだけで職場に出勤・退勤する。職場によって異なるが、1 日体験を行っている。令和 2、3 年度はコロナ感染症のため実施していないが、令和 4 年度から感染症対策を行いながら再開した。令和 5 年度は 12 月に実施する予定で計画を進めている。

職場体験学習を行い、働くことを通して人の役に立つ経験をすることで、職業観を身に付けるよい機会となっている。まとめとして、発表会を行っており、令和元年度までは、発表会で小中が交流していた実績がある。令和 5 年度は中学校の職場体験活動の発表会に参加して、小学校の学習を中学校での学習につなげられるように計画している。

小学校 2 年生の時には学区内の職場体験活動受入の事業所を「まち探検」として訪問する学習を行っており、6 年生での職場体験活動につなげている。6 年生では市教委で実施している子ども体験プラザ「スチューデント・シティ」（6 月実施）における仮想の街での体験を、職場体験活動の事前学習として位置付けている。また、修学旅行での自主研修を生かして、職場体験学習の意欲を高めるような指導を実施している。地域の事業所の方をゲストティーチャーとして招いて職業講話を実施し、働くことの意義ややりがいについて学んでいる。

以上のように、事前・事後学習を有機的・体系的に実施することで、職場体験活動は、実社会でのより実践的な体験活動となっている。

＜仙台市＞（種別：団体）　仙台卸商センター　青年経営研究会

取 組 概 要

平成17年から地域の事業所を訪問・体験する「へぇへぇウォーキング」を企画し、実施している。当初は地域の行事であったものを、近隣の小学校である仙台市立東宮城野小が4年生の総合的な学習の時間において、「へぇへぇウォーキングという弟子入り体験（職場体験活動）として取り入れて、継続的に実施している。卸商センター青年経営研究会は、この活動を継続的に支援しており、コーディネーター役として今年で19年目である。

仙台卸商センター団地内の参加企業のとりまとめや企業向けの説明会、当日の運営補助を実施している。このへぇへぇウォーキングは、年２回実施しており、１回目は仙台七夕を作成している鳴海屋紙商事㈱に４年生全員で職業講話を含めた弟子入り体験を行い、仙台市の小中学生 75,000 人が復興プロジェクトで作成した七夕飾りを分解し、仕分けする仕事を行っている。２回目は少人数のチームに分かれ10件の事業所に分かれて、半日の弟子入り体験を行っている。研究会のメンバーは、発表会にも参加し、子どもたちの学びの成果を共有している。

令和2、3、4年度についても、感染症対策を行いながら、継続的に実施し、子どもたちの豊かな学びの環境づくりに寄与している。東宮城野小学校のブログの中で活動が紹介されており、東宮城野小学校は平成30年度にキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受けている。

以上のように、仙台卸商センター青年経営研究会は、市内の模範となるキャリア教育の活動を継続的・自主的に行っており、コーディネーター役として子どもたちの豊かな学びの体験づくりに欠かせない団体となっている。

＜さいたま市＞（種別：学校）　さいたま市立日進中学校

取 組 概 要

当該校は「生徒のキャリア形成における自己実現に向けて」を研究主題とし、学校を一つの社会として捉え、生徒たちが毎日希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する、生徒の、生徒による、生徒のための学校を実現する取組を続け、自己指導能力の育成に努めてきた。また、将来の予想が困難な複雑で変化の激しい社会の中で、情報機器等の活用能力がこれからの子どもたちに必要な力として捉え、一人一台端末を活用しながら生徒自身が進路やキャリアについて情報を収集したり、資料を作成したりするなど、ＩＣＴ機器の効果的な活用についても研究を続けてきた。

【具体的な取組】

１．さいたま市独自の「キャリア・パスポート」（さいたまキャリアシート）の活用により、自身を見つめ、振り返ることで、生徒の今後の将来設計に役立てている。

２．進路適性検査や「キャリア・パスポート」のアンケートを活用し、生徒一人ひとりの適正を調べ、適切な指導の検証改善を行い、基礎的・汎用的能力の育成に努め、生徒が将来について考える授業場面を意図的・計画的に作っている。

３．ＩＣＴを活用することで、生徒がより主体的に活動に取り組むことができるようにした。また、生徒一人ひとりが自分事として捉えることができるような課題を設定し、話し合い活動を全教科・領域で積極的に授業に取り入れている。

４．職場体験（未来くるワーク体験）の事前学習として、サッカーチーム大宮アルディージャと連携し、現役選手を講師として招聘することで、プロの心構えや仕事の意義をテーマに講演会を実施している。

５．地元企業や地域の「子ども食堂」と連携し、体験を通して生徒一人ひとりが働くことの意義と大切さを学び、将来について考える機会を設定している。

６．「日進スマイル委員会」を構成し、いじめの撲滅をはじめ、学校生活を自分事として捉え、諸課題について生徒自身で解決策を主権者として考えることで、生徒の、生徒による、生徒のための学校に向け、課題解決能力の醸成を図る取組を行っている。

＜さいたま市＞（種別：学校）　さいたま市立柏陽中学校

取 組 概 要

当該校は「主体的に進路を選択できる生徒の育成」を研究主題とし、「ＳＤＧｓをとおして、将来ありたい自分の姿を考える」を副題に掲げ、３年間を通した全体計画を作成するなど、生徒一人ひとりに主体的に学び、自らの意志と責任で進路を選択することができる力をはぐくんできた。また、ＳＤＧｓ達成年の２０３０年の自分や世界について想像しながら、将来ありたい自分の姿からバックキャスティングし、働き方・生き方について自分なりの幸せの価値観を考える活動が行われており、その中で「将来設計能力」を高め、進路選択に活かしていくことができるよう、生徒のキャリア形成を図っている。

【具体的な取組】

１．「我ら地球調査隊」

かつて不法投棄が行われていた埼玉県入間郡三芳町の三富今昔村にて校外学習を実施し、産業廃棄物と循環、自然について学ぶ学習を行っている。また、世界各国の現状と課題やＳＤＧｓの取組について調べ、発表する活動を実施し、世界の実情を自分事として捉え、学ぶこと・働くことの意義と自分自身の生き方との関わりについて考える活動を行っている。

２．「地球ワーカー調査隊」

ＳＤＧｓ自己の将来に向けての第一歩として、ＳＤＧｓに係る職業を調べる活動を行っている。様々な職業がＳＤＧｓの目標達成に向けて、どのように取り組んでいるのか、どのように関わっているか考える活動を通して、勤労観や職業観をはぐくんでいる。

３．「未来夢ロード」

２学年、３学年を通した進路指導・キャリア教育に関わる取組を「未来夢ロード」と題し、２学年では、職場体験や進路講演会を実施し、２０３０年の自分を想像しながら、社会の中でよりよく生きる幸せについて考え、働く自分や上級学校について調べる取組を実施している。３学年では、ＳＤＧｓの目標達成に向けたアクションプランを考えたり、地域や企業が行うアクションプランについて調査する活動を実施し、「花咲く未来拓く道」と題して３年間のＳＤＧｓや進路に関する取組を振り返って論文を作成し、プレゼンテーションを行う活動を実施している

＜川崎市＞（種別：学校）　川崎市立虹ヶ丘小学校

取 組 概 要

川崎市立虹ヶ丘小学校は、本市の「キャリア在り方生き方教育」の実施が始まった平成28年度より校内研究の柱に、授業を中心とした基礎的・汎用的能力の育成を位置付けて取り組んでいる。研究テーマを「一歩ふみ出し関わり合いを通して　輝く子の育成　～キャリア在り方生き方教育を通して子どもの自己有用感を高める指導～」とした実践は学校の特色を生かした取組として本市において好事例となっている。

○全教職員の参画によるカリキュラム・マネジメントの充実

児童に身に付けさせたい力を基礎的・汎用的能力に基づき明確に設定している。また、身に付けさせたい力を育てる段階を可視化するために「一歩踏み出すシート」という学校独自のシートを活用し共通理解を図っている。校内研究の場を、定期的に児童に必要な力を見直し、改善の方向性を確認することに活用するなど、日常的な実践を支える運営体制を整え、カリキュラム・マネジメントの充実につなげている。

○学校の特色を生かしたキャリア教育の推進

小規模校の強みを生かし、人間関係に変化と活力が与えられるよう、全校児童での行事を実施し、学年に応じた役割を担う中で各段階に応じたキャリア発達を促している。同時に、活動がより効果的なものになるよう豊かな人間関係づくりに向けて「あたたかな聴き方・やさしい話し方」の日常的な指導を教育活動の土台とし

ている。また、地域素材にも着目し、地域の環境をよりよくする活動に取り組み、地域に根差した人材育成を目指している。

○「キャリア・パスポート」の活用の充実

「キャリア・パスポート」活用の年間計画を立て、身に付けさせたい力に対する振り返りを意図的・計画的に行っている。教師が丁寧に対話をすることで、児童の自己に対する理解の深まりが見られている。また、教師や保護者のコメントを読む機会を積極的に設け、児童が多くの他者から認められていることを実感できるようにすることで、自己有用感の高まりにつなげている。

＜川崎市＞（種別：学校）　川崎市立宮内中学校

取 組 概 要

川崎市立宮内中学校は、令和４年度に本市のキャリア在り方生き方教育研究推進校として、「自己を見つめ、一歩踏み出す生徒の育成　～やりたいことをやりたいと言えるために～」を研究テーマに設定し、今年度も積極的に推進している。

〇生徒の実態に即した全校を挙げてのキャリア教育

学校の現状把握を、生徒の実態や地域の強み等の視点から整理し、課題を掘り下げることで、キャリア教育の目標を明確にしている。生徒に身に付けさせたい力を「仲間や地域との関わり合いを通じて、自分の中に大切にしたいことに気付き、自分、仲間、地域に誇りをもって、自ら歩むことのできる生徒」とし、必要な教育活動を意図的・計画的に位置付け、全教職員の共通理解のもと実践している。

〇地元のNPO法人・企業と連携した教育活動

地域の防災マップの作成や清掃活動など、様々な視点から地域を見つめ、関わり、学びを深めている。２年生は、第７回キャリア教育アワードを受賞している地元のNPO法人キーパーソン２１や地元企業の富士通と連携して学習を進めている。自分自身の興味関心を見つめ直し、それを周りの生徒や地域の大人から認められることで自己理解を深めている。更に、地域をよりよくするためにできることを考え、地域の方に提案する活動を行うことで、社会の一員としての自覚の芽生えや、郷土愛の醸成につなげている。

〇社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメント

令和５年度は、昨年度の取組を生かし、改善しながら教育活動に取り組んでいる。特に、生徒自身が自分の成長を振り返り、見通しをもって生活を送れるよう、「キャリア・パスポート」の活用に力を入れ、保護者との連携の在り方についても研究をしている。地域と連携した取組では、生徒がさらに実社会に関わっていくことができるよう、社会課題に向き合う場面を計画するなど、より社会に開かれた教育課程の実現を目指し改善し続けている。

＜静岡市＞（種別：学校）　静岡市立安倍川中学校・静岡市立田町小学校・静岡市立駒形小学校

取 組 概 要

１　取組の概要

（１）２小１中で学校教育目標を「未来（あす）をきりひらく子」として９年間の一貫した小中一貫教育を展開している。

（２）小中一貫教育の軸となる取組として、「キャリア形成カリキュラム」を位置づけ、３校で系統的、協働的な取組を進めている。

（３）９年間を通してめざす子ども像を「安倍川プライド」として３つの姿に示し、学校、地域、保護者で共有し、子どもたちのキャリア形成を進めている。

２　主な取組

（１）めざす子ども像に迫るための「キャリアプラン」として、めざす子ども像「安倍川プライド」を、８つの事柄における具体的なゴールイメージ（中３の姿）として共有した。

（２）「キャリアプラン」に向けた実践を進めるために「プロジェクトマップ」を作成。「学習」「生活科・総合的な学習」「生活」「特別活動」の４つの場面において、前期（小１～３）、中期（小４～６）、後期（中１～３）の３ステップでの具体的な目標を設定した。

（３）「プロジェクトマップ」をもとに、３校が特色を活かした活動や学びを展開した。

【地域貢献を目指す職業体験】（安倍川中）

・学区内の商店街での職場体験学習

・学区内の幼稚園での職場体験学習

・地域の方との防災、職業人を招いた職業講話、金融に関する取組　等

【主体性や人間関係調整力、社会性を育む取組】

・「ふちゃまる」（３校合同キャラクター）と一緒にあいさつ運動（駒形小）

・学区内公園の安心・安全な利用法を提案する等、地域参画への取組（田町小）

・３校合同行事「安倍川もちの日」の企画参加（安倍川中・駒形小・田町小）

＜浜松市＞（種別：学校）　浜松市立東小学校

取 組 概 要

１　系統的・組織的なキャリア教育の実践

学校教育目標「やさしさ　元気　夢いっぱい」の具現に向け、平成30年度からキャリア教育の推進に力を入れて教育活動を行ってきた。目指す子供の姿として「『やってみたい』と考え、動く子」を掲げ、キャリア教育で「東小の子供たちに身に付けさせたい基礎的・汎用的能力」を地域や児童の実態に即して具体的に提示し、教育活動全体を通じて基礎的・汎用的能力（「見つめる力」「かかわる力」「挑戦する力」「つなげる力」）を意識付けてキャリア教育を展開している。また、特別活動、総合的な学習の時間、生活科を中心として、教科学習とのつながりを考えながら系統的・組織的な学びを展開することを目指し、キャリア教育の視点で年間指導計画を作成し、評価・検証・改善を繰り返し行っている。さらに、今年度の重点「見つめる力」と「かかわる力」の育成に直接アプローチするものとして、全校で「ピア・サポート活動」を計画的に実施している。

２　学校運営協議会や保護者との連携

本校では、令和４年度から学校運営協議会を立ち上げた。キャリア教育が学校、家庭、地域の区別なく生活全般において展開されるものと捉え、学校運営協議会では、「キャリア教育を生かした特色ある学校づくり」について、地域・大学・保護者等の立場からどのように関われるかを当事者として熟議している。児童の教育活動の様子を参観し、様々な地域人材を活用して体験活動の充実につなげている。また、「キャリア・パスポート」を保護者とも共有し、子供の成長を促すようにしている。さらに、学校だよりやコミュニティ・スクールだよりを地域住民へ回覧するなどして学校の取組について情報共有している。

３　地域と共に地域課題解決を図る活動の充実

キャリア教育の視点で自己の生き方を考える「ひがし学習」（生活科・総合的な学習の時間）では、６年間を通して「地域素材を活かすこと」をテーマとし、様々な体験学習や探究的な学習を行っている。この学習を通し、地域を知り、地域の良さや誇りを感じ、地域課題の解決に向けて自分の考えを持ち、自己の生き方に生かすことと、将来、地域社会を担う人材を育成することをねらいとしている。

＜１・２年生＞地域を知る。（１年生　公園探検、２年生　商店・公共施設・大学等の探検）

＜３年生＞地域の良さや課題について考え、自分にできることを考える。（自治会長や地域の方の講話）

＜４年生＞誰もが暮らしやすい町について考える。（ユニバーサルデザイン、福祉や防災に関する体験学習）

＜５年生＞「匠」の思いに触れ、自己の生き方について考え、夢に向かって努力しようとする。

（伝統産業に関わる「匠」の講話やものづくり体験）

＜６年生＞自己の生き方について考え、夢に向かって努力しようとする。
（歴史・仕事・まちづくりに関わる人の願いを理解し、未来のまちづくりを考えて地域に発信する。）

上記のように、目指す子供の姿を学校・家庭・地域と共有し、連携・協働によるキャリア教育を実践している。子供たちが多様な人との関わりを通して経験し、社会的・職業的自立に向けた学びを積み重ね、生き方の基礎を培っている。

【ホームページ】https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/higashi-e/

＜浜松市＞（種別：学校）　浜松市立東部中学校

取 組 概 要

１ キャリア教育を学校の教育活動の核として位置付け、基礎的・汎用的能力を明確にして活動を展開
基礎的・汎用的能力を『わたしたちに必要な４つの力』として明示し、生徒と教員、保護者や地域企業等と共有している。教科や教科外活動など教育活動全体を通して、今の学びが将来の職業や生活につながっていることを生徒に実感させながら、必要な４つの力を育んでいる。また、キャリア教育アンケート(年２回)を活用し、評価・改善を図っている。

２ 「総合的な学習の時間」を核としたキャリア教育の推進
第２学年の総合的な学習の時間では、「地域探究プログラム」を導入し、地元企業との連携により、大人と生徒が深く対話的に学び合い、企業のリソースと地元のリソースを掛け合わせ、地域の未来を描く学習を実施している。

３ 学校運営協議会・同窓会組織を活用し、地元企業と連携したキャリア教育
学校運営協議会や東部中同窓会組織が『わたしたちに必要な４つの力』を共有し、「全校キャリア講座」「職場インタビュー」「職場体験学習」を実施している。生徒が地元のよさを知り、地元の企業から学ぶ活動を展開している。

○１年生　【地域探索】地域を見つめる
地域のよさや自慢を見つけ出し、未来に残したい魅力を探る。その際、地域の企業・事業所を訪問し、インタビューする活動を実施している。
○２年生　【職場体験学習】職業について学び、地域のリソースを活用して未来を創造する
これまでの職場体験学習の目的を「地域探究プログラム」と連動させ、自分たちの暮らす地域の新しい可能性を発見し、地域をよりよくするためにイノベーションを起こしていく探究活動を実施している。
○全学年　【全校キャリア講座】職業や講師の生き方を学ぶと共に、地域の未来を考える
全校生徒を異学年混合のグループに分けて、地元の企業・事業所の方から講話を聞いたり体験活動を行ったりしている。職業への理解や将来の自己のよりよい生き方を学ぶと共に、地元への理解・愛着を育み、地域のよさや課題に気付くことができる。
○その他　放課後学習支援「東中塾」講師も学校運営協議会を活用して実施している。

【ホームページ】https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/tobu-j/

＜京都市＞（種別：学校）　京都市立朱雀中学校

取 組 概 要

京都市立朱雀中学校は、学校教育目標「実社会に生かせる課題解決力と、人と交わるコミュニケーション力をもち、自分の未来を創造する生徒を育てる」の実現に向け、総合的な学習の時間「朱雀ヒューマンタイム」を基軸に、「将来の夢」・「職業」・「働くこと」・「進路選択」など自分の生き方を探究するキャリア教育を学びの要として位置づけ、社会の最前線で活躍する多様な方々と共に創る教育活動を組織的・系統的に実践している。

例えば、京都で活躍する若手経営者等で構成され、社会課題の解決に挑戦する若者を支援する団体「U35－KYOTO」（以下、「U35」という。）と連携した「朱雀探究学習」（令和３～４年度に実施）は、持続可能な未来社会の担い手として自分たちが望む「京都のまち」を創っていく意欲・態度の育成を目指し、生徒の実態や教科学習の内容等も踏まえつつ、生徒の考えを引き出す効果的な問いやワークシートのあり方などについて企画段階から教職員とU35とが対話を重ね、共同で開発・実施した学習プログラムである。このプログラムでは、まず、「自分が大切にしたいこと」を追求し、SDGsに対照させながら社会課題と結びつけ、「2030年の京都をどんなまちにしたいか、そのためにどんなアクションをとりたいか」について主体的に考えを深める事前学習を行い、次に、自分が設定した課題ごとに編成されたグループに分かれて、U35に属する若手経営者等との未来志向の対話に臨み、最後に、それまでの学びを振り返り、ポスター形式にまとめてプレゼンテーションを行う。

生徒にとっては、若手経営者等が理想とする社会の姿や、その実現に向けて、エネルギー・食・障害者支援など様々な社会課題に挑戦する具体的行動に触れることで、「誰かのために何かしたいと思って行動することで、人の助けになり、人を笑顔にできること」、「個性を大事にして、自信をもってやりたいことをあきらめずにやること」などを実感し、視野を広げながら、「まちに対する思い」や「働く意味」等を自分事として深く考える契機となっている。

以上の取組は、「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」を学校教育における目指す子ども像に掲げ、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市教育の推進に大きく寄与している。

＜大阪市＞（種別：学校）　大阪市立野田中学校

取 組 概 要

【学校の概要】

創立以来、70年を超える歴史を歩む中で、地域に支えられた生徒の素直さ、純粋さを伝統とともに受け継ぎ、校訓である「自主・協調・友愛」の精神のもと、生徒が自らに誇りを持ち、「生きる力」を備えた心豊かな人間の育成をめざしている。安全で安心な教育環境の充実に努めるとともに、子どもたちの「豊かな心・確かな学力・健やかな体」を育成するため、様々な体験を通して自分自身を見つめ、他者と関わり、未来を創造する機会を大切にしている。

【大阪市立野田中学校のキャリア教育の特長～自ら考え行動できる人間に～】

教育活動の様々な場面における生徒の受動的な姿勢からの脱却を課題とし、主体的・能動的に取り組む姿勢を育成すべく平成27年度からキャリア教育を通じて「生徒一人ひとりが、固定概念にとらわえることなく自ら考え行動できる人間として成長すること」を目標に、生徒の在学期間である３年間で、課題解決学習型を基盤とした体系的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。

【主な取組内容】

〇第１学年　地域連携型キャリア教育プログラム

クライアントである地元企業や区役所から「課題＝ミッション」の提示を受け、ミッションの達成（課題の解決）に向けて、グループワークや中間プレゼンでのクライアントからの新たな課題の指摘や助言等を経て最終プレゼンに至っている。その過程で、協働・課題解決型の学習により、事業アイデアの検討や地域課題の解

決等に取り組む中で、コミュニケーションの大切さや主体的な思考や行動につながる基盤となる力の育成を図っている。
○第２学年　探究型教材学習
　第１学年での学びをより深化させ、探究型教材を用いて、テーマごとに「ゼロから１を生み出す」協働学習を行っている。
○第３学年　探究型教材学習をベースとした進路学習
　第２学年で使用した探究型教材を活用した「気づく力・発案する力・実現する力」の育成を進路学習につなげ、自らの可能性に気づき、未来を切り拓く進路選択をめざしている。

　野田中学校では、こうした取組を年々改善・充実させ、生徒に対して自分の考えを実現できる自信を身につけさせ、学習や生活など様々な局面での主体性や積極性の向上につなげている。また、学校と地域社会とのより良い関係を深め、地域を担う人材の育成にも資するものとなっている。

【ホームページ】
地域とともに主体性のある子どもを育てる「大阪市立野田中学校」の今とこれから - COMPASSPORT（コンパスポート） - 子どもたちの未来を共に考える「教育」の情報サイト（nikke-school.jp）
　URL：https://nikke-school.jp/compassport/diary/285/

生徒主体で制服×SDGs の可能性を考える「課題解決学習」大阪市立野田中学校 - COMPASSPORT（コンパスポート） - 子どもたちの未来を共に考える「教育」の情報サイト（nikke-school.jp）
　URL: https://nikke-school.jp/compassport/esd/265/

＜大阪市＞（種別：学校）　大阪市立大宮中学校

取 組 概 要

【学校の概要】
　創立以来、教育目標として、自己実現をめざす教育活動の創造「自分探しのできる学校」を掲げ、目標達成に向けて生徒に寄り添い、命の大切さや人権について考える機会を大切にしながら教育活動を推進している。規範意識の向上や授業規律の定着を大切にした集団育成にも継続して取り組んでいる。また PTA や地域との連携活動を大切にし、地域・PTA に守り育てられながら発展を遂げてきた。令和９(2027)年度に迎える創立 80 周年をめざし、一層地域との信頼関係を深め、子どもたちがいきいきと学ぶことのできる学校をめざしている。

【大阪市立大宮中学校のキャリア教育の特長～すべての子どもたちが目標へ向かって歩みはじめる～】
　人権教育を基盤とし、互いに認め合い高め合える集団の育成、生徒が安心して学べる学校づくりを進めている。しかし近年、学校選択制により生徒の流出が年々進み、学力向上や協働的な学びの充実が大きな課題となっている。こうした背景から、生徒一人ひとりが達成感を味わい自信をつけていく教育活動や自己実現につながる進路指導、自己有用感を高め生きる力を育む取組を推進するため、キャリア教育を学校のグランドデザインの中核に据え、様々な教育活動を通して生徒が自らの役割の価値や自分との関係を見出し、社会的な自立に向けた必要な能力を養うべく、校長のリーダーシップのもと全教職員が協力して組織的・計画的なアプローチを進めている。

【主な取組内容】
○地域間交流活動
　第１学年では、英語の授業で、島根県隠岐の島の中学校と生徒間でオンライン交流を行い、互いに異なる生活環境、風土文化に触れ、他者を理解するとともに、地元への愛着や誇りを育む機会を設けている。
○異校種間連携
　第２学年では、技術の授業で、プログラミングに関する専門的な知識や技術を持つ区内の大学教員がプログラミングの出前授業を区役所と連携して実施している。

○家庭・地域等との連携・協働

日ごろ、ボランティアで生徒の登下校の見守りをしてくださっている地域の方に、職場体験学習や職業講話等の講師についても依頼することで、学校と地元地域双方の活性化を図っている。今年度は校区周辺地域の21事業所の協力を得て、第２学年を対象にチャレンジワーキング（職場体験）を実施したり、地元の和菓子屋の店主に講師を依頼し、和菓子作り体験教室を開催したりすることで、体験を通じて働くことの意義を理解し生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成に努めている。

大宮中学校では、生徒たちの将来に向けたキャリアの構築を、地域社会との連携を基盤に行っている。キャリア教育を学校のグランドデザインの中核に据えて、学校を取り巻く様々な課題の解決を図るとともに、生徒の将来を見通した社会的な自立に向けた能力の育成に向けて、校長のリーダーシップとマネジメントのもと取組を進めている。

＜広島市＞（種別：学校）　広島市立阿戸小中一貫教育校

取 組 概 要

本校は、「自ら考える・敬い愛する・たくましい　子どもを育てる」～自立して生きていくための確かな３つの力（学力・心力・体力）と社会に通用する資質を身に付け、故郷を愛し、故郷に貢献できる生徒～を学校教育目標に掲げ、小中一貫教育校の強みを生かし、９年間を一体的に捉えた学習を行っている。特に、阿戸のまちぐるみ教育協議会と連携し、阿戸認定こども園との合同行事や地域人材を活用した体験活動など、他校種、地域と連携を図った組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。

①　ふるさと未来科の実施

阿戸の町に関する横断的・総合的な学習を９年間行うことで組織的・系統的な学習を推進している。

小学校１年から小学校４年生では、阿戸について知り、愛着を持つことができるように、「町探検」や「阿戸のお祭りを調べよう」などの学習を行い、小学校５年生から中学校１年生では、特色や課題から、阿戸について見直すことができるように、「阿戸の特産物を見つけ、育てよう」や「３０年後の阿戸を考えよう」の学習を行い、中学校２年生では、阿戸を通して、自分の将来や生き方について考えることができるように、職場体験（農業体験）や修学旅行の取組を通して職業観や地域の違いについて学習を行っている。中学校３年生では、区役所の職員や地域の方たちを招いて、阿戸で育った良さを活かして、一人一人が自分の夢や目標を語る「阿戸提言」を行っている。

②　他校種や地域との連携

阿戸のまちぐるみ教育協議会と連携し、阿戸認定こども園・阿戸小学校・阿戸中学校の教育全体計画や身に付けよう十の約束を作成し、４つの隊（ふれあい隊、くらし隊、ふるさと隊、サポート隊）で阿戸の子どもをサポートし、連続性を大切にした１５年間の保育・教育活動を推進している。

③　地域人材を活用した体験活動の実施

小学校３年生では地域の方から、とんど祭りや秋祭りについて学習したり、小学校４年生では地元に流れる川に生息するホタルのことを公民館と連携し学習したりしている。また、中学校１年生では包括センターと協力し高齢者体験を行ったり、中学校２年生の職場体験では地元の農家で農業体験を実施したりしている。体験後には農家の方を招いて学んだことの発表会も行っている。中学校３年生では、社会福祉協議会と連携し、高齢者との交流会を実施したり、JA の方や地元の方に協力いただき、土づくりや農法を学び、実際に野菜作りを体験したりしている。

このように、地域と学校が一体となった取組を通して、課題対応能力やキャリアプランニング能力の育成を図っている。

＜福岡市＞（種別：学校）　福岡市立弥永小学校

取 組 概 要

【取組概要】

福岡市教育委員会では、各学校における組織的・計画的な授業改善を行うため、１０校のモデル校を指定し、令和４・５年度、研究発表会の開催や教育委員会による研究大会を開催している。福岡市立弥永小学校は、福岡市授業改善推進モデル校としてキャリア教育の推進に取り組んでおり、好事例を市内の学校に発信している実績がある。

【取組みの実際】

研究主題
自尊感情を高め、自分の明るい未来を想像できるキャリア教育の推進
～目的や発達段階に応じて、外部人材等を活用しながら
教科横断的な視点で編成するカリキュラム作成を通して～

〇研究の実際

（1）キャリア教育目標の設定

まず、子どもの実態からめざす子どもの姿を洗い出し、各学年の発達段階に応じて整理した。そして、集約しためざす子どもの姿を各学年のめざす姿として発達段階を意識しながら再構成し、キャリア教育目標を設定した。

子どもたちに「キャリア教育目標＝身につけさせたい力」を意識させるため、それぞれの目標のイメージキャラクターとして、本校のめざす児童像を表したキャラクターである弥永ライダーを使用した。

（2）キャリア教育カリキュラム作成

キャリア教育カリキュラム作成は、学年単位で作成し、交流を通して完成させた。作成にあたって、まず、総合的な学習の時間、生活科、行事などの核となる教科（主単元）を決め、関連させる教科、道徳、学活等を位置づけた。そして、各単元で実施できそうな具体的な活動やGT招聘、体験活動などを考え、学習の順序性や相互関係を矢印等で示した。そして、完成したキャリア教育カリキュラムを子どもたちに提示することで、学びが繋がっていることや各教科のねらいを意識付けた。

（3）高等学校・大学との連携

高校生、大学生との交流を通じ、夢に向かって学ぶことの楽しさを知るなど、ロールモデルとの出会いを創出。高校生からSNS発信の方法や商品開発のノウハウを学び、実践してみる、などの活動に取り組んでいる。

（4）地域の企業や福岡市出身の起業家との出会い

地域のスーパーマーケットとの継続した連携のもと、児童が商品開発にチャレンジするなど、社会の仕組みや労働について学ぶとともに、地元出身の起業家からの講話を受け、児童が夢や希望を持ち、チャレンジする意欲を高める活動を行っている。